

<b>科目名</b>	保育原理	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
<b>担当教員</b>	山上 裕子			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	本科目は、保育を学ぶための入門にあたる。生涯にわたる人格形成の基礎を培う保育は、どのような基本を踏まえて活動を行うのか。保育の思想や歴史を踏まえ、保育の必要性、国施策にみる保育の基本、保育の目標や方法などについて取りあげる。授業では、随時、グループ・ワークによる学びを取り入れる。			
<b>達成目標</b>	①保育の意義を理解できたか。 ②「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の法的位置づけや保育の基本を理解できたか。 ③保育の思想と歴史について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者。	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度（30点）、レポート（30点）	授業内試験（40点）
<b>教科書</b>	・西村望編『教育原理』みらい社、2018年。			
<b>参考書</b>	・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省） ・「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省） ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）			
<b>学生への要望</b>	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。 欠席、遅刻はしないようにすること。			
<b>オフィスタイム</b>	木曜日：14：30～16：00 金曜日：14：30～16：00 833研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育のイメージをする。	30
2	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。	60
3	保育の意義	ヒトから人間への成長において、未熟ではあるが、子どもには独自の世界があるという子ども観を知り、保育の意義を考える。	60
4	保育とは何か	「保」「育」の言葉を手がかりにして、日本語の語源や西洋で保育にあたる言葉を知り、「育む」ことの意味を考える。これまでの授業で感じたこと、考えたことをまとめる。	30
5	養護と教育	養護と教育の関係を中心にして、環境をとおした保育、発達の視点などについて、「保育所保育指針」を踏まえて学ぶ。また、子ども・子育て支援制度を知り、保育施設と家庭との関係を学ぶ。	60
6	「保育所保育指針」における保育の基本	社会からの要請を受けて改訂された「保育所保育指針」の法的位置づけや、ねらい及び内容について学ぶ。	60
7	「幼稚園教育要領」における保育の基本	「幼稚園教育要領」の法的位置づけや、ねらい及び内容を、「保育所保育指針」と比較しながら学ぶ。	60
8	保育の目標	小学校就学までに何を育んだらよいのか。10のねらいを知り、保育活動の留意点や計画を立てていくための基本を学ぶ。	60
9	西洋と日本の子ども観	中世から近代にかけての西洋の子ども観の変遷をたどるとともに、日本では子どもを善とみる見方があったことを知る。	60
10	日本の保育思想と歴史	江戸時代から明治期にかけて各地に設立された、保育所や子守学校について学ぶ。	60
11	日本で初めての幼稚園	東京師範学校附属幼稚園のはじまりについて学ぶ。	60
12	倉橋惣三の保育論	東京師範学校附属幼稚園の改革をし、今日の日本の保育を切り開いた倉橋について、彼の保育への情熱や誘導保育論などを学ぶ。	60
13	倉橋惣三の保育思想	『育ての心』や『幼稚園雑草』を読み、感想を出し合い、保育のあるべき姿を考えまとめる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	外国の保育の現状と課題	アメリカでの就学前の政策について知り、ヘッドスタート政策以降、過剰な教育への見直しが進められていることを学ぶ。	アメリカ社会について、イメージがもてるように情報を獲得する。これまで学んだことの整理をする。 90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、授業内試験とおして確認し、解説を受ける。	試験に備えて準備を進め、理解が不足しているものは解説を受けて補う。 60

<b>科目名</b>	保育原理Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	柴田 卓		
<b>開講期</b>	Ⅳ		
<b>授業概要</b>	〔授業の目的・ねらい〕 保育者としての専門性を高めるために、国内外の事例を提示し、保育者としての視点を養います。また、保育における今日の課題を発見し、その背景や解決方法について考察します。全15回を通して、学び続ける保育者としての態度を養います。		
<b>達成目標</b>	1) 世界の保育内容とその方法について理解する。 2) 子どもの権利・子ども観について理解する 3) 国内外の保育環境について理解する。 4) 日本における保育の現状と課題について理解する。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	ポートフォリオ40点 課題発表50点 平常点10点
<b>教科書</b>	プリントを配布します。		
<b>参考書</b>	喜多明人他著、イラスト版子どもの権利 子どもとマスターする50の権利学習、合同出版、2006 OECD編著、OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア( E C E C )の国際比較、明石書店、2011		
<b>学生への要望</b>	①自身の考えを整理し、積極的に質問・発言を行きましょう。 ②予習・復習を行い、学びを深めてください。 ③毎回、パソコンを持参してください。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日14時～16時 金曜日14時～16時 824研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明 評価方法の説明	事後学習として、子どもの権利に関連する文献を調べる。
2	子どもの権利条約①	OECD保育白書から子どもの権利について考える。	事後学習として、子どもの権利における日本の現状や世界の動向について、各自で調べてポートフォリオにまとめる。
3	子どもの権利条約②	フィンランドの保育現場における子どもの権利について事例をもとに考察する。	事後学習として、子どもの権利における日本の現状や世界の動向について、各自で調べてポートフォリオにまとめる。
4	子どもの権利条約③	ヤヌシュ・コルチャックの人物像とその子ども観を考察する(絵本・DVDから)。	事後学習として、ヤヌシュコルチャックの言葉から子ども理解について、各自ポートフォリオにまとめる。
5	子どもの権利条約④	ヤヌシュ・コルチャック(DVD)、子どもの権利条約から自身の子ども観について整理する。	事後学習として、ヤヌシュコルチャックの言葉から子ども理解について、各自ポートフォリオにまとめる。
6	海外の保育実践 ニュージーランド	ニュージーランドの事例から、学びの物語とテファリキ(文献)について理解する。	事後学習として、分担された学びの物語の文献を読みポートフォリオにまとめる。
7	海外の保育実践 ニュージーランド	ニュージーランドの事例から、学びの物語とテファリキ(文献)について理解する。	事後学習として、学びの物語について、自分なりにポートフォリオにまとめる。
8	海外の保育実践 イタリア	イタリアの実践、レッジョ・エミリアのプロジェクト保育(文献)について理解する。	事後学習として、分担されたレッジョアプローチの文献を読みポートフォリオにまとめる。
9	海外の保育実践 イタリア	イタリアの実践、レッジョ・エミリアのプロジェクト保育(文献)について理解する。	事後学習として、レッジョアプローチについて、自分なりにポートフォリオにまとめる。
10	海外の保育実践 フランス	対話をキーワードにフランスの保育実践(DVD)から、保育内容について考察する。	事後学習として、フランスの実践に関する感想をポートフォリオに整理する。
11	海外の保育実践 フランス	対話をキーワードにフランスの保育実践(DVD)から、保育内容について考察する。	事後学習として、哲学や対話と保育に関して、自分なりの考えをポートフォリオにまとめる。
12	グループワーク①	「質の高い保育」とは何か、国内外の優れた保育事例を調査する。	事後学習として、事業で取り上げた実践を踏まえ、保育の質について、自分なりにポートフォリオにまとめる。
13	グループワーク②	調査した内容を整理し、パワーポイント等でまとめる。	事前学習として、パワーポイントの操作方法を理解する。
14	グループワーク③	調査した内容を整理し、パワーポイント等でまとめる。	事後学習として、調査した内容をパワーポイントにまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	グループワーク④ まとめ	まとめた内容をプレゼンテーションし、お互いに評価し合う。	事後学習として、授業で学習した内容を振り返り、感想をポートフォリオにまとめる。 30

<b>科目名</b>	教育原理	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	山上 裕子			
<b>開講期</b>	Ⅱ			
<b>授業概要</b>	教育とはどのような行為をいうのか。人が成長していくために、教育は何ができるのか。本科目は、教え、学ぶ行為を考えていくための基礎を学ぶ科目である。授業では、近代学校教育制度の始まりとその時代背景、さまざまな教育実践、思想を時代の経過をたどりつつ講義する。また、安全な場である教育現場において、事故が発生している実態やその対策についてリスクの考え方を取りあげる。講義は、実物投影機や教材を使用した活動を適宜取り入れる。また、読書レポートを課し、教育を深く考える機会を設ける。			
<b>達成目標</b>	①近代学校教育制度の成立について、その社会的背景を捉えて理解できたか。 ②代表的な教育思想と実践について理解できたか。 ③保育事故を踏まえ、安全教育の重要性について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	<b>成績評価 方法</b>	授業内試験（40%）、レポート（30%）、授業参加度（30%）	
<b>教科書</b>	・西村望編『教育原理』みらい社、2018年。			
<b>参考書</b>	・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省） ・「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省） ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）			
<b>学生への要望</b>	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。 欠席、遅刻をしないよう注意すること。			
<b>オフィスタイトム</b>	木曜日：14：30～16：00 金曜日：12：50～14：20 833研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。真の知識とは何か。生涯学習社会において求められる乳幼児期の学びを考える。	30
2	教育の目的と意義	人類の歴史とともにある教育的行為の諸要素を知り、「日本国憲法」や「教育基本法」などをとおして教育の目的について考える。また、人間観や子ども観、教える内容、社会的状況との関連にあることを学ぶ。	60
3	近代学校教育制度の始まり	今日の学校教育制度は、近代と呼ばれる時代に誕生した。イギリス産業革命期において、児童労働が問題となり、子どもを保護するために政府によって制定された「工場法」により初等教育の法制化が始まったことを学ぶ。また、工場経営者オウエンによる性格形成学院の実践から環境をととした教育という考え方を学ぶ。	60
4	一斉授業と個別指導	大量の児童を教えるために効率のよい一斉授業が考案された。モニトリアル・システムについて、その長所と短所を考え、グループで意見をまとめる。一方で、自ら思考することをとおして知識を獲得する教育の考えがあったことを学ぶ。	60
5	教科書の登場	英語圏で使用された教科書「ホーン・ブック」やコムニウスの『世界図絵』を知り、教科書の役割を考える。また、コムニウスはなぜ『世界図絵』を作成したのか、その理由を探り、母国語で学ぶことの意味、家庭教育の意義を学ぶ。	60
6	子どもの発見者	子どもから始まる新教育の源流である、ルソーの思想について学ぶ。生まれた時は善であるが、社会によって子どもがゆがめられていくという考えを知り、実際に『エミール』の一節を読んでみる。	60
7	子どもからの教育	現在の理性を働かせて現在の自己を乗り越えていく啓蒙思想を学び、ルソーの消極的教育の思想を理解する。読書をととした深い学びの方法を知る。	60
8	貧民の救済と直観教育	貧民の子どもを救済するために、すべてを教育に捧げたベスタロッチの思想を学ぶ。家庭の居間の雰囲気や道徳教育や直観教育などの実践を、実際に体験することとおして理解する。	60
9	教育機関としての幼稚園	単に子どもを預かるだけでなく、発達を促す場として幼稚園を創設したフレールについて、恩物の体験をととして学ぶ。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	経験主義教育	アメリカプラグマティストのデューイの教育思想を学ぶ。経験をおとした学び、生の素材を使用した実践など、幼児期を含むラボラトリー・スクールの実践をとおして、総合的な学びの内容を考える。	これまで経験してきた問題解決学習について思い出す。
11	問題解決学習	問題解決学習として現在盛んに取り組まれている論理を学ぶ。これまで自身が経験してきた総合的学習の時間を振り返り、問題解決学習について理解を深める。	これまで経験してきた問題解決学習からデューイの理論を確認する。
12	教材の開発	知的障害者の教育のために考案された教具を使用した、モンテッソーリ・メソッドについて学ぶ。教具の目的、教具を使用することによる自己活動の効果を学ぶとともに、実際に教具を経験して理解を深める。現在も、行われている実践であることを学ぶ、	教科書の該当箇所を読む。これまで学んできたことを整理する。
13	保育事故の現状	一向に減少しない保育事故の実態を、内閣府で公開しているデータベースを読むことをとおして知る。教育機関の安全管理の重要性について学ぶ。	実習時に、ヒヤリとしたことを思い出し、何に気をつければよいのかを確認する。
14	安全教育	リスクという言葉の意味を知り、チャレンジ精神を損なうことのない安全教育について学ぶ。子ども自身でリスク・マネジメントができ、そのために問題解決学習が取り入れられていることを知る。現在、行われている実践を知る。	学んできたことを整理し、説明できるように準備する。
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、ノートに整理したことをもとに、授業内試験を受ける。解説を聞き理解を確かめる。	ノートを整理する。

平成31年度

<b>科目名</b>	社会福祉		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	近内 直美			
<b>開講期</b>	Ⅱ			
<b>授業概要</b>	社会福祉学とは何かを考え、人権について知り、権利を守るための法律や制度、行政の仕組みを知り、活用できる知識を持つレポートや発表を通して、意見を述べるができるようになる 地域包括支援センターでの勤務経験を活かし、事例などを交えながら実践に結び付く授業を行う。 実務経験：地域包括支援センター所長（兼務・社会福祉士・主任介護支援専門員）として勤務			
<b>達成目標</b>	①社会福祉の歴史や現状から考え方を学ぶ ②社会福祉の対象者を知る ③社会福祉の法律や制度、行政機関の仕組みを学ぶ			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、課題30%	
<b>教科書</b>	山田美津子・稲葉光彦編「社会福祉を学ぶ」（第4版）（株）みらい 2019年			
<b>参考書</b>	適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	・社会福祉の授業を通して、人と関わることの意味、意義を考えてほしい。 ・社会福祉の制度を活用できるよう意識して学んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 Ⅱ時限・Ⅲ時限（10：30～12：00、12：50～14：20） 創学館4F 研究室No.6			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	福祉ってなんだろうかを考える。 社会福祉の概要を知る。	・社会福祉とは何かを復習する	30
2	社会福祉へのみちびき	私たちの生活と社会福祉について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
3	社会福祉のあゆみ	日本の社会福祉のあゆみについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
4	改革期の社会福祉	少子高齢化社会の進展と社会福祉基礎構造改革について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
5	社会福祉のしくみ	社会福祉の法体系と行財政について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
6	生活保護	生活保護制度の仕組みについて理解する。	・テキストで予習を行う ・課題を行う（社会福祉の制度について）	90
7	子どもと家庭の福祉	子ども家庭福祉サービスと仕組みについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
8	高齢者の福祉1	高齢者を取り巻く状況について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
9	高齢者の福祉2	介護保険と地域包括ケアシステムについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
10	障がいのある人の福祉1	障がいについての理解を深める。 「障がい者の自立」について課題を提出する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
11	障がいのある人の福祉2	障がいのある人の福祉の基本理念について	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
12	地域の福祉	地域福祉について理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
13	社会福祉の担い手	社会福祉専門職の倫理と資格制度について理解する。	・テキストで予習を行う ・課題を行う（保育士の倫理について）	90
14	社会福祉とソーシャルワーク	ソーシャルワークについて理解する。	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
15	現代社会と社会保障 まとめ	私たちの暮らしと社会保障について理解する。まとめ	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30

<b>科目名</b>	保育者論	<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
<b>担当教員</b>	山上 裕子, 安部 高太郎			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	保育者は、単に子どもが好きというだけでは務まらない。人格形成の基礎を育む一翼を担う公の性格をもつ専門職として、他の職業とは異なるものである。授業では「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえ、現在求められている保育者の仕事内容や役割、倫理、幼稚園教諭及び保育士の資格の制度、チームを組んで保育を行うことの重要性などを取りあげる。講義に際しては、ビデオ視聴やグループ・ワーク、保育情報の収集と情報交換を、随時取り入れていく。			
<b>達成目標</b>	①保育者の意義や役割について理解できたか。 ②保育者の制度的位置づけについて理解できたか。 ③保育者の専門性について理解できたか。 ④協働して保育にあたることの重要性を理解できたか。			
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度（30点）、レポート（30点）、授業内試験（40点）	
<b>教科書</b>	・特に、指定はしない。 ・授業中に、適宜資料を配布する。			
<b>参考書</b>	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ・高橋貴志『これからの保育者論』萌文書林、2017年。 ・秋田喜代美編集代表『保育者論』（第2版）みらい、2013年。			
<b>学生への要望</b>	授業用ノートを用意し、疑問点等のメモをとること。 欠席、遅刻はしないようにすること。			
<b>オフィスタイム</b>	木曜日：14：30～16：00 金曜日：14：30～16：00 833研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。自身の経験等から、保育者の仕事をイメージする。	シラバスを通する。自身の幼児期の頃を思い出したり、家族に聞いたりする。
2	幼稚園教諭の一日	ビデオ視聴をとおして、幼稚園教諭の仕事の流れを知り、保育活動に関わる仕事や保育活動以外の仕事、また保護者対応や同僚との協働など、メモをとるとともに、自身の気づきを整理する。	ノートのメモを整理する。幼児教育に関わる記事を集める。
3	保育士の一日	ビデオ視聴をとおして、保育士の仕事の流れを知り、保育活動に関わる仕事や保育活動以外の仕事、また保護者対応や同僚との協働など、幼稚園との違いを意識して、メモをとるとともに、自身の気づきを整理する。	ノートのメモを整理する。幼児教育に関わる記事を集める。
4	保育者の仕事	ビデオ視聴のメモから、保育者の仕事についてグループで議論し、発表する。グループ・ワークをとおして、保育者の仕事内容は、多様でそれぞれ関連しあっていることを確かめ、保育者の役割とやりがいについて考える。	話し合いができるようにノートのメモを整理する。幼児教育に関わる記事を集める。
5	専門職としての保育者	保育者として勤務するためには、幼稚園教諭免許状、保育士資格の取得が必要である。幼稚園教諭及び保育士の制度的及び社会的な位置づけの変遷を学び、保育者の存在意義を他の職業との違いから理解する。	他の職業と異なる点をまとめる。幼児教育に関わる記事を集める。
6	保育者としての倫理	全国保育士会倫理綱領をもとに、保育者としての職務上の義務を学び、保育者の役割や責務について理解を深める。	倫理要領をよく読む。幼児教育に関わる記事を集める。
7	遊びをとおした保育	保育は、遊びをとおして行われるが、遊びをどう考えたらよいのだろうか。さまざまな遊びに関する説明を知り、遊びの教育的意味を考える。	幼児教育に関わる集めてきた記事を整理し、精選する。
8	保育者に求められていること	これまで収集してきた保育に関する新聞記事等の情報を交換し、現在、保育者に求められている役割について考える。	レポート用紙に記事を貼付け、情報交換できる準備をする。情報交換を整理する。
9	子どもをめぐる生活の変化	生活習慣や生活リズムの崩れ、メディアの過剰な視聴、自然体験の減少、特別な配慮が必要な子どもへの対応、幼児虐待などの近年の変化を学ぶとともに、保育者に求められている役割の変化を理解する。	自身の子どもの頃と現在の子どもをめぐる環境の変化を整理する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	子どもをめぐる社会の変化	保護者とのコミュニケーションの大切さ、子育て支援政策、外国人の増加にともなう異文化理解などの変化について学ぶとともに、保育者に求められている役割の変化を理解する	近年の社会の変化についてノートを整理する。 60
11	保育活動の協働	日々の保育活動は、他の保育者とともにチームを組んで行なうことの大切さを、園内研修や保育事故の事例等から学ぶ。	ノートの整理をする。 60
12	他の組織との連携	子育て支援センターや医療機関、警察署などのさまざまな他の機関と連携をとって園全体が運営されていること、また、幼保小連携の意義について学ぶ。	これまで配布された資料を整理する。 60
13	保育者としての研修	園での研修、市町村での研修、10年ごとの教員免許状更新講習があることを学ぶ。 また、日々の保育活動を振り返る反省的実践家としての成長の視点を学ぶ。	ビデオ視聴で見られた保育者の反省会を振り返るとともに、教員免許状更新について文部科学省のホームページを閲覧する。 60
14	生涯の仕事として	結婚、出産、自身の子育て等、女性の一生には転機がいくつもあるが、悩みつつも乗り越えていく際に支えとなったことや、子どもとともに成長していくことの喜びに気づく。	これまで学んできたことをノートにまとめ、試験に備える。 60
15	まとめ	ノートをもとにして授業内試験を受ける。これまでの理解を確認し、解説を受ける。	ノートを整理し試験に備え、理解できなかったことを復習する。 60

<b>科目名</b>	保育の心理学 I		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	折笠 国康			
<b>開講期</b>	II			
<b>授業概要</b>	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学習し、子どもへの理解を深め好ましい対応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達の過程を見据えながらその特徴について学習する。			
<b>達成目標</b>	①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。 ②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。 ③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。			
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、試験70%で行う。	
<b>教科書</b>	特にしてはしない。授業の時に資料を配布することがある。			
<b>参考書</b>	必要に応じて紹介する。			
<b>学生への要望</b>	講義への協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜 2限 835研究室 水曜 4限 835研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション 保育の基本 勇気づけ理論	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。ほめる・叱るにかかわるアプローチである“勇気づけ”についての基礎理論を理解する。	60
2	保育のための心理学 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。	60
3	保育のための心理学 ー発達心理学ー	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を理解する。	60
4	保育のための心理学 ー保育の目標 ①ー	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	60
5	保育のための心理学 ー保育の目標 ②ー	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	60
6	保育のための心理学 ー保育者の役割 1ー	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	60
7	保育のための心理学 ー運動や遊びの本質ー	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	60
8	保育のための心理学 ー運動や遊びの本質 2ー	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	60
9	保育のための心理学 ー保育者の役割 2ー	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	60
10	保育のための心理学 ー動機づけの理論ー	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理解する。	60
11	保育のための心理学 ー保育者の役割 3ー	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰についての心理学的知見を理解する。	60
12	保育のための心理学 ーアドラー心理学 1ー	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解する。	60
13	保育のための心理学 ーアドラー心理学 2ー	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理論を理解する。	60
14	保育のための心理学 教師のリーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	60
15	本講義のまとめ	テストを実施し、本講義を振り返り保育に関する心理学的視点を復習する。	60

<b>科目名</b>	教育心理学	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	折笠 国康		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。 【		
<b>達成目標</b>	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。
<b>教科書</b>	特に指定はない。		
<b>参考書</b>	講義の中で、適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	講義への協力的な参加を要望する。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜 2限 835研究室 3限 835研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
2	人間の発達 ー発達心理学ー	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。 「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
8	自己とは(6) 自己受容、防衛機制	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。 E. デンの自己決定理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
11	学級のアセスメント 1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
12	学級のアセスメント 2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
13	教師のリーダーシップ 1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
14	教師のリーダーシップ 2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の振り返りを通して教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる

<b>科目名</b>	子どもの保健	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	人間の一生の中における小児期は絶えず発育・発達をしている。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について認識した上で、その対応策についても学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及び、その関係機関との連携についても学ぶ。 [授業の目的・ねらい] 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識を理解し、保育実践現場における保健活動の必要性を理解するとともに予防・事故に対する対応を理解する。		
<b>達成目標</b>	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2)子どもの身体的発育・発達と保健について理解する。 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4)子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験80点・レポート20点
<b>教科書</b>	松田博雄・金森三枝編集『子どもの保健』中央法規 2019年 ※資料を毎回配付		
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
<b>学生への要望</b>	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 V時限 (16:10~17:40) 832研究室 木曜日 I時限 (8:50~10:20) 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2)目的健康の概念と健康指標 3)現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	0
2	子どもの心身の健康と保健の意義 2	1)地域における保健活動と子どもの虐待防止 2)虐待に関する法律と保健活動学ぶ ※虐待に関わる諸統計からみる現状を理解する。更に、これらに対する母子保健の施策や体系、支援を開設する。そして保育者について求められる知識や取組みを考える。	0
3	子どもの身体的発育・発達と保健 1	1)子どもの身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子 2)発達の順序と原始反射 ※発育・発達の目安となる指標を理解し、その発育状態の評価方法をその意義を学ぶ。	0
4	子どもの身体的発育・発達と保健 2	1)子どもの生理機能の発達と保健 ※各器官の生理的機能とその成長過程について理解を深める。	0
5	子どもの身体的発育・発達と保健 3	1)新生児の特徴 2)母と子の心と身体つながり ※新生児の特徴を理解し、母子相互作用等についても学ぶ。	0
6	子どもの心身の健康状態とその把握 1	1)子どもの健康状態の観察 2)心身の不調時の早期発見 3)発育・発達の把握と健康診断 4)保護者との情報共有 ※子どもの健康状態を観察し、表情や行動、しぐさ等も大切な観察点であることを学ぶ。体調不良時に早急に対応をして受診か否かの判断を求められることを理解する。また、保護者との情報共有する大切さを学ぶ。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	感染経路と保健活動	1)感染症と要因 2)感染経路と対策、 3)学校保健安全法施行規則19条について 4)感染症の疑いのある時と発生時の対応 ※感染症の要因と感染経路・対策の基礎的知識を理解し、感染症の疑いのある子どもに対する対応を学ぶ。学校保健安全法にある感染症の種類と登園停止期間を学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)1～30頁をよく読む。 0
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1	1)子どもの代表的な感染症①	課題レポートをまとめる 0
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 2	1)子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器系、血液系)	教科書をよく読み学びを深める 0
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 3	1)子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌系)	教科書をよく読み学びを深める 0
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 4	1)子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉系、感覚器系)	教科書をよく読み学びを深める 0
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応 5	1)子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)	教科書をよく読み学びを深める 0
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 6	1)発熱、脱水、咳嗽、喘鳴の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)72頁、75頁をよく読む。 0
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応 7	1)腹痛、下痢、嘔吐、便秘の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)73～74頁をよく読む。 0
15	子どもの疾病の予防及び適切な対応 8	けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)76頁、関係法規84～93頁をよく読む。 0

<b>科目名</b>	子どもの食と栄養	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	水野 時子, 善方 美千子		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 子どもの食生活や栄養に関する基礎知識、食育の基本と内容について学び、現場で役立つ「食育」の知識を身に付ける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 子どもが健康な食生活を営むために必要な基礎知識を学ぶ。また食育発表会を行うための計画を立て食育研究発表会を行う。</p> <p>担当：第1～3・6～15回 水野・善方 第4・5回 善方</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①子どもの発育と栄養の特性に関する知識が身に付いている。 ②現場で役立つ「食育」の実践力が身に付いている。</p>		
<b>受講資格</b>	特にありません	<b>成績評価 方法</b>	レポート20点、研究ノート30点、テスト50点 60%以上の理解で合格とするが、80%程度の理解を求める。
<b>教科書</b>	授業時に配布するプリント他		
<b>参考書</b>	必要に応じて連絡する。		
<b>学生への要望</b>	子どもの食に関する社会の動きに興味と関心を持ち、常に新しい情報を得るように努力すること。		
<b>オフィスタイム</b>	<p>水野：火曜日12：00～12：30、木曜日12：00～12：30 家政学館3階「No2栄養学研究室」 善方：月曜日12：10～12：50、水曜日12：10～12：50 家政学館1階「No2給食管理研究室」</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	子どもの健康な生活と食生活の意義	子どもにとって食べることの意義、子どもの生活および食生活の現状と課題について学び理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30
2	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育の特徴と、食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活について学び理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30
3	栄養に関する基礎知識 1	食べ物に含まれている栄養素の種類とその働き、「日本人の食事摂取基準2015年版」における小児期栄養の留意点を学び理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30
4	子どもの食生活の理解	子どもの食に関する理解を深めるためにビデオ「3歳児食べるよろこび」を視聴し、食べることを通して親や保護者のかかわり方、また子ども自身の成長を理解する  ≪参考ビデオ「3才児食べるよろこび」≫ レポート：ビデオを通して学んだことについてレポート提出	ビデオを通して学んだことのレポートを作成する。	45
5	食育研究発表会について	9回・10回の授業で行う「食育研究の発表会」に向け食育について理解する。また、グループ発表に向けグループワークを行う。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30
6	栄養に関する基礎知識 2	栄養の特性を理解し、食事摂取基準をもとにした献立作成と食品構成について学び、どのような組み合わせで食べればよいかを理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30
7	食育の基本と内容（1）	食育基本法の基本理念である、食品の安全性の確保と食育の役割、心身の健康の増進と豊かな人間形成、食に関する感謝の念の醸成、食育における保護者・教育関係者の役割等について学び理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30
8	食育の基本と内容（2）	保育所における食育として、保育所で食育を行う意義、月・年齢に応じた食育について学び、保育所・保育士に求められる食育とは何かを理解する。	次回の食育研究の発表会に向けて、グループワークを行い発表内容を完成させる。	45
9	食育研究の発表会（1）	準備した「食育」に関する研究発表会を行う。各グループの発表に対する感想をまとめてレポートにして提出する。  レポート：発表の感想レポート提出	「食育研究の発表会」のレポートを作成する。	30
10	食育研究の発表会（2）	準備した「食育」に関する研究発表会を行う。各グループの発表に対する感想をまとめてレポートにして提出する。  レポート：発表の感想レポート提出	「食育研究の発表会」のレポートを作成する。	30
11	子どもの発育発達と食生活 1 妊娠期・乳児期	胎児の発育や栄養と奇形について学び、妊娠期の健康状態や栄養状態が、胎児の発育に大きく影響することを理解する。また、乳児の食べる機能の変化と栄養補給法（乳汁栄養・離乳）について学び、乳児栄養について理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	子どもの発育発達と食生活 2 乳児期	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。 30
13	子どもの発育発達と食生活 3 学童期	「食習慣の完成期」である学童期の食行動の実態や動向、また学童期の食生活の特徴と学校給食について学び、学童期栄養について理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。 30
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障がいのある子ども、それぞれの配慮を要する子どもへの理解と、食事の対応や栄養について学び理解する。	授業の内容を振り返り、ポイントをノートにまとめる。 30
15	授業のまとめ	「子どもの食と栄養」についてのまとめを行う。	「子どもの食と栄養」で学んだ内容の復習を行う。 45

<b>科目名</b>	教育・保育課程論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山上 裕子, 賀門 康博			
<b>開講期</b>	II			
<b>授業概要</b>	生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育において、幼児期にふさわしい教育・保育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準にした計画を立てられるために必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意義、編成の方法、指導案の作成、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげる。また附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等や保育者の関わりの様子をスライドやビデオなどで示しつつ、具体的な子どもの姿や保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作成のイメージがつくように活動グループ・ワークを行いつつ、現場に直結する力を身につけていく。 実務経験：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務			
<b>達成目標</b>	①教育・保育課程の役割と意義を理解できたか。 ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について理解できたか。 ③教育・保育課程のマネジメントの必要性を理解できたか。			
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度 30% レポート 70%	
<b>教科書</b>	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ・岩崎順子・及川留美・粕谷亘正『教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～』萌文書林、2015年。			
<b>参考書</b>	・その他、授業中に適宜プリントを配布する。			
<b>学生への要望</b>	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
<b>オフィスタイトム</b>	山上 木曜日：14：30～16：00 833研究室 金曜日：12：50～14：20 833研究室 賀門 月～金曜日 10：00～11：30 附属幼稚園応接室 15：00～17：00 附属幼稚園応接室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション (担当：山上 裕子)	・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。	事前にシラバスを確認し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。
2	教育・保育課程とは何か (担当：山上 裕子)	・カリキュラムの発生を知ることとおして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を確認する。
3	教育要領の変遷 (担当：山上 裕子)	・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷をまとめる。
4	教育課程・指導計画の種類 (担当：賀門 康博)	・保育三法令（幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領）について、29年度の改訂版をもとに、それぞれの内容と関連性を話しつつ、「3つの視点（0歳）」「5領域（1～5歳）」「10の姿」などのキーワードを学び、保育の置けるその位置づけを理解する。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる「3つの視点（0歳）」「5領域（1～5歳）」「10の姿」について、語彙等を理解する。
5	子どもの多面的な理解（5領域・10の姿等から） (担当：賀門 康博)	・5領域や10の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。	「5領域」及び「10の姿」といった観点の存在について理解する。
6	指導計画の構成について① (担当：賀門 康博)	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてそれぞれの意味と違いを理解する。
7	指導計画の構成について② (担当：賀門 康博)	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成を考えつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	指導計画作成の実際①（子どもの姿①） （担当：賀門 康博）	・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、「個の理解」と「全体の理解」の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。	子どもの定型的な発達の姿を理解しつつ、各年齢において重要とされる関わりについてポイントを理解する。
9	指導計画作成の実際①（子どもの姿②） （担当：賀門 康博）	・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを理解する。
10	指導計画作成の実際②（ねらい・内容） （担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	子どもの姿をもとにした「ねらい」の立て方について、5領域等の視点を持った考え方のポイントを理解する。
11	指導計画作成の実際③（環境設定・予想される子どもの姿） （担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「ねらい」を実現するために必要な「環境構成」と「子どもの予想される姿」について、記載の項目とポイントを理解する。
12	指導計画作成の実際④（保育者の援助・配慮） （担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「予想される子どもの姿」に対して保育者としての関わり方（援助・配慮）の重要性について理解する。
13	カリキュラム・マネジメントについて① （担当：賀門 康博）	・これまでに学んだ指導計画（部分指導・一日指導）が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見通しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携（指導要録の作成）の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。
14	カリキュラム・マネジメントについて② （担当：賀門 康博）	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応（ネージメント）していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な課題に対して指導計画を体操させていく重要性を理解する。
15	まとめ （担当：山上 裕子）	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、幼稚園実習及び保育実習に向けて基礎となる視点を再確認する。

<b>科目名</b>	保育内容総論		
<b>担当教員</b>	柴田 卓, 猪股 照子, 安部 高太郎	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択 短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	本授業は、保育内容に関する基礎的事項を踏まえた上で、具体的に乳幼児期の発育・発達を捉え、保育過程との関連性を理解する。また、担当教員の経験や実践事例を活かした演習を通し、保育内容と保育環境の理解を深めながら保育者の役割および専門性について総合的に理解する。毎回の授業においては、意見交換のグループワークを取り入れることで、学生が能動的な学習に励むよう促す。		
<b>達成目標</b>	本授業の到達目標として、下記4点の基準を定める。 ①幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解し、幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解することができたか。 ②教育課程編成の基本原則を理解し、教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解することができたか。 ③各領域を横断しながら教育内容を選択し、長期的な視野と地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解することができたか。 ④幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解することができたか。		
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	<b>成績評価 方法</b>	授業時の課題・小テスト35点、まとめのレポート50点 平常点15点
<b>教科書</b>	井上孝之・奥山優佳・山崎敦子編、『子どもと共に学びあう演習・保育内容総論』, みらい, 2014		
<b>参考書</b>	大宮勇雄・白石昌子・原野明子著、『子どもの心が見えてきた』, ひとなる書房, 2011 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』, フレーベル館, 2008 厚生労働省、『保育所保育指針解説』, フレーベル館, 2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』, フレーベル館, 2016		
<b>学生への要望</b>	保育に正解はありません。目の前の子ども達のために「学び・考え続ける保育者」を目指しましょう。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日14時～17時 柴田 824研究室 金曜日14時～17時 猪股 831研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	保育内容に関する基礎的事項 (担当: 猪股)	保育における歴史の変遷や関連法について考える。	事後学習として、保育に関連する人物を検索し、自分なりに掘り下げて整理する。	30
2	乳児期における発達と保育者の援助 (担当: 猪股)	乳児期における発達を5領域との関連から捉え、理想とする保育者の援助について考える。	事前学習として、5領域について教育要領・保育所保育指針を読み込んでくる。	30
3	乳児期における保育内容と保育環境 (担当: 猪股)	乳児期における保育内容と環境について、映像教材の様子や実践事例から考える。	事後学習として、乳児期における保育環境に関して、事例を調べる。	30
4	乳児期における保育内容の実際 (担当: 猪股)	乳児期の保育内容に関して、模擬保育を通してその理解を深める。	事後学習として、乳児期の保育内容について、模擬保育を踏まえながら、テキストを参考に各自ノートにまとめる。	30
5	幼児期における発達と保育者の援助① (担当: 柴田)	3歳児の発達を5領域との関連から捉え、理想とする保育者の援助について考える。	事後学習として、3歳児の発達と保育内容、援助について各自ノートにまとめる。	30
6	幼児期における発達と保育者の援助② (担当: 柴田)	4歳児と5歳児の発達を5領域との関連から捉え、理想とする保育者の援助について考える。	事後学習として、4歳児の発達と保育内容、援助について各自ノートにまとめる。	30
7	幼児期における保育内容と保育環境 (担当: 柴田)	幼児期における保育内容と環境について、映像教材の様子や実践事例から考える。	事後学習として、発達段階に応じた保育環境に関して、事例を調べる。	30
8	幼児期における保育内容の実際 (担当: 柴田)	幼児期の保育内容に関して、模擬保育を通してその理解を深める。	事後学習として、模擬保育での課題・改善点をノートに整理する。	30
9	観察・記録の意義、目的、方法 (担当: 猪股)	保育における観察と記録に関して、事例を基に理解を深める。	事前学習として、エピソード記録やドキュメンテーションなど、記録の種類や方法について調べる。	30
10	保育計画の立案 (担当: 猪股)	保育計画の立案に関して、その意義や具体的方法について理解を深める。	事後学習として、指導計画を書く。	30
11	保育内容の評価とふりかえり (担当: 猪股)	評価に関して、その意義や具体的方法を理解し、改善方法を模擬的に検討する。	事前学習として、テキストを読みながら保育内容の評価について理解しておく。	30
12	小学校へ接続と連携の実際 (担当: 柴田)	小学校への接続と連携に関して、事例を基にその意義と具体的内容を理解する。	事後学習として、出身地域における幼保小接続の取り組みについて、調べる。	30
13	保護者との関わりとその実際 (担当: 柴田)	保護者とのかかわりについて、その意義と方法について事例を基に理解する。	事前学習として、保護者とのかかわりに関して、各自で事例や文献を集め、整理する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	海外の保育の動向（担当：柴田）	海外の保育の事例から、自身の保育観を話し合い、理想とする保育について整理する。	事前学習として、自身の興味のある国の保育政策や子育て支援について、調べる。 30
15	まとめ（担当：猪股 柴田）	学習した内容をまとめ、到達目標が達成されたか自己点検し、今後の課題を検討する。	事後学習として、今後の課題について、参考となる文献を探す。 30

<b>科目名</b>	特別支援教育基礎論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実際について理解を深める。		
<b>達成目標</b>	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生を中心とする	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点
<b>教科書</b>	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館, 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2018		
<b>参考書</b>	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社, 2008		
<b>学生への要望</b>	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16:10～17:05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

<b>科目名</b>	教育方法論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山上 裕子, 山口 猛			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	教育の方法は、学ぶ者、学ぶ内容によって動く生きものである。何をどう教えていくのか、学校全体の教育課程全体像をつかみつつ、日々の授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論をもとに、教育課程の意義や編成、授業の構成要素や評価、また、授業の基礎的な技術や指導案の作成及び模擬授業を行う。そして、教育機器の効果的な使用方法について学ぶ。			
<b>達成目標</b>	①教育方法の基礎理論について理解できたか。 ②授業の構成要素や多様な学習評価について理解できたか。 ③授業の指導技術のポイントを理解し、指導案を作成できたか。 ④教育課程の意義とカリキュラムをマネジメントする必要性を理解できたか。 ⑤情報モラルの現状と課題について理解できたか。 ⑥ICT教育の特徴と教材作成方法について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度 20%、レポート 80%	
<b>教科書</b>	・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
<b>参考書</b>	・佐藤学『教育の方法』左右社、2012年。 ・古藤泰弘『教育方法学の実践研究』教育出版、2013年。 ・その他、授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生への要望</b>	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。 遅刻、欠席をしないよう注意すること。			
<b>オフィスタイム</b>	山上裕子 木曜日：14：30～16：00 833研究室 金曜日：12：50～14：20 833研究室 山口 猛 月曜日 10：30～12：00 No.2生芸科研究室 火曜日 16：10～17：05 No.2生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション（担当：山上裕子、山口猛）	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまで受けてきた授業を振り返り、現在求められている学びについて考える。	シラバスを確認し、自身が受けてきた授業についてメモにおこす。	30
2	教育の方法の基礎（担当：山上裕子）	子どもから学びが始まる、という教育観に立つ先人たち（ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教育等）の提案した教育方法の考え方と、その実践について学ぶ。	世界史の年表を手に取り、授業で取りあげる人物の時代背景を確認する。	60
3	問題解決学習（担当：山上裕子）	自らが問い、課題を設定し、それを解決していくデューイの問題解決学習の理論と実践を学ぶ。また、今日に見られる総合的な学習の時間や道徳教育で取り組まれている実践を例に理解を深める。	世界史の年表を手に取り、授業で取りあげる人物の時代背景を確認する。	60
4	多様な授業の形態と授業の構成要素（担当：山上裕子）	一斉授業や個別指導、モニトリアル・システムやドルトンプランなどの多様な授業方法を学ぶ。授業を構成する要素を検討し、主体的な学びとなるための教材の工夫について考え、小レポートにまとめる。	個別指導の長所・短所について、自身の経験をもとにメモにまとめる。	30
5	教育課程の役割と意義（担当：山上裕子）	20世紀初頭、アメリカで生じたカリキュラム議論に立ち返ることで、教育課程の多様な考え方について学ぶ。また、日本で告示されている「学習指導要領」の性格や社会で果たしている役割を学ぶ。	教育実習に行く先の校種に応じた「学習指導要領」を手に入れ、記載内容を概観する。	60
6	学力観の変遷（担当：山上裕子）	「学習指導要領」の変遷をたどることを通して、日本の学力の考え方の変遷を理解する。また、今日求められている学力について考える。	「学習指導要領」の記載内容を確認し、変遷についてまとめる。	60
7	教育課程の編成（担当：山上裕子）	教育課程の編成の基本を学び、具体的な教育計画をシュミレーションすることをおして、教育内容の選択や配列、指導計画の検討について考える。	「学習指導要領」の総則をよく読み、指導計画との繋がりを考える。	1
8	学校組織の中の学び（担当：山上裕子）	日々の授業は、学校全体の教育課程の位置づけにおいてなされる重要性を知るとともに、教育課程をマネジメントするという考え方の大切さを学ぶ。	科目を越えた教育内容は何か、見つける。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	多様な学習の評価（担当：山上裕子）	授業形態に応じた多様な評価について、基礎理論に立ち返りつつ、何をどのように評価を行うのかを学ぶ。	他者を評価することとはどのようなことが要求されるか、自身の経験を踏まえまとめる。
10	指導案の作成（担当：山上裕子）	これまでの授業内容を踏まえ、指導案を作成するための具体的な注意点を学び、指導案を作成する。	模擬授業の内容を考える。
11	模擬授業（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方等に留意し、作成した指導案を試す。	模擬授業の準備をする。
12	模擬授業の検討（担当：山上裕子）	より深い学びとなる授業の指導案の書き方や、技術について、模擬授業を検討し合う。小レポートにまとめる。	模擬授業の反省をまとめる。
13	情報モラルの現状と課題（担当：山口猛）	情報機器（スマートフォン・タブレット等）が急速に普及する中、子どもたちの学びを脅かすさまざまな課題（情報機器の利用実態・事件/事故）を理解し、対策を学ぶ。	授業で紹介した「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き」を読む。
14	ICT教育の歴史と現状（担当：山口猛）	文部科学省・総務省によるICT教育推進の歴史を確認する。また、ICT教育環境の具体的な活用事例から、長所と短所の理解を深める。	授業で説明したICT教育の課題を踏まえて、解決策を考える。
15	ICT教育対応デジタル教材の作成（担当：山口猛）	ICT教育に対応するデジタル教材作成法を学ぶ。教材作成は専門的なソフトウェアではなく、一般的に普及しているオフィスソフト（Microsoft Office）の標準機能を用いる。	授業内で説明したPowerPoint機能を用いてデジタル教材を作成する。

<b>科目名</b>	保育相談支援		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	富士盛 公年			
<b>開講期</b>	Ⅳ			
<b>授業概要</b>	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、相談活動に当たられるだけの力を形成することを旨とする。</p> <p>そのために次の3点を学ぶ。</p> <p>①解決思考ブリーフセラピーやグループアプローチなどの新しいカウンセリングの方法について理論的に学ぶ。</p> <p>②虐待や暴力をふるう攻撃的な子どもに対しての支援の方法を学ぶ。</p> <p>③現場で出会う困難な事例について考えて、対応する力をつける。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①学生が実際にカウンセリングの技法を使って、人の話を聞けるようになる。</p> <p>②絵画などの子どもたちの表現するものから子どもたちの心を理解できるようになる。</p> <p>③事例などを通じて、外部の専門機関との連携の方法を学び、理解できるようになる。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	レポート1回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
<b>教科書</b>	教科書は使わず、プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	参考書は授業ごとに指示する。			
<b>学生への要望</b>	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 午後4時から5時 水曜日 4時から5時 富士盛研究室(833)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	保育相談入門1	第1回 オリエンテーション 保育相談の概論と授業の成績評価の説明	40
2	保育相談入門2	第2回 なぜ、保育相談を学ばなければならないか 保育カウンセリングの現状と現場での問題点 現場での危機について 危機対応の事例を考察することで保育相談へのモチベーションを高める	40
3	事例1 クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか	第3回 連携とケースカンファレンスの事例「クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか」を通じて連携とカンファレンスの方法論を学び、あわせて虐待や障害の事例研究を行う。	40
4	講義1 マイクロカウンセリングの実際的基礎技法	第4回 アイビーのマイクロカウンセリングの理論を説明し、実際にロールプレイでマイクロカウンセリングの傾聴をやってみて、カウンセリングの初歩的な基礎技法を身につける。	40
5	事例2 緘黙にどう対応するか ～障害の理論～	第5回 小学校低学年男子の緘黙の事例研究を通じて、心因性の問題にどう対応するかを考える。 障害についての理論を学び、障害について理解をしていく。	40
6	講義2 解決思考ブリーフセラピーの技法と理論1 ソリューションモデル	第6回 現在、もっとも現場で効果的といわれる解決思考ブリーフセラピーの技法と理論を学ぶ。特にソリューションモデルについて説明し、実際に少しロールプレイで対話ができるようになる。	40
7	演習1 グループトレーニング1	第7回 講義1、2で学んだ技法を基礎としてロールプレイのエクササイズ「10回イエスをいわせよう」でグループコミュニケーションの実際的な技法を体験し、身につける。	40
8	講義3 特別支援の理論	第8回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害の理論的な背景やその研究の歴史について説明し、特別支援についての基本的な理解をする。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	事例2 特別支援の具体的な対応と使用する技法	第9回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害についての対応やその失敗例や成功例についてグループで討議する。 認知行動療法について説明し、具体的な技法を習得する。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。
10	演習2 グループトレーニング2	第10回 「冬山で遭難」でグループで話し合いをさせ、話しあいの成果を点数化することにより、議論のグループプロセスを体験させて、コミュニケーションのスキルを習得する。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。
11	事例3 保護者への積極的カウンセリングとモンスターペアレントへの対応を学ぶ	第11回 事例「シゲチカ先生の危機」を読み、保護者への対応を学ぶ。特に積極的な主張トレーニングなどの積極的技法で傾聴とは違うカウンセリングの技法を習得する。 モンスターペアレントへの対応をグループで考えさせて、ブレインストーミングを体験させる。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。
12	演習3 グループトレーニング3	第12回 サバイバルゲーム「花火でドカーン」を行い、人間関係作りのグループプロセスを体験させる。そして、さらに結果を点数化し、主張できなかった学生にアサーショントレーニングの動機づけを行う。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。
13	講義4 解決思考ブリーフセラピーの技法と理論2	第13回 解決思考ブリーフセラピーに中でも最も有効とされる5段階モデルの理論を説明し、ロールプレイで体験させて、課題とする。レポートの方法を説明する。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。
14	演習4 コラージュ	第14回 心の深層世界を見るアセスメントとして、コラージュを自分で製作する。 実際の事例とコラージュを見ることでコラージュの見方を理解する。 自分のコラージュを自己分析し、レポートする。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。
15	演習5 風景構成法・人物描画法	第15回 小学生や幼稚園児の心の深層世界を考えるために風景構成法・人物描画法による絵画を制作する。 実際の事例と作品を見ることで風景構成法・人物描画法の見方を理解する。 自分の作品を自己分析し、レポートする。 まとめ 最後にこの15回の授業をまとめて反省する。	授業についてまとめて、ポートフォリオを提出する。

<b>科目名</b>	保育内容演習 健康	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
<b>担当教員</b>	一柳 智子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。 また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。		
<b>達成目標</b>	①乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。 ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 1年A	<b>成績評価 方法</b>	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験30点 レポート・提出物30点、平常点40点
<b>教科書</b>	建帛社：シードブック 保育内容健康 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
<b>参考書</b>	プリントは随時配布する。		
<b>学生への要望</b>	現場で役立つために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日 Ⅲ限目 (12:50~14:20) Ⅳ限目 (14:30~16:00) 825研究室 (一柳)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。	0
2	健康の定義	1 「健康」の定義。 2 基本的人権としての健康。教育・保育の中の健康。 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。	20
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。 3 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。	20
4	領域「健康」-1	幼稚園教育要領における領域「健康」： ねらいの3項目 そのねらいを達成する為の指導事項としての内容10項目	20
5	領域「健康」-2	1 保育所保育指針における領域「健康」 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。	20
6	身体の発達と園生活-1	1. 身体の発達 (1) 身体の発達の捉え方 (2) 乳幼児期の身体発達の特徴 (3) 体重と慎重 (4) プロポーションの変化	20
7	身体の発達と園生活-2	1. 運動の発達 (1) 運動発達の順序性と方向性 (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動 (3) 基礎的運動の発達	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。 1. 情緒 2. 社会性 3. 知的能力 4. パーソナリティー	子どもたちの心身の発達を考えよう。 20
9	基本的な生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的な生活習慣とは何か。 2 子どもにとって基本的な生活習慣の意味 3 基本的な生活習慣の内容。 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。	子どもたちの心身の発達を考えよう。 20
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。 (イ：固定遊具 ロ：鬼ごっこ ハ：ボールを使った遊び ニ：走る・とぶを中心とした遊び ホ：室内での遊び等) 3 運動遊びの指導の一般的な留意事項。 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。	何らかの運動を意識的に行う。 20
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1. 「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2. 集団の力 3. 環境の力	何らかの運動を意識的に行う。 20
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探求しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板	何らかの運動を意識的に行う。 20
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など） 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点 1 安全管理の意義と目的 3 安全対策と安全能力の育成 4 災害に対する安全指導と援助のあり方 5 安全管理とその点検方法	何らかの運動を意識的に行う。 20
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義 2 園外保育の効果 3 園外保育実施のあり方	園外環境を観察する。 20
15	まとめ	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、こどもたち自らが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。	0

<b>科目名</b>	保育内容演習 ことばと遊びⅠ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
<b>達成目標</b>	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生を中心とする	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等）期末レポート50点
<b>教科書</b>	谷田貝公昭・廣澤満之編『新版実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018		
<b>参考書</b>	授業内で指示		
<b>学生への要望</b>	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16:10～17:05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の3つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達の变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実際について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガルの子どもの等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことばをどう育むかを考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

<b>科目名</b>	保育内容演習 ことばと遊びⅡ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
<b>担当教員</b>	小林 徹			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。			
<b>達成目標</b>	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生を中心とする	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等）期末レポート50点	
<b>教科書</b>	松本和美編著、土橋久美子・松家まきこ著『保育に役立つ言語表現教材第2版』みらい, 2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館, 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2018			
<b>参考書</b>	授業内で指示			
<b>学生への要望</b>	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	毎週月曜10:30-11:30、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	この授業のねらい	この授業ではさまざまな言語表現教材を紹介し、実習を経験した学生とともに、子どもたちの言語活動を豊かにする教材や、それを活かす指導計画づくりについて考えていく。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
2	自己紹介とは	学生の自己紹介の経験を持ち寄り、子どもたちに効果的で他の学習にもつながる自己紹介を考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
3	絵本とは①	絵本とは何か。絵本の読み聞かせの目的。絵本の楽しみ方等について考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
4	絵本とは②	絵本の種類。絵本の選び方について考察し、実際に子どもの発達段階を考えた絵本選びに挑戦する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
5	絵本とは③	絵本の読み聞かせに際した留意点や環境構成、導入の方法等について考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
6	素話（ストーリーテリング）とは①	素話とは何か、素話の種類、保育現場での展開等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	素話（ストーリーテリング）とは②	素話を演じるポイント、素話の作り方等について考察する。素話を作る。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
8	紙芝居とは①	紙芝居とは何か、絵本との違い、演じるためのポイント等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
9	紙芝居とは②	「折り込み絵芝居」について学び、実際に作って演じる。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
10	その他の児童文化財①	ペープサート、人形劇等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
11	その他の児童文化財②	パネルシアター、エプロンシアター等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
12	指導案の作成と発表①	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
13	指導案の作成と発表②	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
14	指導案の作成と発表③	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
15	まとめ・領域「言葉」と小学校「国語」との関連	これまでの学習内容を振り返り、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

<b>科目名</b>	保育内容演習 表現と創造 I	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
<b>担当教員</b>	三瓶 令子		
<b>開講期</b>	II		
<b>授業概要</b>	<p>○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかかわり方と内容を実践的に探求する。                  ○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。                  ○ 総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>大別して、三つの内容を行なう。                  1. 感性と想像力と身体の発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。                  2. 幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話しを総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。                  3. 学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。</p>		
<b>達成目標</b>	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかかわり・対応の中で動き表現することができる。		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点
<b>教科書</b>	三瓶令子・庄司康生編 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー」 2009年 大学図書出版		
<b>参考書</b>	大場牧夫著 「表現原論ー幼児の『あrawし』と領域『表現』」 1996年 萌文書林 榎沢良彦編著 「保育内容・表現」 2009年 同文書院		
<b>学生への要望</b>	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について		
<b>オフィスタイム</b>	三瓶、毎昼休み・V限目、841研究室。 早川、毎昼休み・V限目、826研究室。 庄司、月曜日の昼休み・V限目、841研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	授業オリエンテーション	全クラス 授業オリエンテーション (担当教員一三瓶・早川・庄司) ・Ⅱ期授業の進め方について ・えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加グループ分け ・活動内容計画についての話し合いと準備	40
2	えぼか準備① / テキスト L2 / マープリング①	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)  Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。 「1~10~1」「一人一歩~三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司)  D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 (担当教員一早川)	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
3	えぼか準備② / テキスト L10 / マープリング②	<p>Cクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)</p> <p>Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司)</p> <p>D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶)</p>	<p>授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。</p>	40
4	えぼか準備③ / テキスト L9	<p>Cクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)</p> <p>Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司)</p> <p>D Bクラス デカルコマニー① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶)</p>	<p>授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。</p>	40
5	テキスト L2 / マープリング①	<p>Cクラス Dクラス Bクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司)</p> <p>Aクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶・庄司)</p>	<p>授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。</p>	40
6	テキスト L10 / マープリング②	<p>Cクラス Dクラス Bクラス 音楽劇へのステップ～何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」 (担当教員一三瓶・早川・庄司)</p> <p>Aクラス マープリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。(担当教員一三瓶)</p>	<p>授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。</p>	40
7	テキスト L9 / えぼか準備①	<p>Cクラス Dクラス Bクラス 絵本の音探し～絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」「ヘリコプターたち」 (担当教員一三瓶・庄司)</p> <p>Aクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)</p>	<p>授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。</p>	40
8	テキスト L20 / えぼか準備②	<p>Cクラス Dクラス Bクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・早川・庄司)</p> <p>Aクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)</p>	<p>授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。</p>	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	デカルコマニー / えぼか準備③	Cクラス Dクラス Bクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 (担当教員-早川) Aクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。
10	テキスト L12 / テキスト L20 / えぼか準備①	Cクラス Bクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」外 (担当教員-三瓶・庄司) Aクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ」 (担当教員-三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。
11	マーブリング① / テキスト L12 / えぼか準備 / テキスト16	Cクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 (担当教員-早川) Aクラス 歌って、動いて、つくって、遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員-三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司) Bテキスト 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。(担当教員-三瓶・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。
12	マーブリング② / デカルコマニー / えぼか準備③①	Cクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。 (担当教員-早川) Aクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 (担当教員-早川) Dクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。
13	テキスト L12 / えぼか準備②	Cクラス Aクラス 表現研究活動 (担当教員-三瓶・早川・庄司) Dクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」 (担当教員-三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	テキスト L16 / えぼか準備③	Cクラス Aクラス Dクラス 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。 (担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。  40
15	フィールド応用ワーク ~地域ボランティアえぼか参加	えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ)フィールドワーク (担当教員一三瓶・早川) A・B・C・Dクラス	フィールドワークで実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する  40

<b>科目名</b>	保育内容演習 表現と創造Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	三瓶 令子, 早川 仁		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>内容・方法 ①パネルシアターの制作、及び発表。 ②他者とともに動くワーク。(身体感覚の覚醒) ③粘土活動の体験。 ④紙芝居・絵本等の読み聞かせ体験。 ⑤あそび歌やリズムで動く体験。 これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グループで 語り・動き・声・造形等の統合による総合表現体験をする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。</p>		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点
<b>教科書</b>	三瓶令子・庄司康生 編 『表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー』 大学図書出版 2009年		
<b>参考書</b>	大場牧夫著 『表現原論ー幼児の「あらし」と領域「表現」』 萌文書林 1996年  榎沢良彦編著『保育内容・表現』 同文書院 2006年		
<b>学生への要望</b>	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について		
<b>オフィスタイム</b>	三瓶、火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室 早川、火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 826研究室。庄司、月曜日の昼休み・16時～17時 841研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション A・B・C・Dクラス	授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する (j授業担当教員一三瓶・早川) パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	30
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)	パネルシアター制作①(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ポスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作開始	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)	パネルシアター制作②(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ポスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作完成	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)	パネルシアター制作③(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~・制作完成	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)	パネルシアター発表練習①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また発表に向けて、繰り返し練習をする。	40
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)	パネルシアター発表練習②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また発表内容を振り返り、感想を記録する。	40
7	保育教材の体験・探求(造形表現)	・幼児~少年期にかけての描画を通した成長過程を理解する。 (j授業担当教員一早川) ・描画表現指導の在り方を考える。	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	30
8	保育教材の体験・探求(音楽表現)	教育実習Ⅳへ向けての音楽教材研究と指導案作成のアイデア (j授業担当教員一三瓶) ・ペープサートによる歌あそび体験等	実習に向けて、繰り返し教材研究をし、指導案作成のアイデアを考える。	30
9	保育の中の音楽的活動について①A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について①D・Bクラス①	A・Cクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)	レポートを作成する。	40
10	保育の中の造形的活動について①A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について①D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川) D・Bクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶)	レポートを作成する。	40
11	保育の中の音楽的活動について②A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)		30
12	保育の中の造形的活動について②A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川) D・Bクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶)		30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	保育の中の音楽的活動について③A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について③D・Bクラス②	A・Cクラス 年齢に応じた音楽教材と遊び方について(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)	レポートを作成する。 30
14	保育の中の造形的活動について③A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について③D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川) B・Dクラス 年齢(発達)に応じた音楽教材の選び方と遊び方について(j授業担当教員一三瓶)	レポートを作成する。 30
15	保育における表現を考える A・C・D・Bクラス	・レッジョ・エミリアの事例等から(j授業担当教員一三瓶) ・国内の幼稚園・保育所の事例から ・保育事例のリフレクションから保育者の役割を考える。	レポートを作成する。 40

<b>科目名</b>	保育内容演習 生活と環境Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	伊藤 哲章		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもを抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んできます。幼児が、遊び中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えられることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。		
<b>達成目標</b>	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	試験:50点 授業態度・提出物:50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。
<b>教科書</b>	ありません。		
<b>参考書</b>	授業のなかで適時紹介します。		
<b>学生への要望</b>	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください(評価対象です)。 ④雨天時の掲示をよく見てください。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション/自然観察1	授業内容全体の説明を行います。 開成山公園の桜の観察に行きます。	野外で自然観察を行う際の注意点について調べてまとめる。
2	子どもにとっての自然環境1	ネイチャーゲームの一つであるカモフラージュを行います。自然界の中にある人工物を見つけるゲームです。次に、フィールドビンゴを予定しています。	ネイチャーゲーム(カモフラージュ、フィールドビンゴ)を実施する際の注意点を調べてまとめる。
3	子どもにとっての自然環境2	ネイチャーゲームの一つであるコウモリとガを行います。次に、カメラゲームを行います。カメラゲームでは、二人組になって、カメラ役とカメラマン役に分かれて行きます。	ネイチャーゲーム(コウモリとガ)を実施する際の注意点を調べてまとめる。
4	子どもにとっての自然環境3	開成山公園のバラ園に行って、バラのスケッチをします。	開成山公園の施設遊具を調べまとめる。
5	数量をテーマにした教材	子どもの数に対する好奇心をはぐくむ教材として、おはじき遊びを体験します。	子どもの数に対する好奇心をはぐくむ教材を調べてまとめる。
6	文字をテーマにした教材	子どもの文字に対する好奇心をはぐくむ教材として、かるた遊びを体験します。	子どもの文字に対する好奇心をはぐくむ教材を調べてまとめる。
7	子どもにとっての自然環境4	子どもに人気のある身近な動物としてカタツムリを取り上げ、観察を行う。	カタツムリの性質を調べてまとめる。
8	子どもにとっての自然環境5	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、シロツメグサを使って王冠づくりを体験します。	シロツメグサの性質を調べてまとめる。
9	幼稚園・保育所の震災後の現状	現職の幼稚園教諭を招いて、県内の幼稚園・保育所の震災後の現状についてお話を伺う	県内の幼稚園・保育所の震災後の現状について調べてまとめる。
10	指導案の作成	幼稚園教育要領の領域環境のねらい、内容を踏まえた指導案をグループ毎に作成する。	幼稚園教育要領の領域環境のねらい、内容を調べてまとめる。
11	模擬部分実習1	グループ毎に発表する。	部分実習の題材を調べてまとめる。
12	模擬部分実習2	グループ毎に発表する。	部分実習の教材を作成する。
13	模擬部分実習3	グループ毎に発表する。	模擬部分実習を実施して改善点をまとめる。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。	日本における幼児教育の課題について調べてまとめる。
15	まとめ	幼児に身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持たせるために、どのような活動を行うかを考える。	自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持たせるため方法を調べてまとめる。

<b>科目名</b>	保育内容演習 生活と環境 I	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
<b>担当教員</b>	伊藤 哲章		
<b>開講期</b>	II		
<b>授業概要</b>	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。		
<b>達成目標</b>	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	試験: 50点 授業態度・提出物: 50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに入室してください。
<b>教科書</b>	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領		
<b>参考書</b>	授業のなかで適時紹介します。		
<b>学生への要望</b>	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日 3限～4限 金曜日 4限 場所 821 研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション／自然遊び1	授業内容全体の説明を行います。その後、観察の理論的・論理的な観点に関する絵をみます。	観察の理論的・論理的な観点について事前に調べる。
2	子どもにとっての自然環境の意味1	ネイチャーゲーム（私は誰でしょう・動物交差点）を実施する。	ネイチャーゲーム（私は誰でしょう・動物交差点）のルールを事前に調べる。
3	子どもにとっての自然環境の意味2	ネイチャーゲーム（コウモリとガ）を実施する。	ネイチャーゲーム（コウモリとガ）のルールを事前に調べる。
4	子どもにとっての自然環境の意味3	保育者は、「環境の構成」を通して子どもの学びにはたらきかけています。プリント資料を用いて、環境の構成の考え方を学んだ後、ワークシートを用いてグループ学習を行い、環境の構成における保育者の位置づけを考えます。	保育室の環境構成について事前にまとめる。
5	数量をテーマにした教材づくり1	子どもの数量に関する好奇心をはぐくむ教材として、すごろくづくりをします。	子どもの数量に関する好奇心をはぐくむ教材の具体例を考える。
6	数量をテーマにした教材づくり2	子どもの数量に関する好奇心をはぐくむ教材として、すごろくづくりをします。	子どもの数量に関する好奇心をはぐくむ教材（すごろく）の改良点を考える。
7	積み木を使ったあそび	積み木カブラを利用した遊びの実践例を紹介しします。	カブラの特徴をまとめる。
8	水をテーマにした遊び1	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、子どもの身近な対象の1つである水をテーマにした教材づくりを行います。この回では、スライムと水中シャボン玉を行います。	スライムの作り方を事前に調べ、特徴をまとめる。
9	水をテーマにした遊び2	水をテーマにしたものづくりとして、ペットボトルを活用した浮沈子づくりなどを行います。	浮沈子の作り方を事前に調べ、特徴などをまとめる。
10	自然マップづくり	開成山公園に遠足で行くことを想定して、自然マップ作りをします。	自然マップづくりの有効性を事前にまとめる。
11	幼少期の体験活動の実態	各種統計データから幼少期の自然、科学的な体験活動の実態を探ります。	幼少期の体験活動の実態について事前に調べる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	身近な材料を用いたリースづくり	サツマイモのツルを乾燥させてクリスマスリースをつくる。	身近な材料を用いた制作物を事前に調べる。	30
13	身近な材料を用いた紙皿シアターづくり	紙皿を用いて、アオムシ→チョウ、オタマジャクシ→カエル、双葉の苗→サクラに変化するシアターをつくる。	自然の不思議さを感じる教材を見つけ、その特徴をまとめる。	30
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。	日本の幼児教育の問題点を調べて、まとめる。	30
15	まとめ	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持たせるために保育者がすべきことを考える。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにさせるために保育者がすべきことを考える。	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持たせるために方法を調べて、まとめる。	30

<b>科目名</b>	保育表現技術 音楽 I	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	三瓶 令子, 小澤 啓子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	○子どもの生活における音楽的活動の意味を理解する。 ○保育者として子どもにこちよく届く声をつくる。 ○多くの歌唱曲(子どもの歌・あそび歌)にふれながら教材研究を行い、表現力を養う。 ○保育者として必要な音楽的基礎力を養う。		
<b>達成目標</b>	保育者となるために ①表現についての保育者の二つの役割りを、理解できたか。 ・自分自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること。 ②表現者としての声(無理なく届く声)を、どの程度つくることができたか。 ③子どもの表現に関わるピアノ伴奏が、どの程度弾けるようになったか。 ④幼児曲の6つのジャンルを理解し、どの程度表現できるようになったか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	○レポートの内容 30点 ○期末試験 70点
<b>教科書</b>	津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版 2014年		
<b>参考書</b>	三瓶 令子・庄司 康生=編 古瀬 百合子外3名執筆 『表現者を育てる20のレッスン』 大学図書出版 2009年		
<b>学生への要望</b>	○授業の中で適宜資料(主に楽譜)を配布するので、各自ファイルを準備すること。 ○毎時間出席し、授業を通して体験的に学ぶこと。		
<b>オフィスタイム</b>	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション(授業について理解し、心構えをつくる)	○カリキュラム内での授業の位置付けについて。(特に幼児教育における音楽の特性を中心に)  ○あそび歌で楽しむ。(積み重ねあそび歌「かっこうのごあいさつ」)⇒音楽授業への緊張、先入観を取り除き、お互いのコミュニケーションを図る。  ○テキストの配布と説明。	幼児教育における音楽の特性について振り返り、テキストの流れを把握する。  30
2	保育における音楽とは	○保育の場での音楽の役割りについて ○歌と伴奏との関係について ○歌声とからだとの関係について(ゼスチャーとアクションの違いについて) ・幼児曲「とんぼのめがね」をサンプリングしてみる	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。  30
3	基本となる音符と拍子について・発声の基本について①	○4分音符・2分音符・付点2分音符・8分音符についての説明とワーク ○4分の4・4分の3・4分の2拍子についての説明とワーク ○発声のためのワーク「ピッコロ ミニ」 ・リズム打ち・メロディー唱～発声のワーク ・母音で歌う(パカラマナ・ピキリミニ・ブルムヌ・ペケレメネ・ポコロモノ)	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。  30
4	発声の基本について②	○声と呼吸との関係について 息を吸うこと吐くことについて ・発声のワーク「ピッコロミニ」母音で歌う ・発声のドリル「楽しい発声のドリル」 1(あくび)喉の奥を空けて声を出すレッスン 2(ため息)喉の奥を脱力させて声を出すレッスン 3(犬のおなか)腹筋を使って声を出すレッスン ・VTRによる同ドリルの確認	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。  30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
5	発声の基本について③	<p>○声とからだとの関係について ゼスチャーとアクションの違いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「からだが語る」ということのワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」</li> </ul> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞(母国語)とメロディーとの関係について</li> <li>・歌詞とイメージについて</li> <li>・4分の2拍子の確認 スキップのリズム・16分音符についての説明</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
6	幼児曲を歌う①	<p>○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す)</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「タヤけこやけ」「とんぼのめがね」4分の2拍子の確認</li> <li>・「どんぐりころころ」16分音符の確認 歌詞の注意(どんぐりころころどんぶりこ)</li> <li>・「かえるの合唱」輪唱(カノン)の体験 合唱(ハモること)の基礎</li> </ul> <p align="center">歌詞のイメージをからだで表現</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
7	幼児曲を歌う②	<p>○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す)</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うみ」「こいのぼり」4分の3拍子のリズムあそび 歌詞のイメージとからだの広がり さまざまな伴奏形について</li> <li>・「しゃぼんだま」リピートについての説明 歌詞について(野口雨情と中山晋平について)</li> </ul> <p>○あそび歌「小さな畑」</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
8	保育における歌と伴奏について① 小澤先生	<p>○歌の伴奏ををするということについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノを歌わせることについて</li> <li>・メロディーとプレスについて</li> <li>・メロディーと拍頭について</li> <li>・二段楽譜の伴奏法と三段楽譜の伴奏法について</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
9	保育における歌と伴奏について② 小澤先生	<p>○即興伴奏の基礎 鍵盤上で伴奏の基礎を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要三和音(カデンツ)についての説明とワーク</li> <li>・移調奏についての説明とワーク</li> </ul>	0
10	保育における歌と伴奏について③ 小澤先生	<p>○即興演奏の基礎 テキスト「即興のためのピアノ伴奏」を使用したワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック的なピアノ伴奏(動きのためのピアノ)についての説明とワーク</li> <li>・変奏やバリエーションについての説明と教師の模範演奏</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
11	幼児曲を子どもと歌う方法について①	<p>○保育士者の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲・生活のうた「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
12	幼児曲を子どもと歌う方法について②	<p>○保育者の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)○幼児曲「かめの遠足」物(ペープサート等)を作って歌う 4分の3拍子のリズムあそびをする「ふうせん」「だから雨ふり」</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
13	幼児曲を子どもと歌う方法について③	<p>○保育者の表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割り 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること</li> <li>・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)</li> </ul> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さんぽ」マーチのテンポをからだで覚える(120/1分)シェーカーで遊ぶ</li> <li>・「とけいのうた」園行事と歌との関係について学ぶ 動いて遊ぶ</li> <li>・「時計の歌」リトミックについて説明 動きとリズムについて</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
14	幼児曲を子どもと歌う方法について④	<p>○保育者の役割り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が「表現者」として成長すること</li> <li>・「幼児の表現を育てる者」として成長すること</li> <li>・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)</li> </ul> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うちゅうせんのうた」生活の中のあそび歌について 他領域との接点</li> <li>・「アイアイ」ラテンのリズム(8ビート)についての説明 アイアイ(サル)についての理解と他領域との接点</li> <li>・「森のくまさん」交互唱についての説明</li> <li>・「山の音楽家」楽器を弾く動作をしながら歌う体験</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
15	I期授業のまとめ	<p>○保育者の表現力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現についての保育者としての二つの役割りについて</li> </ul> <p>①自身が「表現者」として成長すること ②「幼児の表現を育てる者」として成長すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現者としての声を育てる 声を無理なく届かせる</li> </ul> <p>○幼児曲を振り返って歌ってみる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを大切に歌う曲</li> <li>・リズムであそびながら歌う曲</li> <li>・物を使って歌う曲</li> <li>・交互唱の曲</li> <li>・カノン・対話の歌・ラテンのリズムで歌う曲</li> <li>・楽器を使っうたう曲等</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
16	I期の振り返りとII期授業の説明	<p>○からだと声の関係をもう一度振り返る。</p> <p>○II期授業の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達の実態を踏まえた表現方法、音楽あそびについて学習する。</li> <li>・子どもの歌に対するピアノ伴奏の方法について⇒コードネームについて他。</li> <li>・我が国西洋音楽の黎明期を理解する。</li> <li>・幼稚園・保育園(所)における行事における音楽について学習する。</li> </ul>		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
17	歌うことにおける想像力と働きかけ①	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが速捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にんげんっていいな」反復記号について(リピート・D.S.・Goda等)・総小節数を数える。</li> <li>・「ホ!ホ!ホ!」動作を付けたリズムあそびの体験・アフタービートについて・タイについて</li> <li>・「バスごっこ」動作を付けたリズムあそびの体験</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	0
18	歌うことにおける想像力と働きかけ②	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが速捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおきい木」詞のイメージをからだで感じて歌で表現するレッスン・変拍子について。</li> <li>・「きのこ」動作を付けたリズムあそびの体験</li> <li>・「十五夜さんのもちつき」「あんたがたどさ」わらべうたについて・動作を付けたリズムあそびの体験。</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
19	歌うことにおける想像力と働きかけ③	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが速捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一年生になったら」「せんせいとおともだち」</li> <li>「めだかのがっこう」季節・行事と歌</li> <li>・「うれしいひなまつり」「たなばたさま」季節・行事と歌</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
20	保育における歌と伴奏について①小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法)</li> <li>・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて</li> <li>・効果音としてのピアノ奏法</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
21	子どもの発達と音楽の役割① 歌うことにおける想像力と働きかけ④	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等)</li> </ul> <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが速捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あさやけゆうやけ」「ゆうやけこやけ」</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
22	子どもの発達と音楽の役割 り② 歌うことにおける想像力と働きかけ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等)</li> </ul> </li> <li>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本を見直す。</li> <li>○教師の想像力と働きかけが速捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</li> </ul> </li> <li>○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもいでアルバム」8分の6拍子について</li> <li>・「みんなともだち」「ありがとう・さようなら」「空より高く」季節・行事と歌</li> </ul> </li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
23	歌うことにおける想像力と働きかけ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本を見直す。</li> <li>○教師の想像力と働きかけが速捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</li> </ul> </li> <li>○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にじ」レシタティーボについて</li> <li>・「あわてんぼうのサンタクロース」アウフタクト(弱起の曲)について</li> <li>・「うさぎ野原のクリスマス」季節・行事と歌</li> </ul> </li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
24	保育における歌と伴奏について②小澤先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法)</li> <li>・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて</li> <li>・効果音としてのピアノ奏法</li> </ul> </li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
25	保育における歌と伴奏について③小澤先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法)</li> <li>・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて</li> <li>・効果音としてのピアノ奏法</li> </ul> </li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
26	歌うことにおける想像力と働きかけ⑦ 楽器の演奏法とあそびについて①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本を見直す。</li> <li>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</li> <li>○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さよならマーチ」「お化けなんてないさ」「ふしぎなポケット」</li> </ul> </li> <li>○楽器演奏法の基本について カスタネット・タンブリン・鈴・ウッドブロック <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うさぎ野原のクリスマス」</li> </ul> </li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
27	歌うことにおける想像力と働きかけ⑧ 楽器の演奏法とあそびについて②	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶらんこ」「やぎさんゆうびん」「ありさんのおはなし」</li> </ul> <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三角とらいアングル」「カスターネットでチャチャチャ」「タンブリンの輪」</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
28	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 楽器の演奏法とあそびについて③	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「世界中のこどもたちが」</li> </ul> <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ミュージックベルとトーンチャイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小さな世界」「ドレミの歌」</li> </ul>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">30</p>
29	歌うことにおける想像力と働きかけ⑩ 1年間のまとめ	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「そうだったらいいのにな」「おかあさん」「アイスクリームのうた」</li> </ul> <p>1年間を通して学んだ内容について概括をたどり、2年次の授業や実習へ繋げていく。 振り返りレポート提出</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p> <p align="right">40</p>
30	期末試験への準備	<p>試験の方法</p> <p>○2人でペアをつくる。1人はピアノ(または別の楽器でも良い)、もう1人は歌をうたいながら表現的なパフォーマンスをする。</p> <p>○全員の前で演じ、また鑑賞することにより、それぞれの方法を学び、理解する。</p> <p>上記内容についての準備をする。(試験は試験期間中に実施する。)</p>	<p>1年間学んだ内容を整理し、試験の課題についての準備をする。</p> <p align="right">60</p>

<b>科目名</b>	保育表現技術 音楽Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫、菅原 美謝			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ○保育表現技術音楽Ⅰ、保育表現技術器楽Ⅰ、で学んだ音楽の表現技術について、更に深めていく。 ○幼児の発達、創造性、感覚の実態を把握するとともに、実際に楽器や声を通して自身の創造性や即興性、伴奏法等を深めていく。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 ○担当者は2名とし、隔週で展開する。個人レッスンにおいては、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。 ①主に楽器あそびを主とした内容。 ②主に歌うことを主とした内容と、コードネームによる伴奏法についての内容。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①子どもの育ちやあそびの中で展開される楽器あそびや音楽表現を、どの程度理解、または実践できるようになったか。 ②保育実践において、子どもの表現に関わるピアノ伴奏がどの程度できるようになったか。 ③保育者としての声（無理なく届く声をどの程度できるようになったか。</p>			
<b>受講資格</b>	短大幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	演奏発表90%、平常点10%にて評価	
<b>教科書</b>	『ポケットいっぱいのおた』 鈴木恵津子著 教育芸術社 2011 『現場で生かせる幼児合奏』 三瓶令子ほか5名著 圭文社 2016 適宜プリントを配付			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菅原の授業は動きやすい服装を着用すること。</li> <li>・コードの仕組みを確実に修得し、瞬時に鍵盤で押さえられるように練習を重ねること。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	菅原：火曜日お昼、または放課後、83年館非常勤控室 磯部：月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構え、教科書について説明を行う。担当：磯部・菅原	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	発声法1、メジャーコード	呼吸について説明し、腹式呼吸の習得について解説する。またコードの作り方の解説し、メジャーコードを作る。担当：磯部	腹式呼吸で発声練習を行うこと。様々な楽曲を用いて、コードを楽譜に書き出してみることに。	60
3	楽器の扱い方	楽器の扱い方を覚え、子どもの表現活動での楽器導入の方法を学び、簡単なリズムに慣れる。担当：菅原	様々な楽器に触れ、音を出したり演奏を行い、楽器に慣れること。	60
4	発声法2、マイナーコード	腹式呼吸からの息の流し方を身に付ける。マイナーコードを鍵盤に置き換えてみ、コード進行で楽曲を演奏する。担当：磯部	腹式呼吸で発声練習を行うこと。様々な楽曲を用いて、コードを楽譜に書き出して弾いてみることに。	60
5	鍵盤ハーモニカ指導法	鍵盤ハーモニカ指導法を学ぶ。小打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏を行う。担当：菅原	童謡を鍵盤ハーモニカで演奏すること。また小打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏を行う。	60
6	発声法3、コードの転回形	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。コードの転回形を理解し、簡単な楽曲を演奏する。担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。コードの転回形を使い、簡単な楽曲の演奏を行う。	60
7	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について①	各年齢に応じた指導法、木琴、鉄琴、小打楽器による合奏を行う。担当：菅原	少人数で、木琴、鉄琴、小打楽器による合奏を行う。	60
8	発声法4、弾き歌い1	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。メジャー、マイナーコードを使い簡単な楽曲を演奏する。担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。メジャー、マイナーコードを使い簡単な楽曲の演奏を行う。	60
9	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について②	各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏を行う。担当：菅原	少人数で、鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏を行う。	60
10	発声法5、弾き歌い2	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。童謡でコードを使い演奏を行う。担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行い、コード進行に慣れる。	60
11	① 簡単編曲と発表の環境設定	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。担当：菅原	編曲法を用いて、子どもの曲を合奏用に編曲を行うこと。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	発声法6、弾き歌い3	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。 担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行い、コード進行に慣れる。	60
13	② 簡単編曲と発表の環境設定	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考えグループでオリジナル合奏曲をつくる。担当：菅原	編曲法を用いて、グループでオリジナル合奏曲をつくること。	60
14	まとめ1	Ⅲ期で取り上げた楽曲から発表曲を選び、コードを使って弾き歌いの発表を行う。担当：磯部	童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行う。	60
15	まとめ2	年齢に応じた音楽表現について整理する、オリジナル合奏曲をグループごとに発表する。担当：菅原	オリジナル合奏曲をグループごとに練習を行う。	60

<b>科目名</b>	保育表現技術 器楽 I		
<b>担当教員</b>	三瓶 令子, 渡辺 桂子, 小澤 啓子, 鈴木 明美, 佐久間 智子, 加藤 幸恵	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>【ピアノ表現技術】 I期は、ピアノ演奏の基礎技法を習得させ、豊かな音楽性を自主的に体得させることを目的とする。また授業は演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。具体的目標は、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）の習得である。またII期は、個々のピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、アンサンブルの力・またアンサンブルによる音楽の楽しさを体得させる内容を実践する。具体的目標は、幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲（おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類）を課題とする。ML授業については、4人1組のグループを作り、1曲を4人で合わせ、1コマに1曲仕上げる。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルを選択した学生は、アンサンブル力に優れ、保育者となる学生には理想的な楽器である。ピアノとの平行履修となる。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>個人レッスン ①学生各々ピアノ演奏の基礎技法の習得がどの程度できたか。 ②ピアノに対する恐怖心、不安感が解消できたか。 ③ピアノに対する興味、関心がどの位わいてきたか。</p> <p>ML授業（II期より） ①4人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できるか ②ハーモニーの美しさを感じることができるか。 ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できるか ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられるか。 ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できるか。</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)
<b>教科書</b>	<p>【ピアノ】 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版 2011年 その他プリント等</p> <p>【ハンドベル】 ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択</p>		
<b>参考書</b>	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。		
<b>学生への要望</b>	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分×6日=3時間の自己練習をしてレッスンに臨むこと。 ○爪をカットし、髪の毛が前に下らないようにまとめてくること。</p>		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	(授業内容については、添付資料を参照してください。) ・器楽演習の授業形態の説明→Iコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。 ・使用テキストの紹介。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。
2	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ①	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。</li> <li>・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
15	I期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。</li> <li>・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう</li> <li>・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。</li> <li>・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう</li> <li>・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。</li> <li>・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう</li> <li>・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。
30	Ⅱ期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。

<b>科目名</b>	保育表現技術 器楽Ⅱ		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	三瓶 令子, 小澤 啓子, 鈴木 明美, 本橋 美恵子, 佐久間 智子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅲ期は、ピアノ演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそべる演奏、即興力、応用力の伸長をはかることを目標とする。またⅣ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことが出来る演奏、即興力、応用力の伸長を図ることを目的とする。 ML授業については、アンサンブル力の更なる向上と、コードネーム等による即興伴奏法を学ぶ。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏方法やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>個人レッスン ①幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏が出来るか。 ②幼児曲の曲想をイメージして歌うことが出来るか。 ③簡単な曲で子どもとあそぶことが出来るか。</p> <p>ML授業 ①他の人のテンポやリズム感に共感し、協力して演奏できるか。 ②コードネーム等による即興伴奏法ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)	
<b>教科書</b>	<p>吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版社 2011 津布菜 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 2014年 の中から選択</p>			
<b>参考書</b>	個人に合わせて適宜使用する			
<b>学生への要望</b>	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○爪をきちんと切ってくること。 ○髪の毛は、下がらないようにまとめてくること。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	春休みの課題(幼児曲の弾き歌い)確認	・ピアノ担当教員全員の前で、春休みの課題(幼児曲15曲)の中から1曲を弾き歌いする。	試験で演奏した結果を振り返り、弾けなかった部分を再度練習する。
2	オリエンテーション	・1年次の担当教員を入れ替える。 ・授業形態は、1年次同様1コマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(10曲) その他(24曲) ・授業方法は、1年次で学んだ基礎的内容をもとに、上記幼児曲(43曲)の弾き歌いができるようにする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。
3	幼児曲の弾きうたいレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ①	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。





-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
25	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。</li> <li>・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。</li> </ul>	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。 30
26	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。</li> <li>・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。</li> </ul>	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。 30
27	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。</li> <li>・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。</li> </ul>	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。 30
28	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。</li> <li>・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。</li> </ul>	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。 30
29	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。</li> <li>・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。</li> <li>・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。</li> </ul>	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。 30
30	Ⅳ期のまとめ、及び確認	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テストの準備をする。	確認テストで上手くできなかった部分を振り返り、新たなレパトリーを増やす 30

<b>科目名</b>	ピアノ I (主科)		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・狙い〕 ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。加えて幼児教育現場で歌われる「生活の歌」の伴奏やマーチも学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概略〕手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲、幼児曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業終了時の達成課題〕 ピアノの基礎的技術をしっかりと身につけるとともに楽曲を通じて音楽理論や時代様式を理解し、自己の表現ができることを目標とする。</p> <p>〔履修カルテ評価項目〕 ①ピアノ演奏技術の問題点を把握し、演奏技術の訓練に活かすことができているか。 ②多声音楽作品を学び、曲の構成と演奏法を理解できたか。 ③古典派などの楽曲を通して、基本的な演奏法を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、小テスト10%	
<b>教科書</b>	ツェルニー、バッハ、古典派作品など進度に応じてその都度指示。 「ピアノ・テキスト」ドレミ出版社2011年 「弾き歌いピアノ曲集」ドレミ出版2014年			
<b>参考書</b>	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。試験曲の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。スケール小テスト。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
12	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
13	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
14	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
18	演奏技術の学習 3	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。演奏発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
19	演奏技術の学習 4	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
21	演奏技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
22	演奏技術の学習 7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。
23	演奏技術の学習 8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
24	演奏技術の学習 9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活の歌」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活の歌」の学習。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活の歌」の学習。	120
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	120

<b>科目名</b>	ピアノ I (副科)		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・狙い〕 ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。加えて幼児教育現場で歌われる「生活の歌」の伴奏やマーチも学ぶ。 〔授業全体の内容の概略〕手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や様々な時代の楽曲、幼児曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業修了時の達成課題〕 ピアノの基礎的技術をしっかりとし身につけるとともに楽曲を通じて音楽理論や時代様式を理解し、自己の表現ができることを目標とする。 ①ピアノ演奏技術の問題点を把握し、演奏技術の訓練に活かすことができているか。 ②様々な楽曲を通して基礎的な読譜力を身につけることができたか。 ③様々な楽曲を通して基礎的な演奏法を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、小テスト10%	
<b>教科書</b>	<p>「ピアノ・テキスト」ドレミ出版社2011年 「弾き歌いピアノ曲集」ドレミ出版2014年 進度に応じてその都度指示。</p>			
<b>参考書</b>	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みま			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	基礎技術の学習1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
2	基礎技術の学習2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
3	基礎技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
4	基礎技術の学習4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
5	基礎技術の学習5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
6	基礎技術の学習6	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
7	基礎技術の学習7	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	60
8	基礎技術の学習8	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の選定。	60
9	基礎技術の学習9	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の読譜みを進める。	60
10	基礎技術の学習10	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。	60
11	演奏表現の学習1	試験曲とマーチの学習。演奏に必要な技術を実身に身につけ表現に結びつける。	60
12	演奏表現の学習2	試験曲とマーチの学習。演奏に必要な技術を実身に身につけ表現に結びつける。	60
13	演奏表現の学習3	試験曲とマーチの学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を実身に身につけ表現に結びつける。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	演奏表現の学習 4	試験曲とマーチの学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ自発的な表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。
16	アンサンブルの学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブル曲に取り組む。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
17	アンサンブルの学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
18	アンサンブルの学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルによる音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
19	アンサンブルの学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
20	アンサンブルの学習とまとめ	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディスカッションを行う。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め仕上げの練習を行う。授業後は次の課題の譜読みをする。
21	演奏技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
22	演奏技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。小テストに向け仕上げをする。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。
23	演奏技術の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。小テスト。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
24	演奏技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。試験曲の選定。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
25	演奏表現の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。試験曲を正確に譜読みする。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
26	演奏表現の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。試験曲を正確に譜読みする。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
27	演奏表現の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活の歌」の学習。試験曲への理解を深め、表現について考える。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
28	演奏表現の学習 4	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
29	演奏表現の学習 5	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。
30	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。

<b>科目名</b>	保育表現技術 造形 I		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	草野 葉子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質の向上を図る。</p> <p>基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自らの表現体験を通して学び、感性を豊かにすると共に表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子ども理解を深め、加えて体験活動の保育への展開も考える。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①素材の特徴や魅力を知り活用することができる。</p> <p>②造形や描画素材が身近に存在することを知る。</p> <p>③さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現することができる。</p> <p>④幼児期の特徴と発達過程について、描画や造形活動の視点から理解することができる。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生（主として1年生）	<b>成績評価 方法</b>	課題取組結果としての作品・活動記録と活動状況にて評価する。配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。	
<b>教科書</b>	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。			
<b>参考書</b>	課題により授業時に指示する。			
<b>学生への要望</b>	<p>◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。</p> <p>◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に行う。</p> <p>◎作品・活動記録の提出期限を厳守。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	火曜～木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス・イメージと色	<p>1. 「保育表現技術造形 I」のねらいと授業計画及び準備物について説明。</p> <p>2. イメージの表現。</p> <p>①イメージと色の関係について表現を通して考える。</p> <p>②形のないものを表現する体験をする。</p> <p>③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。</p>	色と心の関係をテーマとした資料や本を探し目を通す。
2	描画コミュニケーション	<p>描画による他者との対話を通し、相手の心持やイメージを共有する。</p> <p>①ペアドローイング・スクイグルを体験する。</p> <p>②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。</p> <p>③感受性を刺激し豊かにする。</p>	描画による対話体験が、保育や子どもとの関わりにどのように発展できるかについて考えたことをまとめる。
3	自然を凝視める	<p>造形と子どもについて自然との関係から考える。</p> <p>1. 自然の造形美を味わう。</p> <p>①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。</p> <p>②観察する目を養う。</p> <p>2. 自然環境と子どもについて考える。</p> <p>子どもの記録を紹介し、子どもと自然環境との関係について造形の視点から考える。</p>	学内や自宅周辺など身近な環境に目を向け、草花や樹木等の姿を観察する。
4	布による表現 I	<p>テーマ：布と環境</p> <p>自在に変化する布の特徴をいかした造形表現体験。</p> <p>①自在に変化する布の特徴を知る。</p> <p>②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。</p> <p>③身体に布を巻きつけた表現を行う。</p> <p>④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。</p>	次回使用する紐類の選択準備、作品の構想や環境活用についてグループで話し合う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
5	布による表現Ⅱ	<p>テーマ：布と紐と環境 「布による表現Ⅰ」の体験を基に、紐を加えた造形表現体験。 ①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。 ②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。 ③「見立て」による表現や遊びを創造する。 ④作品を発表し相互に学びを共有する。</p>	<p>布や環境を活用した表現や遊びについて、その発展的展開や保育への応用について考えたことをまとめる。</p> <p align="right">30</p>
6	布による表現Ⅲ	<p>活動記録のまとめ 「布による表現Ⅰ・Ⅱ」の作品と活動内容を写真と記録にまとめる。 ①作品写真によりグループで活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。 ②実際の保育への展開について考えたことをグループで話し合い、情報を表有する。</p>	<p>子どもの具体的な行動をイメージした保育展開を考える。次の課題「身近な素材による表現」に使用する雑誌や新聞等の印刷物と用具の準備をする。</p> <p align="right">30</p>
7	身近な素材による表現Ⅰ	<p>平面表現《コラージュ》 雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。 ①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。 ②見立て表現の体験を通し物を見る目や発想力を刺激する。 ③切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。</p>	<p>コラージュ体験が、どのように保育へ発展させることができるか考えたことをまとめる。</p> <p align="right">30</p>
8	身近な素材による表現Ⅱ	<p>平面表現《紙芝居作り》 コラージュ作品に物語を添えて紙芝居を作る。 ①即興による物語づくりを体験する。 ②紙芝居作りを通して保育教材への展開を考える。</p>	<p>物語作りの体験をもとに、絵本等を参考に物語の構成について研究する。今回の立体表現に使用する素材と用具の準備をする。</p> <p align="right">30</p>
9	身近な素材による表現Ⅲ－その1	<p>立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その1） ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。 ②加工方法について研究する。 ③作品の構想を練る。</p>	<p>実験体験を踏まえて作品構想をグループで話し合い、素材や用具の追加を行う。</p> <p align="right">30</p>
10	身近な素材による表現Ⅲ－その2	<p>立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その2） ①作品構想を基に具体化する。 ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせにより豊かな作品にする。</p>	<p>作品未完成の場合は、完成までの活動計画と実践。次回作品発表のグループ打合せを行う。</p> <p align="right">60</p>
11	身近な素材による表現Ⅳ	<p>作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会 ①他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。 ②作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ③活動過程と発表会の結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。</p>	<p>紙芝居作りや立体表現体験をもとに保育への発展について考えたことをまとめる。次の課題「色材による表現」に使用するクレパスやスケッチブックを準備する。</p> <p align="right">30</p>
12	色材による表現Ⅰ	<p>テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知ると共に、身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①組成から色材の特性を知る。 ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。 ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。</p>	<p>身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する水彩用具一式の準備をする。</p> <p align="right">20</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	色材による表現Ⅱ	<p>テーマ：水彩の特性をいかした表現体験 水溶性色材の特性を学ぶ。 ①ひたし染め・ステンシル等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。 ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。 ③身近な素材が表現道具として使用できることを知る。</p>	<p>身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。水彩用具に加えて、次回使用する細類や野菜等の準備をする。</p> <p align="right">30</p>
14	色材による表現Ⅲ	<p>テーマ：版画による表現体験 身近な素材を活用した表現により、版画の魅力と多様性を学ぶ。 ①スタンピング・縄文遊びの技法を体験し、版画の多様性を知る。 ②素材の違いによる表情の変化を味わう。 ③野菜や生活用品等様々な物が表現道具として使用できることを知る。</p>	<p>身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。グリーティングカード郵送者の住所等の情報を収集する。また作品制作に必要な材料や用具を準備する。</p> <p align="right">30</p>
15	色材による表現Ⅳ	<p>テーマ：まとめの作品づくり クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅲを基にカラーージュによる作品づくり。 ①表現体験したものを素材として使用し、その一部を切り取り貼りあわせてカードに仕立てる。 ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを描く。</p>	<p>身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次の課題「ペーパークラフト」に使用するスケッチブック・カッター・接着剤等の準備をする。</p> <p align="right">20</p>
16	ペーパークラフトⅠ	<p>紙について、その性質や加工方法を学ぶ。 1. 紙の性質 ①紙の繊維の方向について知る。 ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。 2. 加工方法の基礎（その1） ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。 ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。</p>	<p>身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する用具を確認し準備する。</p> <p align="right">20</p>
17	ペーパークラフトⅡ	<p>1. 加工方法の基礎（その2） ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。 ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。 2. 応用表現（その1） ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。</p>	<p>身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する用具を確認し準備する。また仕掛け絵本などに目を通す。</p> <p align="right">60</p>
18	ペーパークラフトⅢ	<p>応用表現（その2） ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。</p>	<p>次回使用する用具を確認し準備する。仕掛けのある絵本やカードなどに目を通し作品構想を練る。</p> <p align="right">60</p>
19	ペーパークラフトⅣ-①	<p>ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その1） 加工方法の基礎や応用表現を基にまとめとしての作品をつくる。 ①応用表現の「斜め折り」「平行折り」を使用し、グリーティングカードを作る。 ②ペーパークラフトⅠ～Ⅲを土台に作品構想を練る。 ③作品構想に基づき実験を行う。</p>	<p>作品に使用する紙など、構想に基づいた素材を探し準備する。作品に関連する資料についても継続して収集する。</p> <p align="right">30</p>
20	ペーパークラフトⅣ-②	<p>ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その2） 作品をまとめ完成させる。 ①構想にあった紙を選択する。 ②実験結果をまとめて作品として完成させる。</p>	<p>次回の発表までに作品を完成させる。</p> <p align="right">60</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
21	ペーパークラフトⅤ-作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。 ①他者の取り組みから基礎加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。 ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。	書店等を訪ね仕掛け表現を活用したものに目を向け視野を拡大する。次の課題「光と影による表現」に使用するカッター・はさみ・接着剤等を準備する。	20
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。 ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色が変化することを知る。 ②重なりによる色や形の変化を味わう。 ③色影の魅力を味わう。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する光にかざすことのできる素材を準備する。	30
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の魅力を味わう。 ①各種素材を光にかざし表情の変化を観察する。 ②光の遮断・透過により異なる表情を観察する。 ③さまざまな物で光と影による表現を行う。	表現体験をもとに作品構想についてグループで話し合う。更に必要な素材についても準備する。	40
24	光と影による表現Ⅲ	光と影による作品づくり。 ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。 ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。	光と影の表現体験をもとに、どのように保育へ発展させることができるか考えたことをまとめる。	30
25	素材体験Ⅰ-小麦粉を素材とした表現体験①	フィンガーペインティング-色のりと身体による表現体験 ①小麦粉を使用しの手作りを体験し、色のりの作り方を学ぶ。 ②色のりの感触を味わう。 ③手の動きによる色のりの表情の変化を味わう。	フィンガーペインティングの体験をもとに、子どものさまざまな反応を予測した上で、保育へ生かし方について考えたことをまとめる。	30
26	素材体験Ⅱ-小麦粉を素材とした表現体験②	小麦粉粘土-粘土の特徴と魅力 ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。 ②小麦粉粘土の特徴を知る。 ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。	小麦粉粘土の体験をもとに、子どものさまざまな反応を予測した上で、保育へ生かし方について考えたことをまとめる。	30
27	素材体験Ⅲ-お菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現 ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを楽しむ。 ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。 ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。	お菓子による造形表現体験をもとに、保育行事等への展開方法について具体的に考えたことをまとめる。	30
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。 ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。 ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰ-1における、子どもの発達過程に関する観察視点についてポイントをまとめる。	30
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。 ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。 ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰ-1における、子どもの内面と表現についての観察視点のポイントをまとめる。	30
30	まとめ	保育環境と造形。 ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。 ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰ-1における、保育環境に関する観察視点についてポイントをまとめる。	30

<b>科目名</b>	保育表現技術 造形Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
<b>担当教員</b>	早川 仁			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	保育に関して環境構成や、適する造形素材・用具知識・技法を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研究を積み重ねて造形活動の側面から保育実践力を身につける。			
<b>達成目標</b>	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。 * この授業では描画基礎を身に付けることを中心目標に置く。 2 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。 3 造形活動を通して保育実践力を身につける。			
<b>受講資格</b>	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	<b>成績評価 方法</b>	・授業課題作品 60点 ・平常点 10点 ・宿題作品 30点	
<b>教科書</b>	特になし。			
<b>参考書</b>	著—V・ローエンフェルド 訳—竹内清 「美術による人間形成」 1989年 黎明書房 (特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める)。			
<b>学生への要望</b>	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。 課題作品提出締切日を厳守すること。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	90
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明(授業の約束・授業日程表) ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」 ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。 ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。 描画素材—水彩・色鉛筆・クレヨンなど(鉛筆・ペンなどの単色も可)	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。宿題作品(折り紙構成及びキャラクターデザイン画)を各1枚仕上げ
2	壁面構成①	壁面構成とは何かを学ぶ。 ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようになっていくための方法であることを理解する。 A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する  選択テーマの研究(行事の謂われ、季節の動植物、デザイン構成など)～アイディアスケッチ作成～提出(中間指導)。	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。 いろいろな壁面構成の作品を調べる。 宿題作品(折り紙構成及びキャラクターデザイン画)を各1枚仕上げ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
3	壁面構成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構成・配色等を検討して、作品制作。～完成～提出。</li> <li>・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一</li> <li>・ベース素材=厚手の紙であれば自由（模造紙は薄いので不可・ボール紙は可）</li> <li>・装飾素材=自由（保育現場で使用する身近なものがより望ましい）</li> <li>・立体平面どちらも可 ・個人制作とする ・優秀作品は83年館1階掲示</li> </ul>	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。 いろいろな壁面構成の作品を調べる。 宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる
4	実習準備研究① 計画案の実例から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布</li> <li>1 計画案の実例から学ぶ（先輩の実習指導案・報告書資料から）</li> <li>・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。</li> <li>2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料など用いて決定し素材・手順など教材研究する。</li> <li>* 次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。</li> </ul>	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。 教育実習で取り入れたい造形活動を検討しておく。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる
5	実習準備研究②	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 実際の制作を通して教材研究する。</li> <li>2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。（次回までに仕上げる）</li> <li>3 模擬授業発表グループ（1G6名程度）～担当配役決定（実習生1名・園児一その他全員）*対象年齢・環境構成・実施時間など明確にしておく。</li> <li>次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。</li> </ul>	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。 教育実習で取り入れたい造形活動の教材研究と並行しながら計画案を作成する。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる
6	実習準備研究③	模擬授業グループ内検討会～発表練習 ・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。 より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。（幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる） ・ 次回の発表練習	教材研究と並行しながら計画案を作成する 模擬授業発表の材料を準備する宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる
7	実習準備研究④	各グループ模擬授業発表 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う	宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作①	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、 実習で実践した（造形活動）実施報告書記載</li> <li>2、 授業研究用アンケート。</li> <li>3、 保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。</li> <li>内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ＝F-6</li> </ul>	実践報告書をまとめる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる

<b>科目名</b>	保育表現技術 体育 I		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	柴田 卓			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。          ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。          ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。</p> <p>〔授業全体の概要〕</p> <p>実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた運動遊び指導のポイント、安全面や環境設定等を実践的に学習するためにロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①幼児期の運動・健康について理解する。          ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。          ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	ポートフォリオ（ノート）50点 実技20点 レポート15点 平常点15点	
<b>教科書</b>	柴田卓 石森真由子編, 楽しく学ぶ運動遊びのすすめーポートフォリオを活用した保育実践力の探求ー, みらい, 2017			
<b>参考書</b>	幼児期運動指針策定委員会, 幼児期運動指針ガイドブック, 文部科学省, 2013			
<b>学生への要望</b>	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日3・4時限 木曜日3・4時限 824研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション（体育館）	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。	ルーブリックを活用し、現状の知識・スキルについて、自今診断を行う。	45
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。	アイスブレイクについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。（じゃんけんゲームや伝承遊びなど）	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。（協力・コミュニケーションスキルなど）	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。	ボール遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する	フラフープやコーン遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
7	グループ演習①（集団遊びの制作）	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。（グループワーク）	グループワークについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
8	グループ演習②（集団遊びの発表）	作成した遊びを発表・実践し評価する。（ロールプレイ） 第1回ノート提出	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
11	グループ演習③（リズムダンス）	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
12	グループ演習④（リズムダンス）	リズムダンスの作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
13	グループ演習⑤（リズムダンス）	リズムダンスの発表（ロールプレイ）	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。	親子体操について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
15	講義（教室）	自分たちの発表したリズムダンスの映像を見ながら、お互いに評価を行う。	リズムダンスの発表映像から、各自の課題と後期の目標を設定する。
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。（単・長縄跳びの導入・展開）	縄跳びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。	外遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。（跳箱を使った遊びの導入・展開）	跳び箱について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。（跳箱の指導法と留意点）	跳び箱について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。（マットを使った遊びの導入・展開）	マットについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。（前転・後転・側転の指導法）	マットについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
22	グループ演習⑥（リスクマネジメント）	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。第3回ノート提出	安全管理について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。	運動会種目について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。（パルーン演技等）	パルーンについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。（組体操の演技等）	組み立て体操について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。	伝承遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
27	グループ演習⑦（模擬保育）	実習で実施できる運動遊び（場所・道具・ルール）を考え、指導案を作成する。	指導計画作成について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
28	グループ演習⑧（模擬保育）	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。	発表した内容について、疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
29	グループ演習⑨（模擬保育）	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。	発表した内容について、疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出	テキストのルーブリックを活用し、1年間の成長を自己診断する。

<b>科目名</b>	保育表現技術 体育Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	一柳 智子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	自分自身と幼児の身体を理解し把握することにより、身体表現能力を高め、子どもの身体表現を豊かにするための質の高い保育実践を 目指し、保育現場に役立てることを目的とする。 子どもの身体表現を豊かにするための指導力向上のため、子どもの年齢別運動特性を知り、無理のない自由な表現能力の開発を行う。 さらに、グループで楽しくダンスを楽しみ、幼児のための小品を創作することができるようにする。 音楽・映像を使用する際著作権を侵害しないようにする。			
<b>達成目標</b>	① 子どもの運動特性を知ることができたか。 ② 身体表現を豊かにすることができたか。 ③ 種々のダンスを楽しく協力して創作することができたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年AB	<b>成績評価 方法</b>	試験30点、提出物40点、平常点30点	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	松本千代栄『舞踊学の現在』（文理閣、2011） 松本千代栄『松本千代栄撰集 2 人間発達と表現—幼・小期』（明治図書、2008）			
<b>学生への要望</b>	こどもたちの身体を理解するためには、自分の身体認識がされていなければなりません。 自分の長所のすべてを他に表現し理解を得られるように、内面の表出を心がけましょう。ひいては、自己啓発にもつながり、幼児の表現 能力を引き出せるノウハウを身に着けることにもつながります。			
<b>オフィスタイム</b>	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20） Ⅳ限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の展開内容の説明</li> <li>・授業の目的：本授業は選択授業であることを認識すること。ダンスおよび舞台パフォーマンスに特に関心の強い方のニーズを満足させるための授業を目的とする。</li> <li>・授業の準備、窓の開閉、掃除係の分担決め</li> <li>・授業の準備として、体育館中央のネットをひく。</li> <li>・服装等：ジャージ上下またはダンス用のウェアを着てもよい。靴は運動用シューズまたはダンスシューズ。</li> <li>・授業前半ではヨガマットを使用してストレッチを行う。ヨガマットの上に敷く大判のバスタオルを毎回持参すること。</li> </ul>	20
2	身体表現の基礎	<p>前半：アップ（ウォーキング、ジョギング、スキップ、ギャロップ、ケンケンパ等）。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部位を意識して行うとより効果的です。</p> <p>後半：姿勢と立ち姿の確認。座った姿勢、立った姿勢。</p> <p>自分の体のゆがみを確認します。</p> <p>動きの種類：歩行：日常的歩行、スポーツ的歩行、舞台的歩行。</p> <p>バレエ的身体表現 ボードブラ（上肢の滑らかな舞踊動作の練習）</p>	20
3	子どもの運動特性について -1：「はとぼっぽ体操」 から	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：幼児体操の古典である「はとぼっぽ体操」を習得する。</p>	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
4	子どもの運動特性について -2:「はとぼっぽ体操」 から	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。 後半:「はとぼっぽ体操」を習得し、各部分を分析し、子どもの運動可能領域と特性を考えよう。	ストレッチ  20
5	幼児用ダンス作品の創作-1	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。 後半:舞踊小作品の創作-1 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。1分ほど創作。	ストレッチ  20
6	幼児用ダンス作品の創作-2	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。 後半:舞踊小作品の創作-2 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。さらに1分ほど創作。	ストレッチ  20
7	幼児用ダンス作品の創作-3	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。 後半:舞踊小作品の創作-3 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。さらに1分ほど創作。	ストレッチ  20
8	幼児用ダンス作品の発表会	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。 後半:舞踊小品の発表会。自己の作品を発表するとともに、他グループの作品を鑑賞する。鑑賞ポイントを押しさえながら、鑑賞し、自己の作品と比較考察する。身体表現の豊かさの構築に役立てる。	ストレッチ  20

<b>科目名</b>	乳児保育Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤を培う時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について理解を深める。子どもの基本的な生活習慣や基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について授業を行う。※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。 [授業の目的・ねらい] 乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。			
<b>達成目標</b>	1)乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する 2)保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する 3)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する 4)乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。			
<b>受講資格</b>	保育士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験80点、レポート20点	
<b>教科書</b>	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2018年 『見る・考える・創り出す 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 萌文書林 2019年 ※資料を随時配布			
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 松本峰雄監修『乳児保育演習ブック(第2版)』ミネルヴァ書房 2019年 榎原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年			
<b>学生への要望</b>	乳児保育を実践する場合、乳児の発育・発達に合わせた保育内容を理解でき、実践できるように積極的に講義に臨んで下さい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 I時限(8:50~10:20) 832研究室 木曜日 I時限(8:50~10:20) 832研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	乳児保育の意義・目的と役割	1)乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2)乳児保育の役割と機能 3)乳児保育における養護及び教育 ※乳児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることを理解する。乳児保育の役割と機能について、乳児保育の特徴を踏まえながら、養護と教育の一体性とは何かを学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
2	乳児保育の現状と課題①	1)乳児保育および子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 ※保育をめぐる制度や法改正、子育て世代を取り巻く社会的状況を踏まえながら、乳児保育の重要性や保育所の子育て支援を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
3	乳児保育の現状と課題②	1)保育所における乳児保育 ※保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
4	乳児保育の現状と課題③	1)保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 2)家庭的保育等における乳児保育 3)3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 ※乳児院を中心に、保育所以外の児童福祉施設の現状と課題について学ぶ。また、乳児院の役割と支援方法の基礎的理解をする。	保育所以外の児童福祉施設の種類の役割を調べる。
5	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場①	1)3歳未満児の生活と環境① 2)3歳未満児の遊びと環境① 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育① ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※テーマは授業中に説明する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場②	1)3歳未満児の生活と環境② 2)3歳未満児の遊びと環境② 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育② ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※テーマは授業中に説明する。
7	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場③	1)3歳以上児の保育に移行する時期の保育 ※『保育所保育指針』における1歳以上3歳未満児のねらいと内容及び内容の取扱いでは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域につながることを理解する。養護と教育が一体となった3歳以上児の保育について学びを深める。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
8	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場④	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり① ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
9	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑤	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり② ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
10	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑥	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 2)乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ※心身が未熟な3歳児未満児の心身の機能が未熟であることから、生命の保持と情緒の安定が重要であることを理解する。発達に応じた安心・安全な保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
11	3歳未満児の発育・発達と保育①	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育① ※乳児の発育・発達過程を理解し、「健やかにのびのび育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」視点から遊びや食事の保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
12	3歳未満児の発育・発達と保育②	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育② ※乳児の発育・発達過程を理解し、排泄の援助方法を理解する。基本的な生活習慣の自立に向けて必要な保育を学ぶ。また、基本的な生活習慣の自立に向けて保育所のみで進めることはできないことを理解し、家庭との連携について考える。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
13	3歳未満児の発育・発達と保育③	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育③ ※乳児の発育・発達過程を理解し、基本的な生活習慣の自立に向けた衣服の着脱・清潔の保持の援助方法を理解する。子どもの年齢により、自己主張が強くなり自分でやろうとする子どもに対して、子どもの気持ちを尊重し見守り適切な援助をしていく必要性を理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
14	3歳未満児の発育・発達と保育④	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育④ ※乳児の発育・発達過程を理解し、月齢に応じた抱っこ・おんぶの方法について理解する。乳児の欲求に対して愛情ある応答的にかかわることで乳児は養育者と愛着関係を深めていくことを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。
15	乳児保育における連携・協働	1)職員間の連携・協働 2)保護者との連携・協働 3)自治体や地域の関係機関等との連携・協働 ※乳児の健康と安全を守るための関係機関の連携について学ぶ。子育て支援や虐待から子どもの命を守るための保育所・保育者の役割について理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。

<b>科目名</b>	乳児保育Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	近年、国際的にも自尊心や自己統制、忍耐力といった社会情勢のスキルやいわゆる非認知的能力を乳幼児期に身につけることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究成果から乳幼児期、特に3歳児未満児の保育の重要性への認識が高まっている。乳幼児期の周囲の人・物、自然など様々な環境との関わりで自己という感覚や自我が育つ。乳児期からの保育の積み重ねは基本的な生活習慣の形成、社会性の獲得にも影響する。それらを踏まえ、演習ではグループ演習等を通して、異なる意見に耳を傾け、問題解決に向けた努力と答えが明確でないことに対し問いに対して、自ら考え続ける態度を身につける姿勢を養う。		
<b>達成目標</b>	1) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。 2) 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4) 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験20点、課題レポート80点
<b>教科書</b>	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2018年 『見る・考える・創り出す 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 萌文書林 2019年 ※資料を随時配布		
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
<b>学生への要望</b>	演習には主体的姿勢をもち参加して下さい。また、演習はグループで演習を行いますので協調性を大切にしましょう。		
<b>オフィスタイトム</b>	月曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	乳児保育の基本①	1) 子どもと保育士等との関係の重要性 2) 個々子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり ※子どもと保護者との応答的関わりや信頼関係、子どもと環境の相互作用が子どもに与える影響について考える。応答的関わりや共感性が子どもの発達にどのような関係があるかについて理解を深める。	テキストの授業内容に係るページを読む。 0
2	乳児保育の基本②	1) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 2) 子どもの体験と学びの芽生え ※事例をもとに、子どもの主体性の尊重について考える。子どもの視点に立ち「体験」からどのような学びがあるかを話し合い考えを深める。	テキストの授業内容に係るページを読む。 0
3	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①	1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 ※保育環境における人的環境と物的環境について考える。1日のデイリープログラムから乳児の生活、保育者の動きや配慮を理解する。	テキストの授業内容に係るページを読む。 0
4	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②	1) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際① 2) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際① 3) 子ども同士の関わりとその援助の実際① ※保育における生活と遊びの場面から「養護」の視点、5領域につながる「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちに通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」視点を考えていく。	テキストの授業内容に係るページを読む。 0
5	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③	1) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際① 2) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際① 4) 子ども同士の関わりとその援助の実際① ※子どもの気持ちや育ちを尊重し自立を促す基本的な生活習慣について考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。 0
6	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④	1) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際② 2) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際② 5) 子ども同士の関わりとその援助の実際② ※子どもの気持ちや育ちを尊重し自立を促す基本的な生活習慣について考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。 0



<b>科目名</b>	教育実習Ⅰ		
<b>担当教員</b>	猪股 照子, 折笠 国康, 賀門 康博, 奥 美代, 仲西 真美子, 安部 高太郎	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として確立できるよう授業をする。また、この授業の中で学ぶことは、すべての実習の基本となる。保育所・幼稚園勤務歴40年の中で、培った幼児理解や保護者対応の仕方や保育者の幼児に対する関わり方や姿また、環境の設定等を授業を進めていく。		
<b>達成目標</b>	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項として（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児理解）を把握し、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として形成できることを到達目標とする。また、基本的な生活態度を身に付けるとともに、ルールを守ること・その場に応じたマナーを身に付けること・コミュニケーション能力を備えていくことを達成目標とする。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年「幼二種」免許取得希望者	<b>成績評価 方法</b>	確認テスト50% 課題20% レポート・漢字テスト・ノート30%より評価する。
<b>教科書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料をファイリングしておくこと</li> <li>・学びをいかすハンドブック(大学図書出版)</li> <li>・文部科学省幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</li> <li>・厚生労働省保育所保育指針 (フレーベル館)</li> <li>・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)</li> </ul>		
<b>参考書</b>	・授業中に適宜資料を配布する。		
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。</li> <li>・欠席・遅刻はしないこと。</li> <li>・講義室の座席は、番号順とする。</li> <li>・授業連絡はWeb上で行います。確認してください。また、実習掲示板での連絡もあるので確認すること。【教育実習掲示：83年館3階 831講義室前】</li> </ul>		
<b>オフィスタイム</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて随時対応する。</li> <li>・83年館3階 831研究室</li> <li>・月曜日・火曜日10:30~16:00</li> </ul>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	90
1	オリエンテーション	授業に関するガイダンスの実施をする。学外幼稚園希望調査・附属幼稚園の概要についての説明をする。教科書やノートについて、記入の仕方や漢字ミニテストの説明をする。	90
2	教育実習の理解・幼児理解	保育用語についての漢字ミニテストを(授業内10分)幼稚園教育の内容についての理解をする。実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解等を教科書や資料を用いて分かりやすい言葉で事例を挙げながら進める。(授業の進み具合により児童文化の内容から紹介する) 本日の講義の学びや感想質問等をシートに記入する。	90
3	教育実習についての留意事項	漢字ミニテストをする。 幼稚園の一日の生活の流れを理解する。学外幼稚園における電話のかけ方・訪問の仕方を理解する。 事例を基に幼稚園の一日の園児と保育者の姿を理解していく。また、園の行事の意義について理解する。 授業の進み具合により、児童文化内容より紹介する。 授業の振り返りをし、シートに記入する。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
4	実習方法① 附属幼稚園見学	漢字のミニテストをする。 附属幼稚園見学をする。 附属幼稚園の基礎実習について、園長より講話を聴く。 附属幼稚園の建物・部屋・職員・子ども・保護者の様子を見る。(保育室・戸外遊具見学) 振り返りシートの記入をする。	附属幼稚園の園長先生講話と見学しての感想をノートにまとめる。 保育用語の漢字練習をする。	60
5	幼稚園教育の基本Ⅰ	保育用語の漢字ミニテストをする。 2歳から6歳の発達を視野に入れた保育のポイントについて理解する。 各年齢別の重要な部分の事例を用いて、また、資料を基に進める。 授業の進み具合により、児童文化の内容から紹介する。 授業の振り返りをシートに記入する。	本日の授業内容をノートに整理する。 漢字の練習をする	90
6	実習方法②	自己紹介冊子について学習をする。(自己紹介冊子の利用の仕方・作成について工夫すべき点などの話し合いを持つ) スケッチブックを使って、自己紹介ブックを作る。 (事例を見たり資料を見たりして手順を知る) 友だちと話し合いながら言葉や図を決める。実践の方法を説明する。後日一人ひとり発表する。 振り返りシートに記入する。	本日の授業の内容をノートにまとめる。 自己紹介ブック作製をする。	90
7	幼稚園教育の基本Ⅱ	教師の陥りがちな視点について理解する。 事例や映像を用いながら説明する。 授業内容の感想や質問事項をシートに記入する。	教育要領を開き、ノートを記入整理をする。	90
8	幼稚園教育の基本Ⅲ	子どもの見方・見え方と保育の視点について理解する。 スライドや映像を見て説明する。 授業の感想や学びをシートに記入する。	本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	60
9	実習方法③	附属幼稚園関係書類を配布し説明する。 保育の実際と日誌について学び、自己紹介冊子の実践記録を記入する。 日誌と指導計画の説明をする。 自己紹介ブックの実践記録を記入する。 授業の感想質問等をシートに記入する。	教育要領や教科書を見ながらノートを整理する。 自己紹介ブックの実践練習をする。	90
10	幼児の発達理解と保育の実際	幼児の発達を理解する。自己紹介冊子を使って実演する。 実践記録を基に年齢を設定し発表をする。 授業の内容などシートに記入する。	本日の発表の様子等をノートにまとめる。	60
11	実習方法④	保育の実際と指導計画について学び、実践記録に基づき、幼稚園指導計画を作成する。 様々な事例や文章の記入ことばの選び方など整理する方法を交え、説明する。 年齢別の指導計画作成をする。 振り返りシートに記入する。 本日の授業の内容等をシートに記入する。	本日の授業内容のノート整理をする。	90
12	実習方法⑤	幼児の年齢別の発達について理解する。事例を基に、エピソード演習をする。幼児への視点や保育者の関わり方について、学習する。 各年齢ごとの発達の事例を基にエピソードの視点を理解する。また、保育者の関わり方も演習の中で理解する。振り返りシートに記入する。	本日の授業の中のとまとめ記入を教育要領を開きながら、記入する。	90
13	実習方法⑥	事例を基に、幼児への具体的な関わり方の演習をする。様々な関わり方・声掛けの仕方・援助の仕方を学習する。 事例を基に、幼児へ具体的に関わり、声掛けをするのか実演しながら理解する。 幼児の成長発達の違いや一人ひとりの幼児によって関わり方も異なることを具体的に分かりやすいことばで説明する。 振り返りシートに記入する。	本日の授業内容を教科書を見ながら確認まとめをノートにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	幼稚園実習の評価と意義	<p>教育実習の意義や実習を通しての自己評価と他者評価についての理解し次の実習への課題を明確にする。                      実習に向けて、基本的な生活態度やマナーやルールについて理解する。                      附属幼稚園の事後指導の自己評価と幼稚園の評価について理解する。                      個人面談の中で、課題が明確になるので、次の実習への糧とする。</p>	<p>本日の授業の内容をノートにまとめる。</p> <p align="right">90</p>
15	教育実習1のまとめ	<p>教育実習 I について課題を明確にする。                      まとめテストを受ける。ノート持ち込み可(60分)                      テスト後、内容確認をし次の実習へ繋げる。</p>	<p>附属実習の日まで、授業で学んだことを復習し、準備をする。</p> <p align="right">90</p>

<b>科目名</b>	教育実習Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	猪股 照子, 安部 高太郎, 仲西 真美子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として確立できるよう授業をする。			
<b>達成目標</b>	授業のねらいは、幼稚園教育に関する基本事項として（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児理解）を把握し、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として形成できることを到達目標とする。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	実習園からの評価50% 実習日誌20% レポート・事後指導レポート30%	
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）			
<b>参考書</b>	文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説』フレーベル館 授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生への要望</b>	常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習を行えるようにすること。 授業終了後に各自一回、事後指導を受けることを条件とする。 （輪番制） 事後指導は各班毎、1時限単位で行う。			
<b>オフィスタイム</b>	必要に応じて随時対応します。 83年間3階 831研究室 月曜日・火曜日10:30~16:00			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション（教育実習事前指導Ⅲの①）	附属幼稚園基礎実習を1週間行う。10班編成にし、前期に1班～4班・後期に5班～10班行う。 前期は、幼稚園実習Ⅰの授業と合わせて行い、班ごとの事後指導（個別指導・自己評価及びレポート）とする。4回の事後指導とする。後期は、幼稚園実習ⅡまたはⅢの授業と合わせて行い、班ごとの事後指導（個別指導・自己評価及びレポート）とする。6回の事後指導とする。学外教育実習の観察参加実習の意義と実習方法について理解する	90
2	教育実習事前指導Ⅲの②	観察参加実習の方法と幼児の発達と保育の実際を理解する。	90
3	教育実習事前指導Ⅲの③	観察参加実習日誌記録の取り方と日誌記入の仕方を理解する	120
4	教育実習事前指導Ⅲの④	部分実習参加の導入方法及び日誌記入の仕方を理解する。	120
5	教育実習事前指導Ⅲの⑤	学外教育実習の書類の記入の仕方とお礼状の書き方を理解する	120
6	教育実習事前指導Ⅲの⑥	2年生の「実習に関する体験」の話から学んだことをレポートする	120
7	教育実習事前指導Ⅲの⑦	学外教育実習において「実習手引き」の説明及び心得を理解する。	120
8	教育実習事前指導Ⅲの⑧	学外教育実習において指導計画（部分）の記入の仕方を理解する。 学外教育実習においての心構えと幼稚園の認識をレポートし、学外幼稚園実習において理解する。	120

平成31年度

<b>科目名</b>	教育実習Ⅲ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
<b>担当教員</b>	猪股 照子			
<b>開講期</b>	Ⅱ			
<b>授業概要</b>	授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として確立できるよう授業をする			
<b>達成目標</b>	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項として（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児理解）を把握し、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として形成できることを到達目標とする。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	実習園からの評価40%実習日誌20% 課題・事後指導レポート40%	
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）			
<b>参考書</b>	文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説』フレーベル館 授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生への要望</b>	常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習に臨むこと。 事前指導（Ⅱ期）、事後指導（Ⅲ期）を受講すること。 事後指導は個別に行う。（輪番制）※1時限に約10名の参加とする。			
<b>オフィスタイム</b>	必要に応じて随時対応します。 83年間 3階 831 月曜日・火曜日10:30~16:00			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	100
1	オリエンテーション	教育実習観察参加実習の事後指導及び教育実習Ⅳの事前指導含む。 クラス別5班編成によりグループワーク及び個人指導を行う。 新教育要領の保育内容の目指すことの確認をし、理解する。 幼児の発達の変化に対する計画について理解する。	100
2	3歳児の発達理解について	3歳児の本実習時における発達を理解し、指導計画案の立て方及び実践を行う。	100
3	4・5歳児の発達理解について	4・5歳児のそれぞれの発達を理解し、指導計画案の立て方及び実践を行う	100
4	教育実習日誌の記入の仕方	エピソード事例に基づき、実習日誌の記入の仕方及び幼児の遊びの視点と援助について理解する。また、保育者の幼児への関わり方や言葉かけを理解する。	100
5	教育実習指導計画案について（部分実習）	新教育要領にある「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」を意識して担当保育者の指導の下に記入していくことを理解する。	100
6	教育実習指導計画案について（総合実習）	新教育要領にある「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」を意識して担当保育者の指導の下に記入していくことを理解する	100
7	幼稚園実習の資料・手引きの説明	教育実習の手引きを基に、基本的な生活習慣について事例を挙げ説明する。	100
8	幼稚園実習心構えについて	専門職として教師に求められている資質及び力量について資料を基に現場の教師の研修や学びについて学習する。	100

平成31年度

<b>科目名</b>	教育実習Ⅳ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	猪股 照子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として確立できるよう授業をする。教育実習Ⅲ（観察参加実習）の体験をもとに、学外実習園において2週間の保育場面に参加し、保育者としての役割を取りながら、体験を通して保育者にふさわし態度及び保育技術を習得する。</p> <p>※実習内容については、『教育実習要項』に示してある。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>授業のねらいは、幼稚園教育に関する基本事項として（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児理解）を把握し、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践と関連の理解を図るとともに、実習の反省を通して、保育の改善の方法を身につけ、主体的・自発的に、幼稚園教育の専門職として形成できることを到達目標とする①園の教育理念や地域の特徴、園での教育課程について理解できたか。</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	実習園からの評価40% 実習日誌20% 課題・事後指導レポート40%
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）		
<b>参考書</b>	<p>文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説』フレーベル館 授業中に適宜資料を配布する。</p>		
<b>学生への要望</b>	<p>常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的・積極的に実習を行 学外実習（本実習）の事前・事後指導を受けることを条件とする</p>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>必要に応じて随時対応します。 83年間 3階 831 月曜日・火曜日10:30~16:00</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	教育実習Ⅳの事後指導について説明し理解する。 新教育要領について説明する。	本日の授業内の課題を学習・記入する 120
2	事後指導	事後指導は、7班編成で行う。課題を基に実習の振り返りをする。 グループ討議を行い、まとめ発表をし、レポートを作成する。 1班～7班（クラス・班別に行なう）	本日の授業内の課題を学習・記入する 120
3	幼稚園教諭申請について	幼稚園教諭申請についての書類や記入の仕方の説明をする	本日の授業内の課題を学習・記入する 120
4	社会人としての心得	社会人としての心得を事例を基に説明する	本日の授業内の課題を学習・記入する 120

<b>科目名</b>	保育実習指導 I		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹, 猪股 照子, 安部 高太郎, 宗像 佑華			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			
<b>達成目標</b>	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点） 授業内テストの成績、提出物の内容50点	
<b>教科書</b>	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018			
<b>参考書</b>	保育実習の手引き（2019年度版） 福島県保育実習施設（2019年度）いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
<b>学生への要望</b>	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ（あわせて2単位）、保育実習の事前指導として開設される。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16:10～17:05、822研究室、それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	保育実習の意義①	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所実習の概要、実習希望先の確認	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
2	実習の内容と課題の明確化①	実習の内容および課題、実習希望先の調整	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
3	実習についての留意事項	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
4	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
5	実習の記録①	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
6	実習の記録②	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
7	実習の計画①	実習における保育計画（指導案）の作成について	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
8	実習の計画②	実習における保育計画（指導案）の作成について	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。
9	保育実習の意義②	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実習の概要	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
10	実習の内容と課題の明確化②	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基本的な特徴の理解、実習希望先の確認	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
11	施設実習と守秘義務・個人情報の保護	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方、実習希望先の調整	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。
12	施設実習の実際	実習の留意事項について、施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望先の決定	30 予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	保育所実習事前指導①	実習生としての心構え、実習日誌の配布、誓約書について	30
14	保育所実習事前指導②	実習の課題の明確化、実習日誌の記入、保菌検査・抗体検査について	30
15	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて (外部の専門家を講師に予定している)	30
16	保育所実習の実際③	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて (外部の専門家を講師に予定している)	30

<b>科目名</b>	保育実習指導Ⅱ又はⅢ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹, 猪股 照子, 宗像 佑 華, 安部 高太郎			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。			
<b>達成目標</b>	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点）授業内テストの成績、提出物の内容50点	
<b>教科書</b>	厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館, 2018。 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2018 適宜、資料等配布。			
<b>参考書</b>	保育実習の手引き（平成30年度版）、福島県保育実習施設（平成30年度）いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
<b>学生への要望</b>	本授業はⅢ期に8コマ（1単位）、保育実習の事前指導として開設される。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
<b>オフィスタイム</b>	毎週月曜10:30-11:30、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	保育実習の振り返り①	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
2	保育実習の振り返り②	保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
3	実習で学んだ重要事項①	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
4	実習で学んだ重要事項②	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価、実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
5	福祉職として働くために①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。（授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定）	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
6	福祉職として働くために②	施設実習の基本的な理解と実習場面における園生や職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。（授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定）	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
7	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。（授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定）	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
8	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて（授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定）	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

<b>科目名</b>	保育実習Ⅰ-1	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。		
<b>達成目標</b>	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%
<b>教科書</b>	保育実習の手引き（2019年度版）福島県保育者養成校連絡会編		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16：10～17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・ 養護と教育が一体となって行われる保育 ・ 保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解 ・ 子どもの心身の状態や活動の記録 ・ 保育士等の動きや実践の観察 ・ 保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・ 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・ 地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 ・ 作成した指導計画に基づく保育実践と評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理 ・ 多様な保育の展開と保育士の業務 ・ 多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・ 意欲・積極性 ・ 責任感 ・ 探究心 ・ 協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

<b>科目名</b>	保育実習Ⅰ-2	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。		
<b>達成目標</b>	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 利用者への理解を深め、支援について理解できたか。 3 支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%
<b>教科書</b>	保育実習の手引き（平成30年度版） 福島県保育実習施設（平成30年度版） いずれも福島県保育者養成校連絡会編		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
<b>オフィスタイム</b>	毎週月曜14：30-15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	1. 施設の役割と機能 ・施設の生活と一日の流れ ・施設の役割と機能	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	2. 利用者の理解 ・利用者の観察とその理解 ・個々の状態に応じた援助やかかわり	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	3. 養護内容・生活環境 ・計画に基づく活動や援助 ・利用者の心身の状態に応じた対応 ・利用者の活動と生活の環境 ・健康管理、安全対策の理解	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	4. 計画と記録 ・支援計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

<b>科目名</b>	保育実習Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹, 猪股 照子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。			
<b>達成目標</b>	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%	
<b>教科書</b>	保育実習の手引き（平成30年度版）福島県保育者養成校連絡会編			
<b>参考書</b>	特に指定しない			
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
<b>オフィスタイム</b>	毎週月曜10：30-11：30、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・ 養護と教育が一体となって行われる保育 ・ 保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解 ・ 子どもの心身の状態や活動の記録 ・ 保育士等の動きや実践の観察 ・ 保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・ 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・ 地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 ・ 作成した指導計画に基づく保育実践と評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理 ・ 多様な保育の展開と保育士の業務 ・ 多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・ 意欲・積極性 ・ 責任感 ・ 探究心 ・ 協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。 60

平成31年度

<b>科目名</b>	保育実習Ⅲ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。		
<b>達成目標</b>	1 児童福祉施設等の役割や機能、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力について実践を通して理解を深めることができたか。 2 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、自己の課題を明確にできたか。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%
<b>教科書</b>	保育実習の手引き（平成30年度版） 福島県保育実習施設（平成30年度版） いずれも福島県保育者養成校連絡会編		
<b>参考書</b>			
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の施設で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
<b>オフィスタイム</b>	毎週月曜14：30-15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgo.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	施設における支援の実際	1. 受容し、共感する態度 2. 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 3. 個別支援計画の作成と実践 4. 子どもの家族への支援と対応 5. 多様な専門職との連携 6. 地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育士の多様な業務と職業倫理	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育士としての自己の課題を明確化	保育士としての自己の課題を明確化する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	実習生としてふさわしい適切な態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲・積極性</li> <li>・責任感</li> <li>・探究心</li> <li>・協調性</li> </ul>	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

<b>科目名</b>	教職・保育実践演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	富士盛 公年			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	<p>建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」の実践を通しての、「個の確立と他との協調」を教育目標とする本学園での教職実践演習では、ここに位置づけて次の目標を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「尊敬」の実践による到達目標 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長する姿勢が身についている。</li> <li>「責任」の実践による到達目標 高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。</li> <li>「自由」の実践による到達目標 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解でき、受容的な態度で、柔軟で適切な指導により、豊かな人間的交流を進展させることができる。</li> </ol> <p>1回 富士盛、折笠、草野、伊藤 履修カルテ入力やレポート作成                  2～5回 クラスごとの討議や課題研究                  富士盛 箱庭療法を体験する                  草野 ◎保育者のかかわりと子どもの育ちについて保育記録や文献を手掛かりに考える。                  猪股 乳幼児の養護と教育が一体となった保育のかかわりを言語化し討議発表する。                  伊藤 幼児のもつ科学的認識能力を伸ばすためにはどのように幼児に接すればよいか討議                  6～9回 富士盛 自分のメンタルヘルスについてコントロールできるようになる。                  草野 視点を変えて討議を行い保育者の役割とその影響について考えを深化させる。                  猪股 乳幼児の養護と教育が一体となった保育のかかわりについて討議し、さらに学修を深化させる。                  伊藤 保育士として笑顔で幼児に接するにはどのような生き方をすればよいか討議する。                  10～13回 郡山市内の幼稚園、保育園の先生方の話を聞く担当 三瓶、富士盛、折笠、伊藤、草野                  14回 附属幼稚園の教諭を呼んで話を聞く 担当 富士盛、折笠、伊藤、草野                  15回 まとめのレポート作成と履修カルテの完成 担当 富士盛、折笠、伊藤、草野</p>			
<b>達成目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①現場の先生方の話を聞いてそれを理解し、実践的な見地から自分なりの考えを述べるができる。</li> <li>②教育実習を終えて、現場で通用できる指導案を書くことができる。</li> <li>③今までの学習を反省総括し、実践的な教育力を自分につける。</li> </ol>			
<b>受講資格</b>	最終学年の後期	<b>成績評価 方法</b>	特別講義の感想 40点 発表・プレゼンテーションの評価 30点 まとめのレポート 30点	
<b>教科書</b>	授業でプリントを配布			
<b>参考書</b>	授業中に紹介する			
<b>学生への要望</b>	<p>教職の授業の中で最後になる本授業では、今までの講義、演習、実習などを通じて学習したことを総括し、自分に不足した部分をさらに学ぶことになる。</p> <p>実践的でまとめになるこの授業を通じて、現場の教員となって課題に直面した時にそれを解決する力を身につけてほしい。そのためにも積極的に授業に参加し、発表や話し合いで自分の力を高めることを学生に要望する。</p> <p>事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	授業の責任者 富士盛研究室（833） 火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーションと履修カルテの指導	第1回 「オリエンテーションと履修カルテの指導」 授業についてのオリエンテーションと履修カルテの記入についての指導を各クラスごとに行う。担当富士盛、折笠、草野、伊藤	60
2	①課題説明と討議	第2回 クラス4展開①課題説明と討議 A組猪股 B組草野 C組富士盛（ D組伊藤	60
3	①課題説明と討議	第3回 クラス4展開①課題説明と討議 B組猪股 C組草野 D組富士盛 A組伊藤	60
4	①課題説明と討議	第4回 クラス4展開①課題説明と討議 C組猪股 D組草野 A組富士盛 B組伊藤	60
5	①課題説明と討議	第5回 クラス4展開①課題説明と討議 D組猪股 A組草野 B組富士盛 C組伊藤	60
6	②討議とレポート作成	第6回 クラス4展開②討議とレポート作成 A組猪股 B組草野 C組富士盛 D組伊藤	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	②討議とレポート作成	第 7回 クラス4展開②討議とレポート作成 B組猪股 C組草野 D組富士盛 A組伊藤	それぞれの課題について準備する。 60
8	②討議とレポート作成	第 8回 クラス4展開②討議とレポート作成 C組猪股 D組草野 A組富士盛 B組伊藤	それぞれの課題について準備する。 60
9	②討議とレポート作成	第 9回 クラス4展開②討議とレポート作成 D組猪股 A組草野 B組富士盛 C組伊藤	それぞれの課題について準備する。 60
10	③事例研究	第10回 郡山市内の幼稚園教員から教職への期待、役割、態度を学ぶ	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。 60
11	③事例研究	第11回 郡山市内の幼稚園教員から教職への期待、役割、態度を学ぶ	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。 60
12	③事例研究	第12回 保育園と連携して保育者としての役割、態度を学ぶ	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。 60
13	④事例研究	第13回 附属幼稚園と連携して事例研究	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。 60
14	演習「現場への教職としての態度を学ぶ実践研究」	第14回 附属幼稚園と連携して事例研究	レポートをまとめる。 60
15	まとめ	第15回 履修カルテの最終確認、レポート提出  「教育職についての理解」教育職に求める資質・能力を持っているか。自己理解と自己反省を促すディスカッションを行い、履修カルテを完成させ、最終レポートを提出する。 担当 富士盛 折笠、草野、伊藤	レポートをまとめる。 90

<b>科目名</b>	ボーカルⅠ（主科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 基本的な発声、呼吸、共鳴を習得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現テクニックの習得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] 個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業を展開し、発声法を学び、実際に歌いながら歌唱のポイントを解説する。また、音楽表現について、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。		
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] ①基本的な歌唱の発声を習得し、それを基に自然なフレージングで歌うことができているか。 ②各原語が正しく発音できているか。 ③歌いながら身体表現ができているか。		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 1年	<b>成績評価 方法</b>	小テスト10%、演奏90%、ルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。		
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般		
<b>学生への要望</b>	発声や歌唱法は身体で覚えていくものである。個人レッスンでのアドバイスを基に、日々の練習に励むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えコンコーネ50番、イタリア歌曲の意義について説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。
2	発声法1	発声のメカニズム、呼吸法、歌唱姿勢、換声点を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。また実際に様々な音型で発声練習、コンコーネ50番No.1を練習すること。
3	発声法2	初期段階の腹式呼吸を習得しコンコーネ50番No.1を歌唱する。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1・2・3の譜読み、歌唱練習を行う。
4	発声法3	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。拍子感を意識しフレージングを考える。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.2・3・4・5の譜読み、歌唱練習を行う。
5	発声法4	腹式呼吸を使い、拍子感を考えながらコンコーネ50番No.4・5を歌唱し、フレージングのポイントを解説する。	腹式呼吸を使い、拍子感を意識しフレージングを考えコンコーネ50番No.4・5・6・7の譜読み、歌唱練習を行う。
6	発声法5	中期段階の腹式呼吸習得のポイントを解説し、コンコーネ50番No.6・7の歌唱を行う。	腹式呼吸を使い、拍子感を意識しフレージングを考えコンコーネ50番No.6・7・8・9の譜読み、歌唱練習を行う。
7	発声法6	中期段階の腹式呼吸を使い、拍子感を持ったフレージングでコンコーネ50番No.8・9の歌唱を行う。	小テストへ向け、今まで歌って来たコンコーネ50番の練習を行う。またイタリア語の発音を調べておくこと。
8	イタリア歌曲1	コンコーネ50番より小テストを行う。イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲の歌唱を行う。	イタリア歌曲より「Caro mio ben」の譜読み、歌唱練習を行う。
9	イタリア歌曲2	イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングのポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱練習、「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習を行う。
10	イタリア歌曲3	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を解説する。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ50番No.10の譜読み、歌唱練習を行う。
11	イタリア歌曲4	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ50番No.10の歌唱練習、「Star vicino」の譜読み、歌唱練習を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	イタリア歌曲 5	イタリア歌曲より「Star vicino」の歌唱を行い、3拍子の歌唱ポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏者を決め、伴奏合わせを行う。	120
13	I期のまとめ1	イタリア歌曲より選択した試験曲について、伴奏者と演奏し、アンサンブルのポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブルを深めていくこと。	120
14	I期のまとめ2	イタリア歌曲より選択した試験曲について、伴奏者と演奏し、音楽表現のポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
15	I期のまとめ3	イタリア歌曲より選択した試験曲について、伴奏者と演奏し、I期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
16	呼吸法 1	後期段階の腹式呼吸習得のポイントを解説し、コンコーネ 50 番No. 11・12の歌唱を行う。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ 50 番No. 11・12・13・14の譜読み、歌唱練習を行う。	120
17	呼吸法 2	後期段階の腹式呼吸を使いコンコーネ 50 番No. 13・14の歌唱を行う。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ 50 番No. 11・12・13・14の譜読み、歌唱練習を行い音楽表現を深める。	120
18	様々な発声法 1	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分け、ミドルボイスについて解説する。	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイス、ミドルボイスを意識しながら、既習曲で歌唱練習を行う。	120
19	様々な発声法 2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解説し、地声で歌唱を行う。	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を行う。	120
20	様々な発声法 3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ヘッドボイスについて解説し、裏声で歌唱を行う。	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行う。また、重謡集の中から選択した楽曲をの歌唱練習を行う。	120
21	日本の歌 1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	童謡集の中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
22	日本の歌 2	童謡をヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	童謡集の中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
23	日本の歌 3	ポップスを取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
24	日本の歌 4	ポップスをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
25	ミュージカルナンバー 1	選択したミュージカル楽曲を取り上げ、様々な発声法を使いながら歌唱を行う。	選択したミュージカル楽曲の譜読みする。ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行う。	120
26	ミュージカルナンバー 2	選択したミュージカル楽曲を取り上げ、換声点を意識しながら、音型により微妙に換声点が移動することを感知しながらどのように歌唱するかを考察する。また、II期に取り上げたミュージカル楽曲の中から、試験曲を決める。	選択したミュージカル楽曲を、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行う。また試験の伴奏者を決めておくこと。	120
27	ミュージカルナンバー 3	試験曲で、基本的な身体表現を、歌いながらどのタイミングで入れればよいか、基本的な身体表現を解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120
28	ミュージカルナンバー 4	試験曲に決めた楽曲について、基本的な身体表現を入れ、伴奏を付けながら、楽曲全体の音楽表現を完成させる。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
29	Ⅱ期のまとめ1	試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、アンサンブル、身体表現のポイント、を解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。 120
30	Ⅱ期のまとめ2	試験曲に決めた楽曲について、音楽表現、身体表現の両面を含んだ、総合的な表現を完成させる。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習し、楽曲表現を完成させる。 120

<b>科目名</b>	ボーカルⅠ（副科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 基本的な発声を習得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現の習得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] 個人レッスンと少人数のグループレッスン形式の授業を展開し、実際に歌を歌いながら発声と歌唱のポイントを解説する。また、音楽表現について、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。		
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] ①基本的な発声を習得し、その発声を基に歌うことができているか。 ②日本語や原語が正しく発音できているか。 ③歌いながら簡単な身体表現ができているか。		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 1年	<b>成績評価 方法</b>	小テスト10%、演奏90%、ルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。		
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般		
<b>学生への要望</b>	発声や歌唱法は身体で覚えていくものである。個人レッスンでのアドバイスを基に、日々の練習に励むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えコンコーネ50番、イタリア歌曲の意義について説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。
2	発声法1	発声のメカニズム、腹式呼吸、歌唱姿勢、換声点について説明し、実際に様々な音型で発声を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。また実際に様々な音型で発声練習、コンコーネ50番No.1を練習すること。
3	発声法2	初期段階の腹式呼吸習得ポイントを説明し、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1の歌唱を行う。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.2・3の譜読み、歌唱練習を行う。
4	発声法3	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。拍子感を意識しフレージングを考える。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.4の譜読み、No.3・4の歌唱練習を行う。
5	発声法4	腹式呼吸を使い、拍子感を感じながらコンコーネ50番No.3・4を歌唱し、フレージングのポイントを解説する。	腹式呼吸を使い、拍子感を意識しフレージングを考えコンコーネ50番No.5の譜読み、No.4・5の歌唱練習を行う。
6	発声法5	中期段階の腹式呼吸習得のポイントを解説し、コンコーネ50番No.4・5の歌唱を行う。	腹式呼吸を使い、拍子感を意識しフレージングを考えコンコーネ50番No.4・5の歌唱練習を行う。またイタリア語の発音を調べておくこと。
7	イタリア歌曲1	イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。	小テストへ向け、今まで歌って来たコンコーネ50番の練習を行う。またイタリア語の発音を調べておくこと。
8	イタリア歌曲2	コンコーネ50番より小テストを行う。イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングのポイントを解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	イタリア歌曲より「Caro mio ben」の譜読み、歌唱練習を行う。
9	イタリア歌曲3	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を解説する。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱練習、「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習を行う。
10	イタリア歌曲4	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ50番No.10の譜読み、歌唱練習を行う。
11	イタリア歌曲5	イタリア歌曲より「Star vicino」の歌唱を行い、3拍子の歌唱ポイントを解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ50番No.10の歌唱練習、「Star vicino」の譜読み、歌唱練習を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	イタリア歌曲 6	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、発声、姿勢、歌唱フレージングを意識し、音楽表現する。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏者を決め伴奏合わせを行う。
13	I期のまとめ1	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、アンサンブルのポイントを解説する。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブルを深めていくこと。
14	I期のまとめ2	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。
15	I期のまとめ3	イタリア歌曲より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。
16	呼吸法	後期段階の腹式呼吸習得のポイントを解説し、コンコーネ50番No.6・7の歌唱を行う。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ50番No.8の譜読み、No.6・7・8の歌唱練習を行う。
17	様々な発声法1	コンコーネ50番No.8の歌唱を行いながら、自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分け、ミドルボイスについて解説する。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ50番No.8の歌唱練習を行い音楽表現を深める。また地声の多い楽曲を、チェストボイスで練習する。
18	様々な発声法2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解説し、地声で歌唱を行う。	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイス、ミドルボイスを意識しながら、既習曲で歌唱練習を行う。
19	様々な発声法3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ヘッドボイスについて解説し、裏声で歌唱を行う。	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を行う。
20	日本の歌1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行う。また、童謡集の中から選択した楽曲をの歌唱練習を行う。
21	日本の歌2	童謡でヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	童謡集・ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。
22	日本の歌3	ポップスを取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。
23	日本の歌4	ポップスをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。
24	ミュージカルナンバー1	選択したミュージカル楽曲を取り上げ、様々な発声法を使いながら歌唱を行う。	選択したミュージカル楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えるれば、ミドルボイスも交えて練習する。
25	ミュージカルナンバー2	換声点を意識しながら、音型により微妙に換声点が移動するのを感じながらどのように歌唱するかを考察する。	選択したミュージカル楽曲の譜読みする。ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行う。
26	ミュージカルナンバー3	基本的な身体表現を、歌いながらどのタイミングで入れればよいか、基本的な身体表現を解説する。II期で取り上げた楽曲の中から試験曲を決定する	選択したミュージカル楽曲を、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら身体表現を入れながら、歌唱練習を行う。試験曲の伴奏者を決めておくこと。
27	ミュージカルナンバー4	基本的な身体表現を伴った、楽曲全体の音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習する、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。
28	II期のまとめ1	試験曲に決めた楽曲について、発声、姿勢、歌唱フレージングを意識し音楽表現する。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習し、更に伴奏者を決め、伴奏を付けて練習する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
29	Ⅱ期のまとめ2	試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、アンサンブル、身体表現のポイントについて解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。 120
30	Ⅱ期のまとめ3	試験曲に決めた楽曲について、音楽表現、身体表現の両面を含んだ、総合的な表現を完成させ、Ⅱ期の試験に臨む。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習し、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習し、楽曲表現を完成させる。 120

<b>科目名</b>	器楽 I (主科)	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	南川 肇, 穂苅 由美子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 [授業全体の内容の概要] エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。		
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法がある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。		
<b>受講資格</b>	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース1年生	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90% 小テスト10%
<b>教科書</b>	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。		
<b>参考書</b>	ローズ32のエチュード他		
<b>学生への要望</b>	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。		
<b>オフィスタイム</b>	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	基礎練習①	支えと音の方向性について	自分に合った練習方法を確立し、次回の授業に向かって、スケール、エチュードを仕上げてくること 120
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ポウイングのupとdownを取り入れる	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。 120

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	富士盛 公年		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	本授業は幼児教育学科の学生として、実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、必要な能力の養成を目指している。特にこの心理学の卒業研究では、学生がテーマを選び、心理学の調査や参考文献の読み方を学び、実際に調査をしたり、作業によって、コラージュなどの作成で、テーマごとに研究を深め、年度末の発表と論文作成を行う。研究倫理について、特にプライバシー保護や個人情報の取り扱いについて学習する。		
<b>達成目標</b>	本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者として活動する力を形成することを旨とする。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。
<b>教科書</b>	教科書は使わず、プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	参考書は授業ごとに指示する。		
<b>学生への要望</b>	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日の4時から5時、水曜日4時から5時 富士盛研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	自分の研究テーマについてまとめる 90
2	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	自分の研究テーマについてまとめる 90
3	研究の基礎 説明	心理学の研究調査の方法の説明 研究倫理について、特にプライバシー保護や個人情報の取り扱いについて学習	自分の研究テーマについてまとめる 90
4	研究の基礎 説明	心理学の研究調査の方法の説明	自分の研究テーマについてまとめる 90
5	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	自分の研究テーマについてまとめる 90
6	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	研究テーマへの調査学習 90
7	研究の概念形成	研究のサブテーマについての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
8	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い サブテーマ決定	研究テーマへの調査学習 90
9	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
10	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
11	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
12	調査用紙作成 2	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
13	調査用紙作成 3	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
14	調査用紙作成 4	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習 90
15	調査の分析 1	KJ法分類についての説明	KJ法で分析して資料を作成 90
16	調査の分析 2	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成 90
17	調査の分析 3	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成 90
18	調査の分析 4	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成 90
19	調査の分析 5	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成 90
20	調査の分析 6	KJ法分類実施 データ貼り付け	KJ法で分析して資料を作成 90
21	調査のまとめ 1	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成 90
22	調査のまとめ 2	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成 90
23	調査のまとめ 3	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成 90
24	調査のまとめ 4	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成 90
25	調査のまとめ 5	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成 90
26	調査のまとめ 6	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成 90
27	研究発表の準備 1	研究発表の準備作業	研究発表への準備 90
28	研究発表の準備 2	研究発表の準備作業	研究発表への準備 90
29	研究発表の準備 3	研究発表の準備作業	研究発表への準備 90
30	研究発表の準備 4	研究発表の準備作業	研究発表への準備 90
31	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる 90
32	中間発表 2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる 90
33	中間発表 3	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
34	中間発表 4	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる 90
35	追加調査準備 1	追加の調査用紙の作成	資料作成 90
36	追加調査準備 2	追加の調査用紙の作成	資料作成 90
37	追加調査準備 3	追加の調査用紙の作成	資料作成 90
38	追加調査準備 4	追加の調査用紙の作成	資料作成 90
39	追加調査の集計 1	追加調査の集計とまとめ	資料作成 90
40	追加調査の集計 2	追加調査の集計とまとめ	資料作成 90
41	追加調査の集計 3	追加調査の集計とまとめ	資料作成 90
42	追加調査の集計 4	追加調査の集計とまとめ	資料作成 90
43	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	資料作成 90
44	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	資料作成 90
45	卒業研究のまとめ 1	考察を検討する 全員で検討する	資料作成 90
46	卒業研究のまとめ 2	考察を検討する 全員で検討する	資料作成 90
47	卒業研究のまとめ 3	考察を検討する 全員で検討する	資料作成 90
48	卒業研究のまとめ 4	考察を検討する 全員で検討する	資料作成 90
49	卒業研究発表準備 1	発表のリハーサル	資料作成 90
50	卒業研究発表準備 2	発表のリハーサル	資料作成 90
51	卒業研究発表準備 3	発表のリハーサル	資料作成 90
52	卒業研究発表準備 4	発表のリハーサル	資料作成 90
53	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	修正作業 90
54	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	修正作業 90
55	論文作成 1	論文の作成	論文作成 90
56	論文作成 2	論文の作成	論文作成 90
57	論文作成 3	論文の作成	論文作成 90
58	論文作成 4	論文の作成	論文作成 90
59	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本、訂正	論文作成 90
60	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本、訂正	論文作成 90

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	早川 仁			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	・この卒業研究では子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会や児童文化などを含め、教育と文化の両面から学生自身が最も興味関心の深い課題を設定し、それらが子どもの成長発達にどのような意義を持っているかなどについて研究する。			
<b>達成目標</b>	1、発達に関わる造形遊びの製作などを行なう。 2、研究の成果を幼稚園や保育所での実習、又は地域社会のボランティア体験・学内行事発表会などで実践し、それらを通して子ども理解と保育者としての資質を向上させる。 3、研究活動を通して本学建学の精神「尊敬・責任・自由」を体現する。又、グループ活動によりコミュニケーション能力を高める。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	・平常点（取り組み姿勢、意欲、他との協力、チームへの貢献など）60点。 ・成果（研究発表、本文、「保育研究」原稿）40点	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	担当教員より必要に応じて指示			
<b>学生への要望</b>	・自己課題の解決に向けて積極的に取り組むこと。 ・活動後に毎回清掃を行うこと。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日・木曜日 15:00~17:00 826研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業オリエンテーション	・オリエンテーション・シラバイ説明（人形劇指導趣旨及び活動日程説明。） ・自己紹介 ・自己確認シート記録	シナリオ原作の選定	30
2	授業オリエンテーション	・シナリオ（既成のお話）～シナリオ原作の決定 ・人形形態について（棒使い人形）	人形形態を調べる	30
3	過去の作品鑑賞	・先輩の作品鑑賞を通して研究意欲を高める。人形劇にたいする理解を深める	人形劇について自由に調べる	30
4	役割組織づくり	・チームの役割組織をつくり互いの責任を明確にすると共にチームワークを高める。	人形劇について自由に調べる	30
5	シナリオ検討	・作品選定	役割組織担当毎に年間計画案を立てる	30
6	登場キャラクター確定 登場キャラクター検討	・人形デザイン決定。	人形デザインの考案	30
7	シナリオ再検討	・シナリオ原案を全員で検討する	作品から台本案を起こす	30
8	シナリオ修正	・人形劇の演出効果を考慮したシナリオ修正をする。	台本の下読みをする	30
9	人形製作	・論文指導一研究倫理について学ぶ。 ・もみじ会用人形制作（12月卒研発表会、講堂発表の試作品として制作）	研究の狙いを各自で立てる	30
10	人形製作	・人形の構造を研究・検討する	作品素材の検討と準備	30
11	人形制作	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
12	人形制作	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
13	人形制作	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
14	人形制作	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
15	人形操作練習	・操作練習 棒使い人形の操作について研究する。	棒使い人形の下調べをする	30
16	立ち稽古（行動線の確認）	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。 ・発声練習。	台本を読み込む	30
17	立ち稽古（音の表現）	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。	台本を読み込む	30
18	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	舞台演出を検討する	30
19	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	舞台演出を検討する	30
20	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	作品素材の検討と準備	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
21	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	作品素材の検討と準備	30
22	立ち稽古 大小道具・背景制作	立ち稽古	演者の行動線を検討する	30
23	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景制作	作品素材の検討と準備	30
24	後期オリエンテーション	後期授業内容、卒研行事等の確認。論文作成（前期活動経過）作成。	前期授業内容まとめ	30
25	後期オリエンテーション	論文作成（前期活動経過）作成。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
26	もみじ会中間発表準備1	・卒業研究中間発表としての「もみじ会」に向け、発表準備をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
27	もみじ会中間発表準備2	・「もみじ会」の発表会場舞台構造により大小道具準備又は、演出機材等の操作練習をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
28	もみじ会中間発表準備3	・「もみじ会」の発表における幕間の内容も含めて準備、練習する。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
29	もみじ会中間発表準備4	・「もみじ会」の発表における幕間の内容も含めて準備、練習する。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
30	もみじ会中間発表練習	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	各、準備担当作業の不備を補う	30
31	もみじ会中間発表練習	・発表会場舞台等の設営	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
32	中間発表準備・練習	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
33	中間発表準備・練習	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営  ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
34	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
35	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
36	もみじ会反省会	・「もみじ会」発表記録ビデオから客観的に自分たちの演技を確認する。 ・来場者の感想アンケートなどを基にして作品内容、演技内容等、活動全般の反省をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
37	棒遣い人形劇計画	・卒研発表に向けたシナリオ及び人形の制作計画。	新たな作品シナリオを検討する	60
38	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・論文指導一研究倫理について学ぶ。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。  ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	新たな作品の研究・狙いテーマを検討しておく	30
39	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
40	シナリオ・人形の手直し	・卒業研究発表会に向けて、「もみじ会」中間発表反省。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
41	シナリオ・人形の手直し	・卒業研究発表会に向けて、人形、シナリオの手直しをする	新たな作品シナリオを検討する	30
42	卒研発表練習	・記念講堂の舞台を生かしたシナリオ手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30
43	卒研発表練習	・記念講堂の舞台を生かした演出の手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30
44	卒研発表練習	・次回の記念講堂機材担当者の決定と説明会で学ぶ内容の確認をする。	舞台演出を検討する	30
45	機材操作説明会	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
46	機材操作説明会	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する 30
47	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
48	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
49	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
50	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
51	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
52	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
53	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
54	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
55	卒研発表リハーサル①	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
56	卒研発表リハーサル②	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
57	卒研発表リハーサル③	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
58	卒研発表リハーサル④	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
59	卒研発表会（論文発表）	・卒研発表会（論文発表）を聴講する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60
60	卒研発表会（舞台発表）	・卒研発表会（舞台発表）を上演する。 ・論文・冊子原稿提出 ・卒研反省～劇と遊びのつどい準備	各自練習を積む・研究論文をまとめる 60

平成31年度

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	折笠 国康		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。また、自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。		
<b>達成目標</b>	①実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。 ②自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点、研究成果を40点として評価する。
<b>教科書</b>	教科書は使わず、プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	参考書は授業ごとに指示する。		
<b>学生への要望</b>	自他のためになる知的活動の時間として捉えてほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜 2限 835研究室 3限 835研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
2	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
3	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
4	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
5	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
6	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
7	調査用紙作成 2	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
8	調査の分析 1	質問紙についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
9	調査の分析 2	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
10	調査の分析 3	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
11	調査の分析 4	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
12	調査のまとめ 1	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
13	調査のまとめ 2	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
14	調査のまとめ 3	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
15	調査のまとめ 4	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
16	調査のまとめ 5	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
17	研究発表の準備 1	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
18	研究発表の準備 2	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
19	研究発表の準備 3	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
20	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
21	中間発表 2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
22	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60
23	卒業研究のまとめ 1	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
24	卒業研究のまとめ2	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
25	卒業研究発表準備1	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
26	卒業研究発表準備2	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
27	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
28	論文作成1	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
29	論文作成2	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
30	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	三瓶 令子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	この分野では、子どもを対象とした音楽劇(オペレッタ・ミュージカル)の制作発表をする。オペレッタは、言葉と音楽・動きが総合された音楽劇であり、オペレッタ制作を通して、学生同士の協働による表現活動を目指したい。 ○出来るだけ子どもに近いところで、子どもに届く表現を大切に研究する。 ○基礎技能の音楽・造形・体育(ダンス)で学んだそれぞれの表現方法を、総合的に表現出来るようにする。 ○協働で表現活動をするという学びの場を共有し、発表の機会を体験する。			
<b>達成目標</b>	○オペレッタ制作を通して学生同士協働的に学ぶことができるようになる。 ○出来るだけ子どもに近いところで、子どもに届く表現ができようになる。 ○基礎技能の音楽・造形・体育(ダンス)で学んだそれぞれの表現方法を、総合的に表現できるようになる。 ○研究倫理について学ぶ。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点(取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度等)60点 成果(研究発表、本文、『保育研究』原稿)40点	
<b>教科書</b>	なし			
<b>参考書</b>	適宜推薦			
<b>学生への要望</b>	○グループで学びあうルールやマナーを守る。 ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。 ○毎回、基礎的なレッスン(ストレッチ・発声・言葉のレッスン等)を行なう。 ○研究倫理を遵守する。			
<b>オフィスタイム</b>	三瓶 時間：火・水のIV時限 場所：83年館4F 841研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
0	オリエンテーション1	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○リーダー・サブリーダー・舞台監督等の選出 ○1年間の日程確認	演目設定のための資料検索 30
2	オリエンテーション2	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○リーダー・サブリーダー・舞台監督等の選出 ○1年間の日程確認	演目設定のための資料検索 30
3	テーマの選択①	○話し合い(それぞれの希望を出し合う) ○資料検索(図書館・絵本室・VTR・DVD) ○先行研究の鑑賞	演目設定のための資料検索 30
4	テーマの選択②	○話し合い(それぞれの希望を出し合う) ○資料検索(図書館・絵本室・VTR・DVD) ○先行研究の鑑賞	演目設定のための資料検索 30
5	テーマの選択③	○話し合い(それぞれの希望を出し合う) ○資料検索(図書館・絵本室・VTR・DVD) ○先行研究の鑑賞	演目設定のための資料検索 30
6	テーマの選択④	○話し合い(それぞれの希望を出し合う) ○資料検索(図書館・絵本室・VTR・DVD) ○先行研究の鑑賞	演目設定のための資料検索 30
7	オペレッタとは何か(オペレッタ制作の意義)	○オペレッタで「子どもの表現」を育てる ○オペレッタで「子どもの表現を育てる者」として育つ ○オペレッタ制作の役割り(キャスト・スタッフ・脚本・音楽・音響・照明・衣装・大道具・小道具・場面構成)	オペレッタに関する資料探索 30
8	オペレッタとは何か(オペレッタ制作の意義)	○オペレッタで「子どもの表現」を育てる ○オペレッタで「子どもの表現を育てる者」として育つ ○オペレッタ制作の役割り(キャスト・スタッフ・脚本・音楽・音響・照明・衣装・大道具・小道具・場面構成)	オペレッタに関する資料探索 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
9	基礎レッスンと脚本制作①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューションでのレッスン)</li> <li>○脚本制作                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇の脚本とオペレッタの脚本の違いを把握する</li> <li>・音楽化可能な脚本とする</li> <li>・出来るだけ子どもに近い表現内容とする</li> <li>・時間配分を考える</li> <li>・スタッフ・キャストの人数配分を考える</li> </ul> </li> </ul>	脚本に関する文献による探索と、基礎レッスンの復習	30
10	基礎レッスンと脚本制作②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューションでのレッスン)</li> <li>○脚本制作                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇の脚本とオペレッタの脚本の違いを把握する</li> <li>・音楽化可能な脚本とする</li> <li>・出来るだけ子どもに近い表現内容とする</li> <li>・時間配分を考える</li> <li>・スタッフ・キャストの人数配分を考える</li> </ul> </li> </ul>	脚本に関する文献による探索と、基礎レッスンの復習	30
11	基礎レッスンと脚本制作③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューションでのレッスン)</li> <li>○脚本制作                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇の脚本とオペレッタの脚本の違いを把握する</li> <li>・音楽化可能な脚本とする</li> <li>・出来るだけ子どもに近い表現内容とする</li> <li>・時間配分を考える</li> <li>・スタッフ・キャストの人数配分を考える</li> </ul> </li> </ul>	脚本に関する文献による探索と、基礎レッスンの復習	30
12	基礎レッスンと脚本制作④	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューションでのレッスン)</li> <li>○脚本制作                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇の脚本とオペレッタの脚本の違いを把握する</li> <li>・音楽化可能な脚本とする</li> <li>・出来るだけ子どもに近い表現内容とする</li> <li>・時間配分を考える</li> <li>・スタッフ・キャストの人数配分を考える</li> </ul> </li> </ul>	脚本に関する文献による探索と、基礎レッスンの復習	30
13	脚本の読み合わせと内容検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オペレッタの脚本となっているか</li> <li>○音楽化可能な脚本か</li> <li>○子どもに近い表現内容か</li> <li>○時間配分はどうか</li> <li>○スタッフ・キャストの人数配分はどうか</li> </ul>	脚本内容の検討	30
14	脚本の読み合わせと内容検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オペレッタの脚本となっているか</li> <li>○音楽化可能な脚本か</li> <li>○子どもに近い表現内容か</li> <li>○時間配分はどうか</li> <li>○スタッフ・キャストの人数配分はどうか</li> </ul>	脚本内容の検討	30
15	キャストイング及び楽器隊とスタッフの決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャストイング                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自薦・他薦・オーディション等で決める</li> </ul> </li> <li>○楽器隊、及びスタッフ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者を募る</li> </ul> </li> </ul>	基礎レッスンの復習	30
16	キャストイング及び楽器隊とスタッフの決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャストイング                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自薦・他薦・オーディション等で決める</li> </ul> </li> <li>○楽器隊、及びスタッフ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者を募る</li> </ul> </li> </ul>	基礎レッスンの復習	30
17	制作・練習①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</li> <li>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する</li> <li>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</li> <li>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える</li> </ul>	キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
18	制作・練習②	<p>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習</p> <p>45</p>
19	制作・練習③	<p>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習</p> <p>45</p>
20	制作・練習④	<p>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習</p> <p>60</p>
21	制作・練習⑤	<p>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習</p> <p>60</p>
22	制作・練習⑥	<p>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習</p> <p>60</p>
23	制作・練習⑦	<p>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習</p> <p>60</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	制作・練習⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める</li> <li>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する</li> <li>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</li> <li>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える</li> </ul>	キャスト・楽器隊・スタッフごとに、役作り・制作・練習 60
25	もみじ会準備(チャイルドシアター)①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見直し、全体のプログラムを作る。</li> <li>○発表会場の環境を整え、練習やリハーサルのスケジュールを作る。</li> <li>○オペレッタの卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・声・言葉・動き・音響・照明等)</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習 60
26	もみじ会準備(チャイルドシアター)②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見直し、全体のプログラムを作る。</li> <li>○発表会場の環境を整え、練習やリハーサルのスケジュールを作る。</li> <li>○オペレッタの卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・声・言葉・動き・音響・照明等)</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習 60
27	もみじ会準備(チャイルドシアター)③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。</li> <li>○オペレッタの卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・発声・言葉・動き・音響・照明等)</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習 60
28	もみじ会準備(チャイルドシアター)④	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。</li> <li>○オペレッタの卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・発声・言葉・動き・音響・照明等)</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習 60
29	もみじ会発表(チャイルドシアター)①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。</li> <li>○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。</li> <li>○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる) 60
30	もみじ会発表(チャイルドシアター)②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。</li> <li>○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。</li> <li>○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる) 60
31	もみじ会発表(チャイルドシアター)③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。</li> <li>○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。</li> <li>○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。</li> </ul>	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる) 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
32	もみじ会発表(チャイルドシアター)④	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。 ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。 ○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる)	60
33	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、オペレッタ全体(1、2年生全体)、オペレッタ卒研とし、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。	記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。	30
34	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、オペレッタ全体(1、2年生全体)、オペレッタ卒研とし、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。	記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。	30
35	卒研発表へ向けての練習①	○もみじ会の内容を分析し、卒研発表会へ向けてより質の高い内容とするための工夫をする。 ○発表会場(記念講堂)を視野に入れ、人、物、空間等を検討する。 ○授業とのバランスを考え、計画表を作成する。	キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。	30
36	卒研発表へ向けての練習②	○もみじ会の内容を分析し、卒研発表会へ向けてより質の高い内容とするための工夫をする。 ○発表会場(記念講堂)を視野に入れ、人、物、空間等を検討する。 ○授業とのバランスを考え、計画表を作成する。	キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。	30
37	卒研発表へ向けての練習③	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。 ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューーションでのレッスン)を毎回行う。 ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える	キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。	30
38	卒研発表へ向けての練習④	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。 ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューーションでのレッスン)を毎回行う。 ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイディアを考える	キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
39	卒研発表へ向けての練習⑤	<p>○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。</p> <p>○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューエーションでのレッスン)を毎回行う。</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。</p> <p>30</p>
40	卒研発表へ向けての練習⑥	<p>○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。</p> <p>○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチューエーションでのレッスン)を毎回行う。</p> <p>○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をすることで、学びの場を共有する</p> <p>○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする</p> <p>○スタッフは、各役割りごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える</p>	<p>キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。</p> <p>30</p>
41	記念講堂機材説明会①	<p>○講堂機材全般の操作方法を取得する。</p> <p>○特にスタッフは、実際に機材にふれ、操作方法を覚える。</p> <p>○機材操作の注意事項を把握し、事故・故障の原因を作らないよう慎重に取り扱うよう注意する。</p>	<p>機材説明会の内容を踏まえ、各個人用の独自のマニュアルを作成する。</p> <p>30</p>
42	記念講堂機材説明会②	<p>○講堂機材全般の操作方法を取得する。</p> <p>○特にスタッフは、実際に機材にふれ、操作方法を覚える。</p> <p>○機材操作の注意事項を把握し、事故・故障の原因を作らないよう慎重に取り扱うよう注意する。</p>	<p>機材説明会の内容を踏まえ、各個人用の独自のマニュアルを作成する。</p> <p>30</p>
43	卒研発表へ向けての練習⑦	<p>○発表に向けて、舞台監督を中心に、全体の仕上げに入る。</p> <p>○キャスト・スタッフ共に意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの役割りを果たす中で、協同的に学んでいく。</p>	<p>各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。</p> <p>また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。</p> <p>60</p>
44	卒研発表へ向けての練習⑧	<p>○発表に向けて、舞台監督を中心に、全体の仕上げに入る。</p> <p>○キャスト・スタッフ共に意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの役割りを果たす中で、協同的に学んでいく。</p>	<p>各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。</p> <p>また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。</p> <p>60</p>
45	卒研発表へ向けての練習⑨	<p>○発表に向けて、舞台監督を中心に、全体の仕上げに入る。</p> <p>○キャスト・スタッフ共に意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの役割りを果たす中で、協同的に学んでいく。</p>	<p>各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。</p> <p>また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。</p> <p>60</p>
46	卒研発表へ向けての練習⑩	<p>○発表に向けて、舞台監督を中心に、全体の仕上げに入る。</p> <p>○キャスト・スタッフ共に意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの役割りを果たす中で、協同的に学んでいく。</p>	<p>各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。</p> <p>また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。</p> <p>60</p>
47	卒研発表会	<p>○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。</p> <p>○作品の発表を観て頂く。</p> <p>○記録(VTR, DVD, 写真等)を撮る。</p>	<p>発表本番に向けて気持ちを統一し、キャスト・楽器隊・スタッフごとに各自の役割りを再チェックする。</p> <p>30</p>
48	卒研発表会	<p>○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。</p> <p>○作品の発表を観て頂く。</p> <p>○記録(VTR, DVD, 写真等)を撮る。</p>	<p>発表本番に向けて気持ちを統一し、キャスト・楽器隊・スタッフごとに各自の役割りを再チェックする。</p> <p>30</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
49	つどいへ向けての練習	○オペレッタ卒研として、協同的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。 ○つといに向けて、更に内容を吟味、整理していく。	卒研で発表した内容を各自更に深め、繰り返し練習する。 また仲間同士で観せ合い、お互いに批評し合う。	60
50	つどいへ向けての練習	○オペレッタ卒研として、協同的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。 ○つといに向けて、更に内容を吟味、整理していく。	卒研で発表した内容を各自更に深め、繰り返し練習する。 また仲間同士で観せ合い、お互いに批評し合う。	60
51	劇とあそびのつどいリハーサル①	○オペレッタ単独ではなく、各リーダー同士連絡を密にして、つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようにする。特に舞台発表は全体として統一した流れとなるように、それぞれのグループ同士、将来の保育者を目指し、協働的に学んでいく。 ○一方で、それぞれのパートの内容を、更に吟味、整理していく。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
52	劇とあそびのつどいリハーサル②	○オペレッタ単独ではなく、各リーダー同士連絡を密にして、つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようにする。特に舞台発表は全体として統一した流れとなるように、それぞれのグループ同士、将来の保育者を目指し、協働的に学んでいく。 ○一方で、それぞれのパートの内容を、更に吟味、整理していく。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
53	リハーサル振り返り①	○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。 ○つどい全体が学科行事として地域にアピールできているか検討する。特に舞台発表は全体として統一した流れとなっているか検討する。 ○全体のタイムレコーダーの確認。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
54	リハーサル振り返り②	○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。 ○つどい全体が学科行事として地域にアピールできているか検討する。特に舞台発表は全体として統一した流れとなっているか検討する。 ○全体のタイムレコーダーの確認。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
55	劇とあそびのつどいリハーサル③	○つどい当日の疑似体験を経験し、落ちないように準備する。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
56	劇とあそびのつどいリハーサル④	○つどい当日の疑似体験を経験し、落ちないように準備する。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
57	リハーサル振り返り③	○全体の確認。	各自練習の中で、最終確認をする。その際、子どもに対する表現発表であることを再自覚する。	60
58	リハーサル振り返り④	○全体の確認。	各自練習の中で、最終確認をする。その際、子どもに対する表現発表であることを再自覚する。	60
59	劇とあそびのつどい①	○学生の創造的表現力・運営力及び発表力を高め、学習意欲の高揚を図ることを目的とし、1年生・2年生の全学生が、年度末の発表としての発表活動を行なう。更に、保育者養成機関として、地域社会のサービスを図る。	発表本番に向けて気持ちを統一し、キャスト・楽器隊・スタッフごとに各自の役割を再チェックする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
60	劇とあそびのつどい②	<p>○学生の創造的表現力・運営力及び発表力を高め、学習意欲の高揚を図ることを目的とし、1年生・2年生の全学生が、年度末の発表としての発表活動を行なう。更に、保育者養成機関として、地域社会のサービスを図る。</p>	<p>発表本番に向けて気持ちを統一し、キャスト・楽器隊・スタッフごとに各自の役割を再チェックする</p> <p align="right">30</p>

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	柴田 卓			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	本授業は、メンバー同士で研究計画を作成し、主体的に取り組み、相互に学びあいながら研究を進め、発育発達に応じた保育内容を計画・展開・評価できる実践力の向上を目指す。具体的には、幼児体育・森のようちえんについて、事例や教材を調べ、フィールドワークを多数実施しながら理解を深める。フィールドワーク後は各自でドキュメンテーションを作成してふりかえり、その内容についてディスカッションを行いながら考察を加え、2年間の集大成としてまとめる。 ※フィールドワークの日程及び回数は、大きく変更する可能性があることを理解しておくこと。			
<b>達成目標</b>	本授業における達成目標の観点は、以下の3点である。 ①研究に向き合い、課題や問題を発見し改善・解決する力を習得することができたか。 ②先行研究や教材研究を行い、幼児体育・森のようちえんの理解を深めることができたか。 ③フィールドワークを通して、運動遊びや自然保育を展開する実践力を習得することができたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点(振り返りシート30点含む) 研究成果40点(研究発表・論文原稿)	
<b>教科書</b>	必要に応じて資料配布			
<b>参考書</b>	柴田卓 石森真由子編著, 運動遊びのすすめ ポートフォリオを活用した保育実践力の探求, みらい, 2017 今村光章編著, 森のようちえん 自然の中で子育てを, 解放出版社, 2011			
<b>学生への要望</b>	1. 事前準備や予習を進め、当事者意識を持ち、主体的かつ積極的に研究を進めること 2. 計画的に研究を進めること 3. 教材研究等は予習・復習とし、授業内はメンバーとの議論の場とすること 4. 2年間の集大成として、納得できる研究成果をあげること			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日と木曜日の13時～16時			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。	事後学習として、ドキュメンテーションの作成方法について理解する。	60
2	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。 研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事後学習として、ドキュメンテーションの作成方法を修得する。	60
3	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。	事前学習として、先行研究を収集する。	60
4	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。	事前学習として、先行研究を収集する。	60
5	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
6	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
7	フィールドワーク①(現地)	幼児体育：子どもがまんなかフェスティバル参加 森のようちえん：フィールド確認。 (カルチャーパーク・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
8	フィールドワーク①(現地)	幼児体育：子どもがまんなかフェスティバル参加 森のようちえん：フィールド確認。 (カルチャーパーク・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
9	研究計画の立案(教室)	グループ毎に研究計画を立案する。	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
10	研究計画の立案(教室)	グループ毎に研究計画を立案する。	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
11	フィールドワーク②(現地)	幼児体育：体力測定補助 森のようちえん：実地調査・環境整備 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
12	フィールドワーク②(現地)	幼児体育：体力測定補助 森のようちえん：実地調査・環境整備 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
13	リフレクション①(教室)	幼児体育：体力測定の分析 森のようちえん：実地調査・環境整備からのリスク分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	リフレクション①(教室)	幼児体育：体力測定分析 森のようちえん：実地調査・環境整備からのリスク分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
15	フィールドワーク③(現地)	幼児体育：第1回運動遊び指導 森のようちえん：第1回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
16	フィールドワーク③(現地)	幼児体育：第1回運動遊び指導 森のようちえん：第1回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
17	リフレクション②(教室)	幼児体育：第1回運動遊び指導、森のようちえん：第1回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
18	リフレクション②(教室)	幼児体育：第1回運動遊び指導、森のようちえん：第1回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
19	フィールドワーク④(現地)	幼児体育：第2回運動遊び指導 森のようちえん：第2回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
20	フィールドワーク④(現地)	幼児体育：第2回運動遊び指導 森のようちえん：第2回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
21	リフレクション③(教室)	幼児体育：第2回運動遊び指導、森のようちえん：第2回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
22	リフレクション③(教室)	幼児体育：第2回運動遊び指導、森のようちえん：第2回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
23	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。
24	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。
25	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。
26	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。
27	フィールドワーク⑤(現地)	幼児体育：第3回運動遊び指導 森のようちえん：第3回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
28	フィールドワーク⑤(現地)	幼児体育：第3回運動遊び指導 森のようちえん：第3回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
29	リフレクション④(教室)	幼児体育：第3回運動遊び指導、森のようちえん：第3回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
30	リフレクション④(教室)	幼児体育：第3回運動遊び指導、森のようちえん：第3回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
31	フィールドワーク⑥(現地)	幼児体育：第4回運動遊び指導 森のようちえん：第4回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
32	フィールドワーク⑥(現地)	幼児体育：第4回運動遊び指導 森のようちえん：第4回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
33	リフレクション⑤(教室)	幼児体育：第4回運動遊び指導、森のようちえん：第4回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
34	リフレクション⑤(教室)	幼児体育：第4回運動遊び指導、森のようちえん：第4回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
35	フィールドワーク⑦(現地)	幼児体育：第5回運動遊び指導 森のようちえん：第5回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業・森のようちえん全国フォーラム福井大会参加予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
36	フィールドワーク⑦(現地)	幼児体育：第5回運動遊び指導 森のようちえん：第5回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業・森のようちえん全国フォーラム福井大会参加予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
37	リフレクション⑥(教室)	幼児体育：第5回運動遊び指導、森のようちえん：第5回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
38	リフレクション⑥(教室)	幼児体育：第5回運動遊び指導、森のようちえん：第5回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
39	フィールドワーク⑧(現地)	幼児体育：第6回運動遊び指導 森のようちえん：第6回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業・森のようちえん全国フォーラム福井大会参加予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
40	フィールドワーク⑧(現地)	幼児体育：第6回運動遊び指導 森のようちえん：第6回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業・森のようちえん全国フォーラム福井大会参加予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
41	リフレクション⑦(教室)	幼児体育：第6回運動遊び指導、森のようちえん：第6回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
42	リフレクション⑦(教室)	幼児体育：第6回運動遊び指導、森のようちえん：第6回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
43	フィールドワーク⑨(現地)	幼児体育：第7回運動遊び指導 森のようちえん：第7回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
44	フィールドワーク⑨(現地)	幼児体育：第7回運動遊び指導 森のようちえん：第7回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖・福島県子どもと青年の異世代交流事業予定)	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。
45	リフレクション⑧(教室)	幼児体育：第7回運動遊び指導、森のようちえん：第7回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
46	リフレクション⑧(教室)	幼児体育：第7回運動遊び指導、森のようちえん：第7回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。
47	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成①	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。
48	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成①	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。
49	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成②	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	事後学習として、論文を完成させる。
50	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成②	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	事後学習として、論文を完成させる。
51	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。
52	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
53	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	60
54	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	60
55	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する。	60
56	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する。	60
57	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
58	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	卒業研究および2年間の学びをふりかえる。	60

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	一柳 智子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	建学の精神である「尊敬・責任・自由」の理念を追求し、グループ活動での協調性を大切にし、各人が積極的に表現運動に関わる活動をする。作品制作に関しては、お互いのアイデアを出し合い、発表会や論文の提出に向け、共同作業での実践力を身に付ける。			
<b>達成目標</b>	1. 保育者に必要な協調性およびグループをまとめる能力の養成。 2. 幼児教育における身体表現の開発を目的とした運動経験的指導力の養成。 3. 自己の心身の健康を意識すること及び幼児の心身の健康育成の指導のための知識と経験を得る。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点（取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度、担当の係） 成果40点（研究発表、本文、『保育研究』原稿）	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	適宜紹介する			
<b>学生への要望</b>	熱心に授業に取り組むことはもちろんのこと、グループ活動では主体的に関わりながら、協調性をもって積極的に活動することが重要である。 ①先行研究の検討 ②題材、テーマ、ストーリーの創作 ③振付創作、曲の選択 ④実技活動（自学自習としてストレッチ等を怠らない） ⑤発表会の運営と実践 ⑥卒業論文の作成と「保育研究」冊子の原稿作成と提出			
<b>オフィスタイム</b>	木曜日 III限目（12：50～14：20） IV限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたってのガイダンス。	ストレッチ 30
2	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての先行資料研究。	ストレッチ 30
3	研究テーマの構想について	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての先行資料研究。リーダーの選出をする。	ストレッチ 30
4	研究テーマの構想について	幼児用のダンスまたはダンス作品制作するにあたっての先行資料研究。研究テーマ、ストーリーなど構想を練る。	ストレッチ 30
5	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ 30
6	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ 30
7	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。	ストレッチ 30
8	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。	ストレッチ 30
9	役割分担、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。選曲をどうするか的を絞る。	ストレッチ 30
10	役割分担、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。選曲をどうするか的を絞る。	ストレッチ 30
11	リズムカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。	ストレッチ 30
12	リズムカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。	ストレッチ 30
13	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ 30
14	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ 30
15	創作活動	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。共通のキャスト同士で振付を創作する。	ストレッチ 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
16	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
17	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 選曲したものに振付を創作する。	ストレッチ 30
18	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 選曲したものに振付を創作する。	ストレッチ 30
19	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
20	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
21	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
22	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
23	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
24	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ 30
25	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ 30
26	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ 30
27	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ 30
28	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ 30
29	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ 30
30	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ 30
31	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ 30
32	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ 30
33	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ 30
34	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ 30
35	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。	ストレッチ 30
36	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。	ストレッチ 30
37	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ 30
38	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ 30
39	卒業研究発表会に向けての準備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ 30
40	卒業研究発表会に向けての準備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
41	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ 30
42	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ 30
43	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ 30
44	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ 30
45	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ 30
46	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ 30
47	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ 30
48	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ 30
49	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ 30
50	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ 30
51	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。	ストレッチ 30
52	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。	ストレッチ 30
53	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み1回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ 30
54	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ 30
55	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ 30
56	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み3回目リハーサル。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ 30
57	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。	ストレッチ 30
58	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。	ストレッチ 30
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。	ストレッチ 30
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。	ストレッチ 30

平成31年度

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	伊藤 哲章		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	近年の研究成果より、幼児が持っている生物の知識は、一種の生物学（素朴生物学）を構成していることが明らかとなった。幼児の持つ生物学は、あくまでも身近な動物や植物との接触、自分自身の身体についての体験などの日常生活経験を通して、幼児自身が自ら構成した要素が強い。		
<b>達成目標</b>	本授業では、附属幼稚園の園児らを対象に各種の調査を行い、素朴生物学について明らかにする。 素朴生物学の構成要素は、①生物／無生物の区別と心／身体の区別、②動植物に関して一貫したもっとうもらしい予測を可能とする推論様式（擬人化）、③生物現象に関する非意図的な因果的説明の仕組み（生氣論）の3つである。		
<b>受講資格</b>	2年生に進級した学生	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点（姿勢、意欲等）成果40点（研究発表、本文、保育研究）として評価する。
<b>教科書</b>	教科書は使わず、プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	参考書は授業ごとに指示する。		
<b>学生への要望</b>	積極的にゼミに参加し、無断欠席をしないこと。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山上 裕子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	保育活動で使用するさまざまな「モノ」（絵本、玩具、遊具等）を手がかりにして、保育の世界を探究する。例えば、「モノ」の誕生の背景やその後の歴史、使用することによる保育のねらいや注意点など、多様なテーマが考えられる。文献だけでなく実際幼稚園を訪れて、実地調査もおこないたい。テーマの設定の仕方、探究の方法、記録の取り方、文章の書き方など、研究方法の基礎も合わせて指導する。			
<b>達成目標</b>	①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。 ②課題を解決するための方法を身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。 ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2学年	<b>成績評価 方法</b>	平常点（60点）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）	
<b>教科書</b>	特に指定はしない。			
<b>参考書</b>	適時、紹介する。			
<b>学生への要望</b>	どんな小さなことでもよいので、疑問に思ったことをメモとること。			
<b>オフィスタイトム</b>	木曜日：14：30～16：00 金曜日：14：30～16：00（Ⅲ期） 12：50～14：20（Ⅳ期） 場所：833研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価について説明を聞く。何を研究したいのかを出し合う。「自己確認シート」の記入をする。	自身が研究したいことを確認する。	30
2	研究の模索 1	過去の研究冊子『保育研究』を調査し、自身の興味の方向を定めていく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
3	研究の模索 2	図書館で資料を検索し、自身の興味の方向を定めていく。研究ノートの記載の仕方を知る。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
4	研究の模索 3	図書館で資料を検索し、研究ノートに記載していく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
5	研究の模索 4	自身のテーマの方向性をまとめる。	自身の研究の方向性のまとめを進める。	30
6	研究の確認 その1	これまでの資料収集の結果を報告する。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
7	研究の方法 1	書誌情報の整理の仕方、インターネット情報の検索結果の整理の方法を知る。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
8	研究の方法 2	研究ノートに整理をしていく。	研究ノート整理をする。	30
9	研究を進める 1	研究ノートをもとに、これからの研究計画を立てる。	研究ノート整理をする。	30
10	研究を進める 2	研究計画について発表する。	計画を練る。	30
11	研究を進める 3	資料の整理を引き続き行う。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
12	研究を進める 4	資料の整理を引き続き行い、ノートに整理する。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
13	研究の確認 その2	研究の進捗状況を確認し合う。	研究ノート整理をする。	30
14	研究を進める 5	報告をとおして、研究の方向性を修正していく。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
15	テーマの決定 1	研究の仮テーマを考える。	研究の方向を調整する。	30
16	テーマの決定と計画の修正	研究テーマに沿った計画に修正する。	研究ノート整理をする。	30
17	研究を進める 6	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
18	研究を進める 7	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
19	研究を進める 8	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
20	研究を進める 9	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
21	研究を進める 10	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
22	研究を進める 11	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
23	研究の確認 その3	これまでの研究の進捗を報告し、研究内容を確認する。	研究の方向を調整する。	30
24	研究を進める 12	研究内容の充実のための計画を練り直す。	研究の方向を調整する。	30
25	研究を進める 13	研究テーマを絞りこむ。	テーマに沿った情報を収集する。	30
26	テーマの確認	テーマを確認すると同時に、新たな課題を確認する。	テーマに沿った情報を収集する。	30
27	中間発表の計画 1	卒業研究の中間発表の場である、もみじ会に向けた準備を考える。	研究ノート整理をする。	30
28	中間発表の計画 2	もみじ会に向けた準備の計画をたてる。	もみじ会の準備を進める。	30
29	中間発表の準備 1	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
30	中間発表の準備 2	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
31	中間発表の準備 3	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
32	中間発表の準備 4	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30
33	研究を進める 1 4	収集した資料の内容を整理する。	研究ノートを振り返る。	30
34	研究を進める 1 5	収集した資料の内容をまとめていく。	研究の方向を調整する。	30
35	論文の執筆 1	研究発表会、本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。	執筆の計画を考える。	30
36	論文の執筆 2	研究発表会、本文、『保育研究』の提出に関して知り、今後の計画を立てる。	執筆の計画を考える。	30
37	論文の執筆 3	論文の執筆を始める。	執筆する。	30
38	論文の執筆 4	論文の執筆を始め、適宜指導を受ける。	執筆する。	30
39	論文の執筆 5	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
40	論文の執筆 6	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
41	論文の執筆 7	進捗状況を確認し、指導を受ける。	執筆する。	30
42	論文の執筆 8	指導に応じた執筆をする。	執筆する。	30
43	論文の執筆 9	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
44	論文の執筆 1 0	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
45	論文の執筆 1 1	よりよいものになるように、写真や図などを効果的に取り入れていく。	執筆する。	30
46	論文の執筆 1 2	写真や図などを効果的に取り入れて行く。	執筆する。	30
47	論文の執筆 1 3	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
48	論文の執筆 1 4	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
49	卒業研究発表会の準備 1	発表用のパワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
50	卒業研究発表会の準備 2	パワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
51	卒業研究発表会の準備 3	研究発表会の準備を進める。	パワーポイントの作成をする。	60
52	卒業研究発表会の準備 4	原稿を読み上げ、声の出し方、読む速度など確認する。	発表の練習をする。	60
53	卒業研究発表会リハーサル 1	機材を実際に操作し、不備がないか確かめる。他の研究分野と協力して、よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
54	卒業研究発表会リハーサル 2	よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
55	卒業研究発表会 1	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
56	卒業研究発表会 2	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
57	卒業研究発表会 3	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
58	卒業研究発表会 4	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
59	まとめ 1	提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる。	原稿を。よりよいものに仕上げる。	30
60	まとめ 2	自己確認シートの記入をとおして、これまでの卒業研究で学んだことを確認する。	原稿を。よりよいものに仕上げる。自身の成長を確かめる。	30

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	草野 葉子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	玩具や絵本その他の児童文化財や子どもの描画・造形活動と保育について制作を中心とした研究を行う。表現方法や素材活用の実験研究を通して、児童文化財や保育環境について作品制作過程から理解を深めるとともに新たな提案をめざす。研究は個人またはグループで行い、研究経過報告の機会を持ち相互に高め合う。			
<b>達成目標</b>	①テーマに基づき資料収集や制作実験に意欲的に取り組み、研究する姿勢を身に着ける。 ②表現方法や素材に関する知識を深め、かつ表現技術も向上させる。 ③研究成果に独自の視点または新たな取り組みを盛り込む。 ④研究過程や成果を分かりやすくまとめて発表することができる。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生。	<b>成績評価 方法</b>	研究成果40点（作品：30点・論文：10点）、平常点60点（研究態度・意欲・貢献度 各20点）	
<b>教科書</b>	教科書は使用せず、必要に応じて資料等を印刷し配布する。			
<b>参考書</b>	研究内容に応じて指示する。			
<b>学生への要望</b>	自ら課題をもって意欲的に取り組む。 資料収集、実験研究等課外の時間を積極的に活用する。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜から木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	研究課題を決めるⅠ-①	関心ある研究内容について発表し、学生相互に意識を高めあう。 取り組みたい内容について発表することにより、自分の研究テーマや意識を明確にする。	30
2	研究課題を決めるⅠ-②	関心ある研究内容について発表し、学生相互に意識を高めあう。 取り組みたい内容について発表することにより、自分の研究テーマや意識を明確にする。	30
3	研究課題を決めるⅡ-①	資料や参考作品の収集-その1 資料等を相互に紹介し、情報交換すると共に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	30
4	研究課題を決めるⅡ-②	資料や参考作品の収集-その1 資料等を相互に紹介し、情報交換すると共に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	30
5	研究課題を決めるⅢ-①	資料や参考作品の収集-その2 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究テーマを決める。	30
6	研究課題を決めるⅢ-②	資料や参考作品の収集-その2 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究テーマを決める。	30
7	研究活動の計画①	基礎研究・制作実験・中間発表(実践)・制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	30
8	研究活動の計画②	基礎研究・制作実験・中間発表(実践)・制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	30
9	論文書き方指導Ⅰ	論文の書き方指導Ⅰ ◎研究の基本的進め方と論文の基本的構成について。 ◎研究論理について。	20
10	基礎研究Ⅰ	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集-その1 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	基礎研究Ⅱ-①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その2 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	ここで計画した表現実験の内容を実現させる。また関係する資料等の収集を継続して行う。
12	基礎研究Ⅱ-②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その2 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	11回と同様の活動。
13	基礎研究Ⅲ-①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その3 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。 ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。	基礎研究の結果として得たものをまとめあげ、次回の視覚化に向けて使用素材を準備する。
14	基礎研究Ⅲ-②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その3 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。 ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。	13回と同様の活動。
15	制作実験Ⅰ-①	課題を具体化する—その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。	この回で実験目標とした内容を実現させる。
16	制作実験Ⅰ-②	課題を具体化する—その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。	15回と同様の内容。
17	制作実験Ⅱ-①	課題を具体化する—その2 制作実験の継続。	15回と同様の内容。
18	制作実験Ⅱ-②	課題を具体化する—その2 制作実験の継続。	15回と同様の内容。
19	制作実験Ⅲ-①	課題を具体化する—その③ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。
20	制作実験Ⅲ-②	課題を具体化する—その③ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。
21	制作実験Ⅳ-①	課題を具体化する—その④ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	基礎研究で取組んだ内容を発表できるよう完成させる。
22	制作実験Ⅳ-②	課題を具体化する—その④ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	21回と同様の活動。
23	制作実験Ⅴ-①	課題を視覚化する—その⑤「研究経過報告会」 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。	講評を参考に実験結果を見直し、中間発表できるようまとめる。
24	制作実験Ⅴ-②	課題を視覚化する—その⑤「研究経過報告会」 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。	23回と同様の内容。
25	中間発表Ⅰ-①	研究成果の中間発表の実施計画。 ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。	計画に基づき、中間発表の環境設定等準備を完了させる。
26	中間発表Ⅰ-②	研究成果の中間発表の実施計画。 ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。	25回と同様の活動。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
27	中間発表Ⅱ-①	研究中間発表を行う。 ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。	中間発表の記録を次回の結果報告に向けて整理する。
28	中間発表Ⅱ-②	研究中間発表を行う。 ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。	27回と同様の活動。
29	中間発表Ⅲ-①	中間発表の結果と考察。 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	中間発表の結果と考察をもとに、本研究に向けた関連資料の収集と実験材料の準備。
30	中間発表Ⅲ-②	中間発表の結果と考察。 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	29回と同様の活動。
31	制作Ⅰ-①	中間発表の検討考察をもとに本研究制作の構想を具体化する。 本作品構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。	中間発表の結果と考察から得た、本研究構想に関する資料の収集と実験材料の準備。
32	制作Ⅰ-②	中間発表の検討考察をもとに本研究制作の構想を具体化する。 本作品構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。	31回と同様の活動。
33	制作Ⅱ-①	本研究構想に基づき各自制作する。	ここで計画した内容を実現させる。参考となる資料と素材を収集する。
34	制作Ⅱ-②	本研究構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。
35	制作Ⅲ-①	本研究構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。
36	制作Ⅲ-②	本研究構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。
37	制作Ⅳ-①	本研究構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。
38	制作Ⅳ-②	本研究構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。
39	制作Ⅴ-①	本研究構想に基づき各自制作する。	完成予定を見据えて計画した段階までを実現させる。
40	制作Ⅴ-②	本研究構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。
41	制作Ⅵ-①	本研究構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。
42	制作Ⅵ-②	本研究構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。
43	制作Ⅶ-①	作品を完成させる。	不十分な点を確実に完成させる。
44	制作Ⅶ-②	作品を完成させる。	43回と同様の活動。
45	制作Ⅷ-①	完成作品の相互発表をする。 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。	助言をもとに具体的な対策と方法を検討する。必要に応じて素材を準備する。
46	制作Ⅷ-②	完成作品の相互発表をする。 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。	45回と同様の内容。
47	制作Ⅸ-①	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。	作品を完成させる。
48	制作Ⅸ-②	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。	47回と同様の活動。
49	論文書き方指導Ⅱ	論文の書き方指導Ⅱ ◎本文、「保育研究」の原稿の書き方指導。 ◎研究題目等の調査及び提出用USB配布。	論文に必要な研究資料や情報を確認し準備する。
50	研究まとめⅠ	書き方指導を基に発表原稿を作成する。 ◎研究経過及び成果をわかりやすく順序だてて整理する。 ◎資料写真の確認と撮影。	50回と同様の活動。発表用パワーポイントを作成する。
51	研究まとめⅡ-①	卒業研究発表の準備及び発表練習。 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。	作品の発表方法とパワーポイント内容の手直しをする。
52	研究まとめⅡ-②	卒業研究発表の準備及び発表練習。 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。	51回と同様の活動。
53	研究まとめⅢ-①	卒業研究発表会 研究成果を作品と共に発表する。	発表を振り返り、反省や他者からの学びをまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
54	研究まとめⅢ-②	卒業研究発表会 研究成果を作品と共に発表する。	53回と同様の活動。 20
55	研究まとめⅣ-①	卒業研究結果をまとめる-その① 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。	この回で計画したことを確実に言い終了させる。 30
56	研究まとめⅣ-②	卒業研究結果をまとめる-その① 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。	56回と同様の活動。 30
57	研究まとめⅤ-①	卒業研究結果をまとめる-その② ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。 ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	56回と同様の活動。 30
58	研究まとめⅤ-②	卒業研究結果をまとめる-その② ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。 ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	56回と同様の活動。 30
59	研究まとめⅥ-①	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。	この回で計画したことを確実に言い終了させる。 20
60	研究まとめⅥ-②	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。	卒業研究の本文・保育研究の内容確認を行い、規定の時間に遅れず提出する。 20

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	健康増進科学の基本的な考え方と健康増進活動の実践について、現在の子どもたちの健康問題から課題を捉える。健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容を地域における生活環境の視点から学習をする。具体的には、健康問題に関する情報収集・分析・アセスメントをし、その結果から問題解決に向けた効果的なアプローチを立案・実施・評価といった一連の課程を行う。 [授業の目的・ねらい] 教育の専門職として課題を捉え、その課題を研究的視点で追及をする。			
<b>達成目標</b>	1) 文献検索方法を理解する。 2) 研究の方法を理解する。 3) 文章やパワーポイントにより効果的に伝えることができる。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科学生2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点、研究成果40点	
<b>教科書</b>	宗像恒次著『行動科学からみた健康と病気』 メディカルフレンド社 2000年			
<b>参考書</b>	全国保育園保健師看護師連絡会『保育のなかの健康教育』2018年			
<b>学生への要望</b>	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。講義以外の時間を費やすことが多いと思いますが、課題を追求するため、熱意と積極的姿勢で参加して下さい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 V時限 (16:10~17:40) 832研究室 木曜日 I時限 (8:50~10:20) 832研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	卒業研究の概要1	卒業研究の進め方、メンバーの紹介等。 研究とは何か、について理解する	現在の子どもの健康課題について書籍・新聞等を通して調べる	0
2	卒業研究の概要2	研究の進め方について	具体的な教育方法について書籍等を通し考える	0
3	研究課題について1	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する	教材研究	0
4	研究課題について2	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する	教材研究	0
5	研究課題の明確化と概念枠組み1	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	0
6	研究課題の明確化と概念枠組み2	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	0
7	研究方法と研究デザインの選定1	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	0
8	研究方法と研究デザインの選定2	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	0
9	研究方法のデータ収集と分析1	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	0
10	研究方法のデータ収集と分析2	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	0
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際1	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする	教材研究	0
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際2	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする	教材研究	0
13	倫理的配慮について1	研究における倫理的配慮について	教材研究	0
14	倫理的配慮について2	研究における倫理的配慮について	教材研究	0
15	文献検索のプロセス1	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	0
16	文献検索のプロセス2	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	0
17	研究計画書の作成1	研究計画書の作成	教材研究	0
18	研究計画書の作成2	研究計画書の作成	教材研究	0
19	研究の実際①	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
20	研究の実際②	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
21	研究の実際③	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
22	研究の実際④	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
23	研究の実際⑤	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
24	研究の実際⑥	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
25	研究の実際⑦	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
26	研究の実際⑧	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
27	研究の実際⑨	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
28	研究の実際⑩	健康教育の教材作成をする	教材研究	0
29	研究の実際⑪	健康教育の教材作成をする	教材研究	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
30	研究の実際②	健康教育の教材作成をする	教材研究 0
31	中間発表の準備①	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究 0
32	中間発表の準備②	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究 0
33	中間発表①	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究 0
34	中間発表②	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究 0
35	研究成果の振り返り①	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する	教材研究 0
36	研究成果の振り返り②	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する	教材研究 0
37	研究成果の振り返り③	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究 0
38	研究成果の振り返り④	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究 0
39	フィールドワークの準備①	フィールドワークの準備をする	教材研究 0
40	フィールドワークの準備②	フィールドワークの準備をする	教材研究 0
41	フィールドワークの実際③	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする 0
42	フィールドワークの実際④	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする 0
43	研究論文の執筆準備①	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成 0
44	研究論文の執筆準備②	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成 0
45	研究論文の執筆活動①	研究論文の執筆	論文作成 0
46	研究論文の執筆活動②	研究論文の執筆	論文作成 0
47	研究論文の執筆活動③	研究論文の執筆と発表（プレゼンテーション）の準備	論文作成 0
48	研究論文の執筆活動④	研究論文の執筆と発表（プレゼンテーション）の準備	論文作成 0
49	研究論文の執筆活動⑤	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成 0
50	研究論文の執筆活動⑥	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成 0
51	研究発表の練習①	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成 0
52	研究発表の練習②	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成 0
53	研究発表①	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り 0
54	研究発表②	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り 0
55	研究のまとめ①	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成 0
56	研究のまとめ②	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成 0
57	研究のまとめ③	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成 0
58	研究のまとめ④	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成 0
59	論文提出と今後の課題①	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成 0
60	論文提出と今後の課題②	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成 0

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
<b>担当教員</b>	小林 徹			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	この卒業研究では、子どもの生活や成長に関わる種々の問題を扱う。具体的には、障がい児や支援の必要な子どもへの対応、虐待や家庭内暴力などの問題について、文献研究やフィールドワークによって、理解を深める。Ⅲ期は、全員そろってのフィールドワークと文献購読を行い、Ⅳ期は、研究論文の執筆に向けた研究を行う。もみじ会での展示、卒業研究発表会での発表、研究倫理を十分に踏まえた研究論文の執筆と冊子「保育研究」の原稿執筆と全員で協力して進めていく。			
<b>達成目標</b>	1. メンバーと協力して研究テーマを設定できたか。 2. 積極的にフィールドワークや文献研究等に取り組むことができたか。 3. もみじ会や卒業研究発表会等でメンバーと協力して準備し、積極的に発表できたか。 4. 年間を通して研究に真摯に取り組み、論文をまとめることができたか。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	平常点（研究態度、議論への参加）60% 展示、発表、研究成果40%	
<b>教科書</b>	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016			
<b>参考書</b>	玉井邦夫『〈子どもの虐待〉を考える』講談社現代新書, 2001			
<b>学生への要望</b>	授業を休まず、予復習も怠らない、やる気のある学生の履修を希望する。			
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16:10~17:05、822研究室、それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ、研究方法の指導、年間予定の確認	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
2	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ、研究方法の指導、年間予定の確認	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
3	フィールドワーク1	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
4	フィールドワーク1	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
5	フィールドワーク2	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
6	フィールドワーク2	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
7	フィールドワーク3	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
8	フィールドワーク3	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
9	フィールドワーク4	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
10	フィールドワーク4	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
11	フィールドワーク5	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
12	フィールドワーク5	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
13	フィールドワーク6	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
14	フィールドワーク6	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
15	フィールドワーク7	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
16	フィールドワーク7	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
17	フィールドワーク8	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
18	フィールドワーク8	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
19	フィールドワーク9	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
20	フィールドワーク9	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
21	フィールドワーク10	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
22	フィールドワーク10	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り
23	フィールドワークのまとめ	見学後のレポートの提出。再構成担当者を決めて、まとめを作成する。	事前：フィールドワークのまとめ 事後：内容の振り返り
24	フィールドワークのまとめ	見学後のレポートの提出。再構成担当者を決めて、まとめを作成する。	事前：フィールドワークのまとめ 事後：内容の振り返り
25	テキスト購読1	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備
26	テキスト購読1	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備
27	テキスト購読2	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備
28	テキスト購読2	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備
29	これまでのまとめと研究活動計画	これまでの内容を振り返る。研究テーマの内容と活動計画を立案する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
30	これまでのまとめと研究活動計画	これまでの内容を振り返る。研究テーマの内容と活動計画を立案する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
31	研究テーマの決定	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法の検討。取り組みたい内容や研究テーマを検討する。資料や参考書を持ち寄り、研究テーマ決定。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
32	研究テーマの決定	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法の検討。取り組みたい内容や研究テーマを検討する。資料や参考書を持ち寄り、研究テーマ決定。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
33	研究活動1	もみじ会での展示発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
34	研究活動1	もみじ会での展示発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
35	研究活動2	もみじ会での展示発表に向けた準備を行う。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
36	研究活動2	もみじ会での展示発表に向けた準備を行う。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
37	中間発表	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
38	中間発表	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
39	研究活動3	中間発表「もみじ会」での反省をもとに、研究内容の検討を行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
40	研究活動3	中間発表「もみじ会」での反省をもとに、研究内容の検討を行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
41	研究活動4	これまでの研究成果を振り返り、今後の研究の方向性を定める。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
42	研究活動4	これまでの研究成果を振り返り、今後の研究の方向性を定める。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
43	論文執筆の準備	研究テーマを卒研担当者に提出。研究論文の構成を考える。研究倫理の説明。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
44	論文執筆の準備	研究テーマを卒研担当者に提出。研究論文の構成を考える。研究倫理の説明。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
45	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察。発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。論文のフォーマットを知る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
46	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察。発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。論文のフォーマットを知る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
47	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察。研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
48	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察。研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
49	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察 発表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
50	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察 発表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
51	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
52	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
53	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
54	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
55	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
56	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
57	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
58	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備
59	論文提出	「卒業研究論文」冊子原稿、及び「保育研究」の原稿の提出	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省
60	論文提出	「卒業研究論文」冊子原稿、及び「保育研究」の原稿の提出	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	ポール パーナミィ		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed 総合英語コミュニケーション. Students should have a strong curiosity in becoming proficient in computers and software. Students should have high level art skills which they would like to develop into computer production. Students should be able to understand and follow instructions for completing tasks on time and as a team. Students should be able to lead other students by example.  ①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。 ②課題を解決するための方法を身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。 ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。		
<b>達成目標</b>	GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to improve computer skills, enhance presentation ability and gain confidence. 2. Moreover, required material and homework will include communication tasks to establish and develop an overall practical ability. 3. Students will research topics through oral, visual and final paper submission. 4. The teacher will use demonstrations of steps involved to achieve desired results. We will use Active Learning, students will then complete tasks together and on their own to demonstrate understanding and follow through of concepts.		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	適宜推薦		
<b>学生への要望</b>	Don't miss class. Be attentive. Use your computer for assignments. Use 120 minutes of homework drawing each class. Review the supplements provided for this class.  ○グループで学びあうルールやマナーを守る。 ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。		
<b>オフィスタイム</b>	時間：火・木の 13:00~17:00 時限 場所：83年館 3F 837研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション Orientation	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○1年間の日程確認 Introductions. Talk of schedule and goals of class. Inform students of tools, use of computers, available material and other features	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Review the booklet of samples. Review the booklet of how do gradations. 120
2	オリエンテーション Orientation	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○1年間の日程確認 We will watch demonstration and begin use of software. Students will use Microsoft Word along with instruction to begin first assignment while	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. 120
3	研究課題について Research Discussion	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する Demonstrate available tools and methods for optimal research. Give examples of research and discuss how we might use our research in a	Review the software ideas we will be using. Demonstrate to others and begin drawing on your own. 120
4	研究課題の明確化と概念枠 組み Clarification of Research	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する  Define and narrow search. Demonstrate software and how to use for presenting information.	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge. 120
5	研究課題の明確化と概念枠 組み Clarification of Research	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する  Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge. 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Research selection comprehension, explain the point of the research. Class will demonstrate their use in class situation.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. 120
7	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Class will demonstrate their use in class situation. We will talk about selection of first video. We will prepare materials for video. We will edit material.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. 120
8	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Continue editing material.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. 120
9	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Use feedback to consider the process.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. 120
10	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする Refine and edit material. Discussion of ideas for poster.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. 120
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする Refine and edit material. Discussion of ideas for Momijikai.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. 120
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする Refine and edit material. Build 3-d art from research material. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation. 120
13	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする Refine and edit material. Continue building 3-d art from research material. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation. 120
14	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について Considering ethics while researching. Give examples of acceptable and unacceptable use of outside sources. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation. 120
15	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について Considering ethics while researching. Demonstrate understanding of acceptable and unacceptable outside sources. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation. 120
16	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する Research protocol and review.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation. 120
17	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する Research protocol and review. Poster concepts discussed.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster. 120
18	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster. 120
19	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster. 120
20	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster. 120
21	研究の実際① Research	教材作成をする。 Research continues.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
22	研究の実際① Research	教材作成をする。 Research continues.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
23	研究の実際① Research	教材作成をする。 Research continues.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	研究の実際① Research	教材作成をする。 Research continues. Duties related to Momijikai are clarified.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
25	研究の実際① Research	教材作成をする。 Research continues. Design elements ready for production.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
26	研究の実際② Research	教材作成をする。 Research continues. Design elements ready for production.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
27	研究の実際② Research	教材作成をする。中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
28	研究の実際② Research	教材作成をする。中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
29	研究の実際② Research	教材作成をする。中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
30	研究の実際② Research	教材作成をする。中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
31	研究の実際② Research	教材作成をする。中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
32	研究の実際③ Research	教材作成をする。中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. 120
33	研究の実際③ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. 120
34	研究の実際③ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. 120
35	研究の実際③ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. 120
36	研究の実際③ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. 120
37	研究の実際④ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. 120
38	研究の実際④ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. 120
39	研究の実際④ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. 120
40	研究の実際⑤ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. 120
41	研究の実際⑥ Research	教材作成をする。 Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
42	研究の実際⑥ ResearchIntermediate Presentation Activity	教材作成をする。 PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
43	研究の実際⑥ ResearchDemonstration	教材作成をする。 Demonstrate activity for group. Talk about changes or additions to activity. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
44	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
45	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
46	研究を進める Research Advancement	必要に応じて、足りない資料の収集をする。 Continue to add and demonstrate changes to research. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
47	研究を進める Research Advancement	本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。 Continue to add and format changes to research. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
48	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
49	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
50	卒業研究のまとめ1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
51	卒業研究のまとめ1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
52	卒業研究のまとめ1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
53	卒業研究のまとめ2 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
54	卒業研究発表準備1 Research Editing	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are practicing PowerPoint presentation.	120
55	卒業研究発表準備2 Research Editing 2	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are giving PowerPoint presentation.	120
56	卒業研究発表 Research Announcement	卒業研究の発表プレゼンテーション Editing is being completed, demonstration is being completed. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are giving PowerPoint presentation.	120
57	論文作成1 Editing Finalizing 1	論文の作成 Writing is being finalized. Animation edited.	We are editing reports. We are editing designs for final presentation. We have designs for wall art.	120
58	論文作成2 Editing Finalizing 2	論文の作成 Writing is being finalized. Animation edited.	We are editing reports. We are editing designs for final presentation. We have designs for wall art.	120
59	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	We are editing final reports.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
60	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	We are editing final reports. 120

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	猪股 照子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>子ども共に楽しむ劇遊びを、台本・小道具・衣装などの作製を通して一つの劇を作る。          学生同士の協同による活動と実際に子どもたちに触れ合う活動を学びの場として記録を重ね、卒業研究発表とする。          ○現場に出かけて劇遊びを一緒に楽しむ。また、子どもとの関わり方も劇遊びの中から学ぶ。          ○子どもの姿を見ながら、写真や記録をとる。          ○音楽・造形・体育で学んだことを、この研究に活かしていけるようにする。          ○訪問時の写真やDVDの取り扱いには注意する。保育所・幼稚園勤務歴40年の中で、培った幼児理解や保護者対応の仕方や保育者の幼児に対する関わり方や姿また、環境の設定等を授業で進めていく。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>学生同士の協同による活動と実際に子どもたちに触れ合う活動を学びの場として記録を重ね、卒業研究発表とする。          ○現場に出かけて劇遊びを一緒に楽しみ、その中から関わり方を知る。          ○子どもの姿を見ながら、訪問後の反省を重ね、写真や記録をとるいく。の2つである。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点(出席、取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度等)60点 成果(研究発表、本文、『保育研究』原稿)40点	
<b>教科書</b>	教科書は、使わずプリントを配布する。			
<b>参考書</b>	適宜推薦			
<b>学生への要望</b>	<p>○グループで学びあい、ルールやマナーを守る。          ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。          ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。          ○毎回、活動前と後のミーティングを行う。          ○日々の反省ノートを作成する。(輪番)          ミーティング内容(事前・事後学修)          事前学修： 自己の役割を認識し、それに向けて毎回の準備をして授業に臨む          事後学修： 時間外活動を有効に生かし、毎回課題に対する復習をする。活動の振り返りを行う。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	<p>時間： 火・水・木の午後          場所： 83年館3F 831研究室</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○リーダー・サブリーダーの選出 ○1年間の日程確認	60
2	テーマの選択1	○話し合い ○資料検索	60
3	テーマの選択2	○話し合い ○資料検索 ○附属幼稚園訪問について	60
4	テーマの選択3	○話し合い ○資料検索 ○附属幼稚園訪問について	60
5	第1回附属幼稚園訪問	○訪問内容約30分 ○遊びを通して子どもとのやりとりを学ぶ ○ビデオ・写真・記録	60
6	第1回附属幼稚園訪問	○ビデオ・写真・記録○話し合い	60
7	附属幼稚園訪問の反省	○ビデオ視聴をして反省・話し合いをし次の学びとする。 ○第2回附属幼稚園訪問について	60
8	附属幼稚園訪問の反省	○第2回附属幼稚園訪問について話し合い	60
9	第2回附属幼稚園訪問	○役30分の訪問内容 ○遊びを通して子どもとのやりとりを学ぶ ○ビデオ・写真記録	60
10	第2回附属幼稚園訪問	○ビデオ・写真記録 ○話し合い	60
11	附属幼稚園訪問の反省	○ビデオ視聴を通して反省・話し合いをし、次の学びとする。 ○テーマの台本作製完成・配役を決める。	60
12	附属幼稚園訪問の反省	○ビデオ視聴を通して反省・話し合いをし、次の学びとする。 ○テーマの台本作製完成・配役を決める。	60
13	台本の読み合わせ	○台本の読み合わせをする。 ○実際に表現する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	台本の読み合わせ	○台本の読み合わせをする。 ○実際に表現する。	役作りの練習をする 60
15	第3回附属幼稚園訪問	○子どもたちの前で演じてみる。 ○子どもと歌あそび ○ビデオ・写真記録 ○劇に必要な小道具・衣装・小道具などの話し合い。 (子どもへどのように作製させるか)	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 60
16	第3回附属幼稚園訪問	○子どもたちの前で演じてみる。 ○子どもと歌あそび ○ビデオ・写真記録 ○劇に必要な小道具・衣装・小道具などの話し合い。 (子どもへどのように作製させるか)	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 60
17	附属幼稚園の反省	○ビデオを視聴して反省・話し合いをし次の学びとする。 ○制作・練習	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 60
18	附属幼稚園の反省	○ビデオを視聴して反省・話し合いをし次の学びとする。 ○制作・練習	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 60
19	制作・練習①	○劇の小道具・衣装作製 ○練習・音楽の選定	劇についての役・小道具等の振り返りをする 60
20	制作・練習②	○劇の小道具・衣装作製 ○練習・音楽の選定	劇についての役・小道具等の振り返りをする 60
21	もみじ会準備(チャイルドシアター)①	○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見通し、全体のプログラムを作る。 ○発表会場の環境を整え、練習やりハーサルスケジュールを作る。	劇についての役・小道具等の振り返りをする 90
22	もみじ会準備(チャイルドシアター)①	○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見通し、全体のプログラムを作る。 ○発表会場の環境を整え、練習やりハーサルスケジュールを作る。	劇についての役・小道具等の振り返りをする 90
23	第4回附属幼稚園訪問・反省・もみじ会準備	○附属幼稚園の訪問を通しもみじ会へ活かせるようにする。 ○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 90
24	第4回附属幼稚園訪問・反省・もみじ会準備	○附属幼稚園の訪問を通しもみじ会へ活かせるようにする。 ○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 90
25	第5回附属幼稚園訪問・反省・もみじ会準備	○附属幼稚園の訪問を通しもみじ会へ活かせるようにする。 ○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 90
26	第5回附属幼稚園訪問・反省・もみじ会準備	○附属幼稚園の訪問を通しもみじ会へ活かせるようにする。 ○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする 90
27	もみじ会準備(チャイルドシアター)	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。 ○準備中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。 ○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。	もみじ会に向けて本日の振り返りをしまとめておく 90
28	もみじ会準備(チャイルドシアター)	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。 ○準備中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。 ○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。	もみじ会に向けて本日の振り返りをしまとめておく 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
29	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。	もみじ会に向けて本日の振り返りをし まとめておく
30	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。	もみじ会に向けて本日の振り返りをし まとめておく
31	第6回附属幼稚園訪問・反省	○子どもたちの前で演じてみる。 ○子どもと歌あそび ○ビデオ・写真記録	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする
32	第6回附属幼稚園訪問・反省	○子どもたちの前で演じてみる。 ○子どもと歌あそび ○ビデオ・写真記録	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする
33	第7回附属幼稚園訪問・反省	○附属幼稚園訪問の記録まとめ ○子どもたちと歌遊び触れ合い遊び	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする
34	第7回附属幼稚園訪問・反省	○附属幼稚園訪問の記録まとめ ○子どもたちと歌遊び触れ合い遊び	附属幼稚園訪問の卒研メンバー内の反省をもとに振り返りをする
35	卒研発表へ向けての練習1	○附属幼稚園訪問の記録まとめ	卒研論文の見直し
36	卒研発表へ向けての練習2	○附属幼稚園訪問記録のまとめ	卒研論文の見直し
37	卒研発表へ向けての練習3	○附属幼稚園訪問記録のまとめ	卒研論文の見直し
38	卒研発表へ向けての練習4	○附属幼稚園訪問記録のまとめ	卒研論文の見直し
39	卒研発表へ向けての練習5	○記録のまとめ・発表練習	卒研論文の見直し
40	卒研発表練習	○発表に向けての練習をする。	卒研論文の見直し
41	卒研発表練習	○発表に向けての練習をする。	卒研論文の見直し
42	卒研発表練習	○発表練習をする。	卒研論文の見直し
43	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
44	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
45	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
46	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
47	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
48	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
49	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
50	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
51	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
52	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする 論文作成	卒研論文の見直し
53	卒研発表会	○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。 ○作品の発表を観て頂く。 ○記録(VTR、DVD、写真等)を撮る。	発表までの確認
54	卒研発表会	○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。 ○作品の発表を観て頂く。 ○記録(VTR、DVD、写真等)を撮る。	発表までの確認
55	論文提出のための準備	卒研発表会の反省と振り返りをする。論文最終確認。印刷・製本	卒研論文の見直し
56	論文提出のための準備	卒研発表会の反省と振り返りをする。論文最終確認。印刷・製本	卒研論文の見直し
57	論文提出のための準備	卒研発表会の反省と振り返りをする。論文最終確認。印刷・製本	卒研論文の見直し
58	論文提出のための準備	卒研発表会の反省と振り返りをする。論文最終確認。印刷・製本	卒研論文の見直し
59	論文提出のための準備	卒研発表会の反省と振り返りをする。論文最終確認。印刷・製本	卒研論文の見直し
60	論文提出のための準備	卒研発表会の反省と振り返りをする。論文最終確認。印刷・製本	卒研論文の見直し

平成31年度

<b>科目名</b>	子どもの保健Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>保育現場における子どもの保健を実践できる能力の育成を図る。「子どもを踏まえた保育環境や援助について学修する。助産師・看護師として医療者の体調不良等に対する適切な対応、感染症対策、健康及び安全管理の体 [授業の目的・ねらい] 「子どもの保健」の基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健全の管理について知識・技術を学ぶ。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2) 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策に 3) 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。 4) 保育における感染症対策について具体的に理解する。 5) 保育における保健的対応の基本的な考えを踏まえ、子どもの発達や状態 6) 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画及び</p>		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	
<b>教科書</b>	松本峰雄監修『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※随時、資料配布		咲間
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
<b>学生への要望</b>	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や義は積極的にのぞむことを期待する。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：30） 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	
1	感染症対策	<p>1) 感染症の集団発生の予防 2) 感染症発生時と罹患後の対応 ※長時間生活する保育所等の施設は、子どもたちにとり過ごしやすく、安全・衛生的な環境を整えることの大切さを理解する。病気の予防や感染症拡大を防止する衛生管理を学ぶ。</p>
2	子どもの体調不良等に対する適切な対応①	<p>1) 子どもの状態観察と評価 ※子どもの生理機能を理解して、子どもの状態観察と評価を学ぶ。</p>
3	子どもの体調不良等に対する適切な対応②	<p>1) 薬の与え方 2) 体調不良や傷害が発生した場合の対応 ※健康状態の観察と薬の与え方について学び、正しく行うことを身につける。</p>

4	子どもの体調不良等に対する適切な対応③	1) 救急処置や救急蘇生法 2) 応急処置 ※乳幼児救急蘇生法の方法について理解し、包帯や三角布を利用した応急処置を実践する。
5	保育における健康及び安全の管理	1) 保育における保健的対応の基本的な考え方 2) 保育における健康を促進する関わり 3) 個別的な配慮を要する子ども・障害のある子どもへの対応 ※慢性疾患やアレルギー疾患等をもちながら生活する子どもと家族支援の方法を学ぶ。子どもなりの成長・
6	保育における保健的対応	1) 衛生管理 2) 事故防止及び安全対策 3) 危機管理と災害への備え ※教育・保育施設における事故防止と安全対策の必要を理解し、危機管理と災害への備えの重要性を学ぶ。
7	健康及び安全の管理の実施体制	1) 職員間の連携・協働と組織的取組 2) 保育における保健活動の計画及び評価 3) 母子保健・地域保健における自治体との連携 4) 家庭、専門機関、地域の関係機関との連携 ※子どもの育ちや子育て支援制度、地域の社会資源や関係機関について理解する
8	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	1) 子どもの健康と保育環境(身体計測と評価) 2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理 3) 子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理 ※子どもの健康の維持・増進にむけ保健計画を作成し、職員全体でねらいと目的を共通理解して実践していくことを理解する。保健計画および成長・発達の評価の資料となる身体計測の技術と留意点を学ぶ。

育学科 2年 1単位 選択

の保健」で学んだ内容を基礎として、保育における保健的観点  
機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子ど  
制について授業を行う。

康管理や成長・発達を促す養護技術・保育における健康及び安

ついて、具体的に理解する。

等に即した適切な対応について具体的に理解する。  
評価等について具体的に理解する。

筆記試験60点、レポート40点

まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2018年

相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講

### 授業内容

『2018年改訂版、保育所における感染症対策ガイドライン』（平成30年3月厚生労働省）をよく読む	0
教科書をよく読み学びを深める	0
家庭生活にある薬の種類と使用方法を調べる	0

救急蘇生法について教科書を用いて学修する	0
教科書をよく読み学びを深める	0
『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）をよく読む	0
『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』（平成23年3月厚生労働省）をよく読む	0
子どもの健康を増進するために必要な「保健たより」を作成する	0